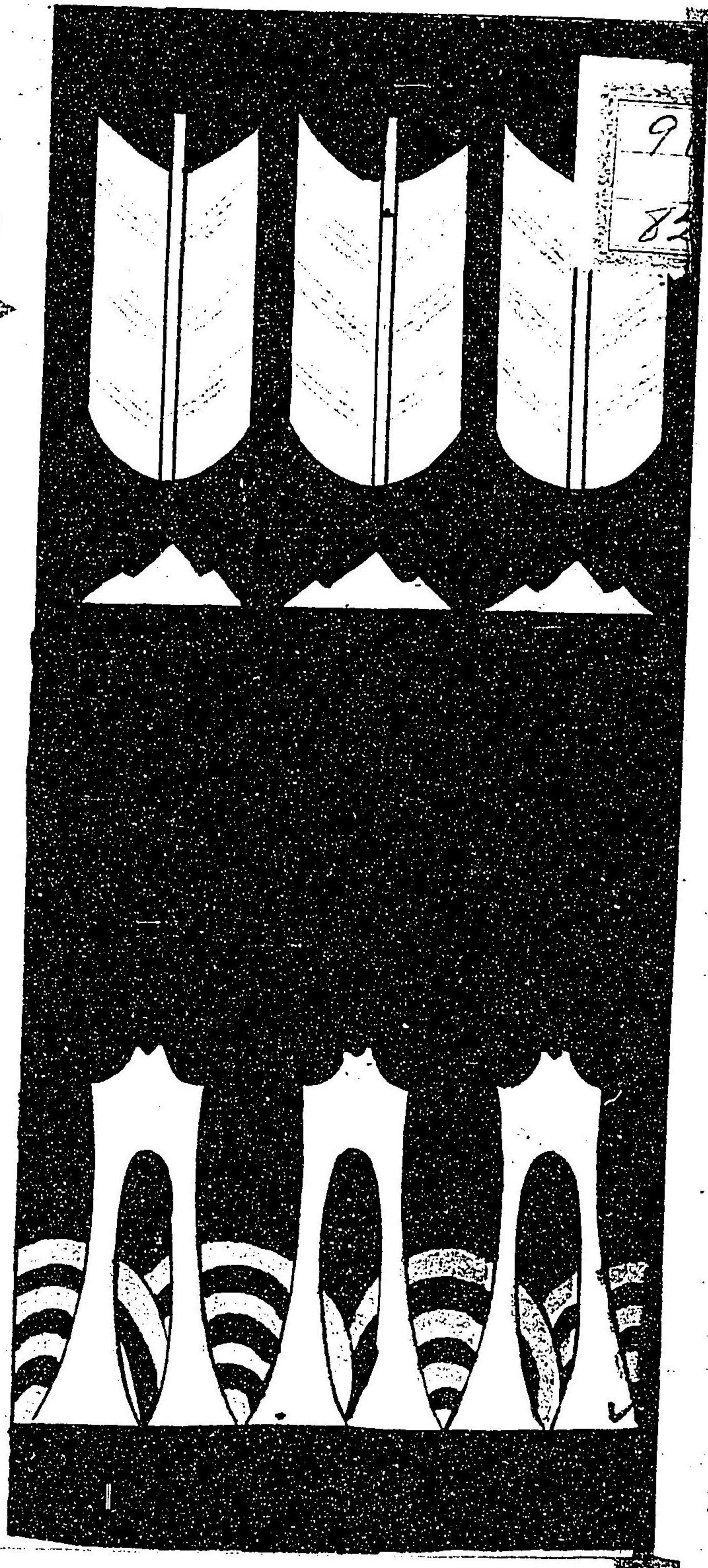


秋  
田  
案  
内  
全



中國茶業聯合會  
註冊商標

TRADE MARK



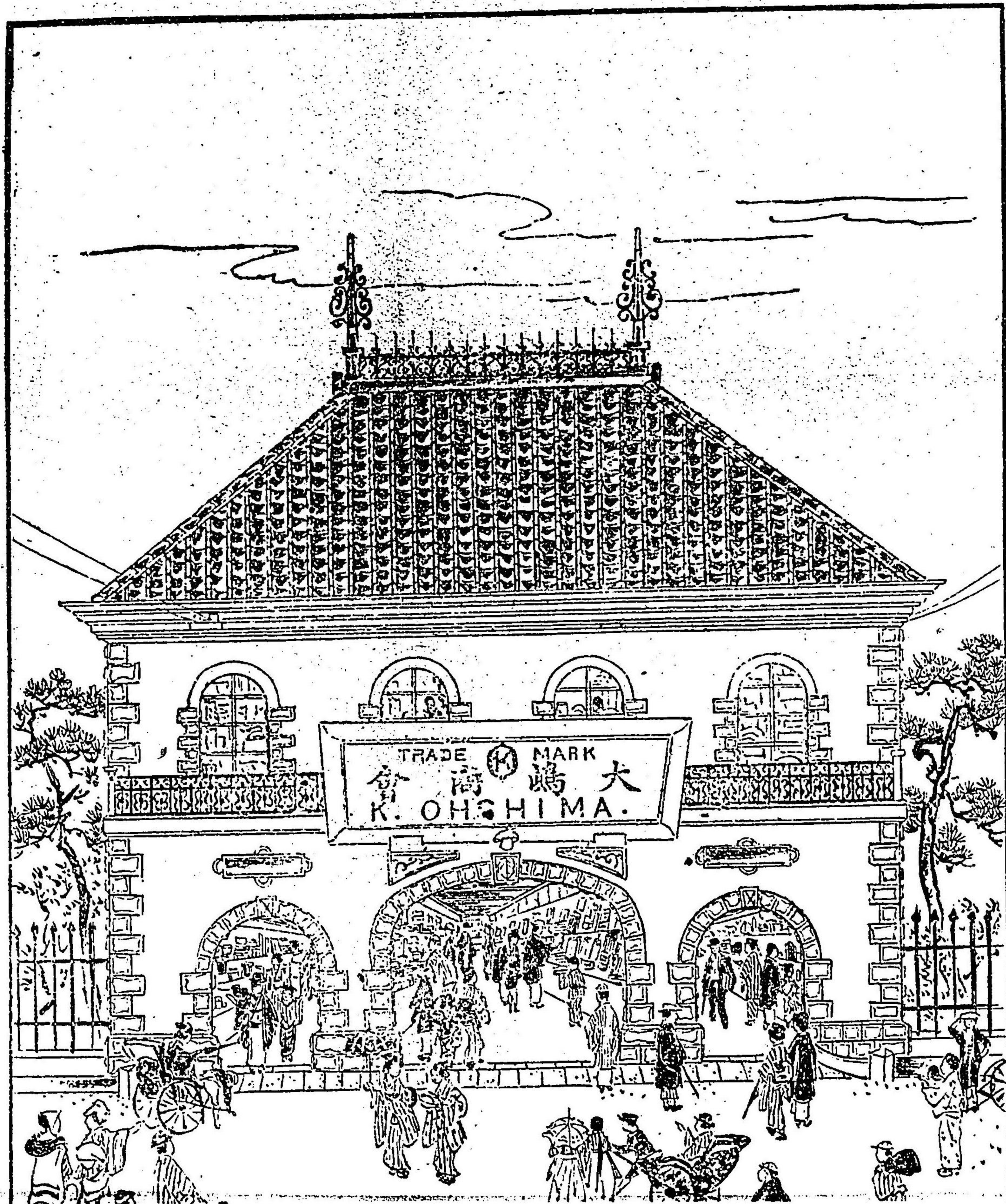
高標

登錄

鳳 問 種 標

大 鳴 齋 庄

秋 田 市 茶 町





町 着 下 市 田 秋

# 會 商 嶋 大

# 廣告

●營業の方針 當商會より委託せられたる商品は委託者より指定の正價を附し當商會特得の奇匠ある意匠を以て顧客の注意を惹く様可取計且つ店舗の樓上樓下より商品を陳列し併せて縣内各地及他府縣へも輸出の便宜を計るべし

●委託者の便利 當商會店舗の構造は白熱製鍊瓦を用ひ歐米最新式の構造なるを以て安全として火災盜難の患なく又委託品に對しては金融の便を計り百方其要求に應ずべく殊に全國の大商店と業務上の聯絡十分なるを以て販路擴張上百般の御相談に應ずべし

## ●目下の委託品

▲各地産漆器 京都、名古屋、濱松、静岡、函根、金澤、輪嶋等の諸産物 ▲秋田産精製漆 ▲秋田産八丈織 ▲地織縞木綿 ▲龜田せんまい織 ▲各地産陶器 ▲自轉車下表に掲げし如く殆んど歐米各國の流行諸式を網羅し盡せり

秋田市下着町

委託商  大嶋商會

自轉車定價表  
最新式クランク用  
同トトラック用  
赤タイヤウエスト125號  
白タイヤウエスト號  
レロイ號  
同トトラック用



— グランド號  
— ランブラー號  
— アイデール號  
— ベナント號  
— 英國製最上  
— ラツエトフオース  
— 外附品一式

# 廣告

の方針 當商會は委託せられたる商品は委託者よ  
 の正價を附し當商會特得の奇匠かる意匠を以て顧  
 意を惹く様可取計且つ店舗の樓上樓下は商品を陳  
 せて縣内各地及他府縣へも輸出の便宜を計るべし  
 者の便利 當商會店舗の構造は白熱製鍊瓦を用ひ  
 新式の構造なるを以て安全にして火災盜難の患を  
 托品に對しては金融の便を計り百方其要求に應ず  
 全國の大商店と業務上の聯絡十分なるを以て販  
 上百般の御相談に應ずへし

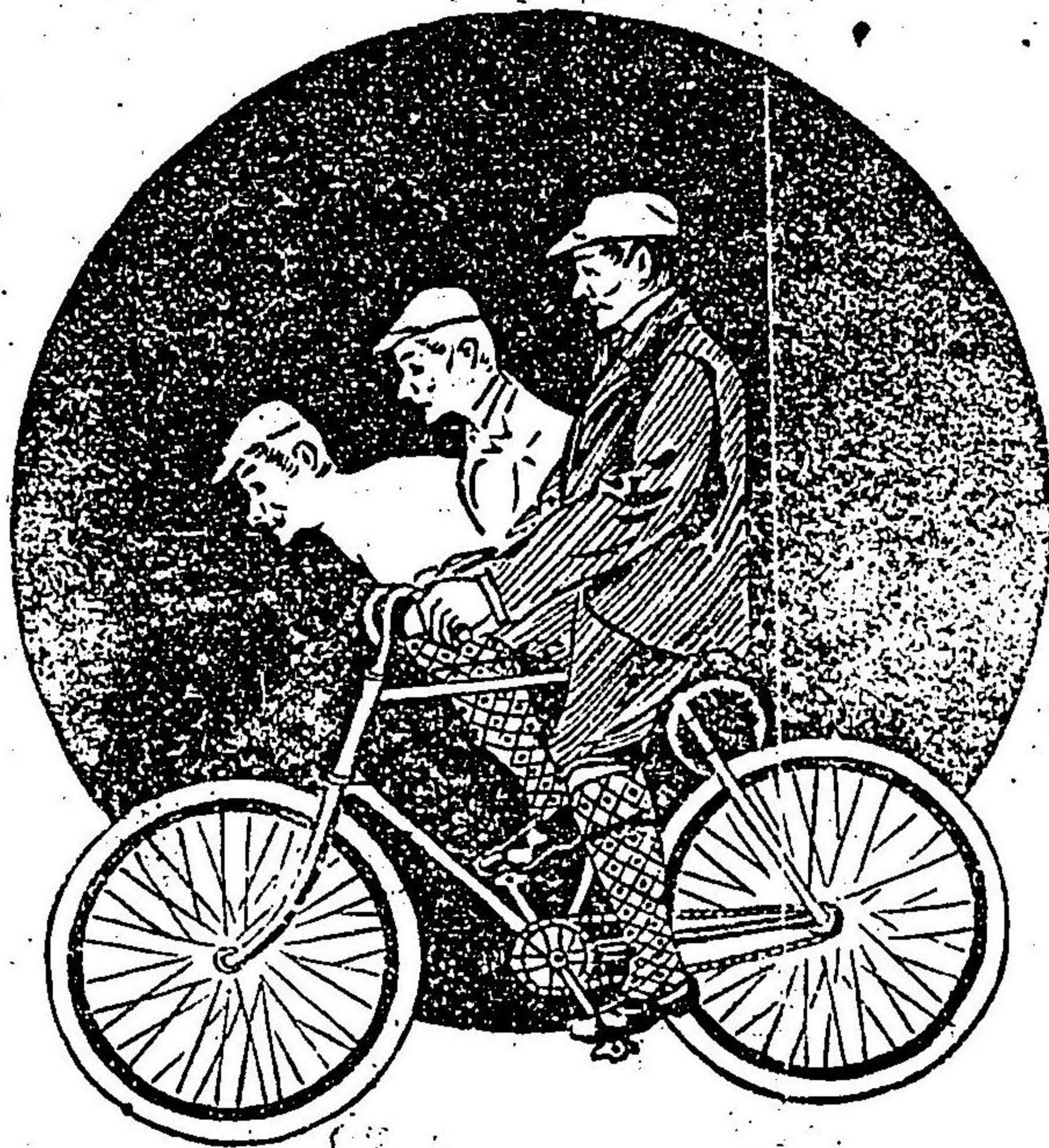
## ●目下の委託品

地産漆器 京都、名古屋、濱松、静岡、函根、金澤、輪嶋  
 産物 ▲秋田産精製漆 ▲秋田産八丈織 ▲地織縞木綿  
 田せんまい織 ▲各地産陶器 ▲自轉車下表に掲げし如  
 んと歐米各國の流行諸式を網羅し盡せり

秋田市下着町

委託商  大嶋商會

自轉車定價表  
 最新式クワグランド號 金百六拾五圓  
 同トラク用 金百八拾五圓  
 赤ダイヤウエスト125號 金百三拾五圓  
 白ダイヤウエスト號 金百三拾圓  
 レロイ號 金百圓  
 同トラク用 金百六拾五圓



— グランド號 金百五拾五圓  
 — ランブラー號 金百三拾圓  
 — アイデール號 金七拾五圓  
 — ペナント號 金八拾五圓  
 — 英國製最上 金貳百圓  
 — ラツエトフオーズ 拾圓の貳種  
 外附屬品一式 金貳百圓と貳百七



# 取 扱 業 務

品	軍	雜	運	倉	薪	米	金
等	事	貨	送	庫	炭	穀	穀
請	糧	賣	業	業	賣	賣	貸
負	食	買			買	買	借

無 限 責 任

## 本 郷 商 會

本店 秋田縣平鹿郡角間川町

支店 秋田市馬口勞町

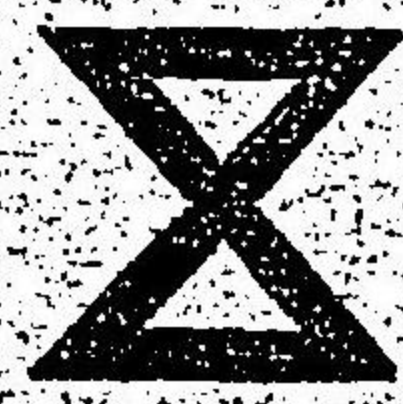


內外砂糖茶紙  
石油諸雜貨

販賣

秋田市茶町菊之丁

三浦傳六



土崎港上酒田町

全支店

延命

櫻正宗

醬油

和洋酒

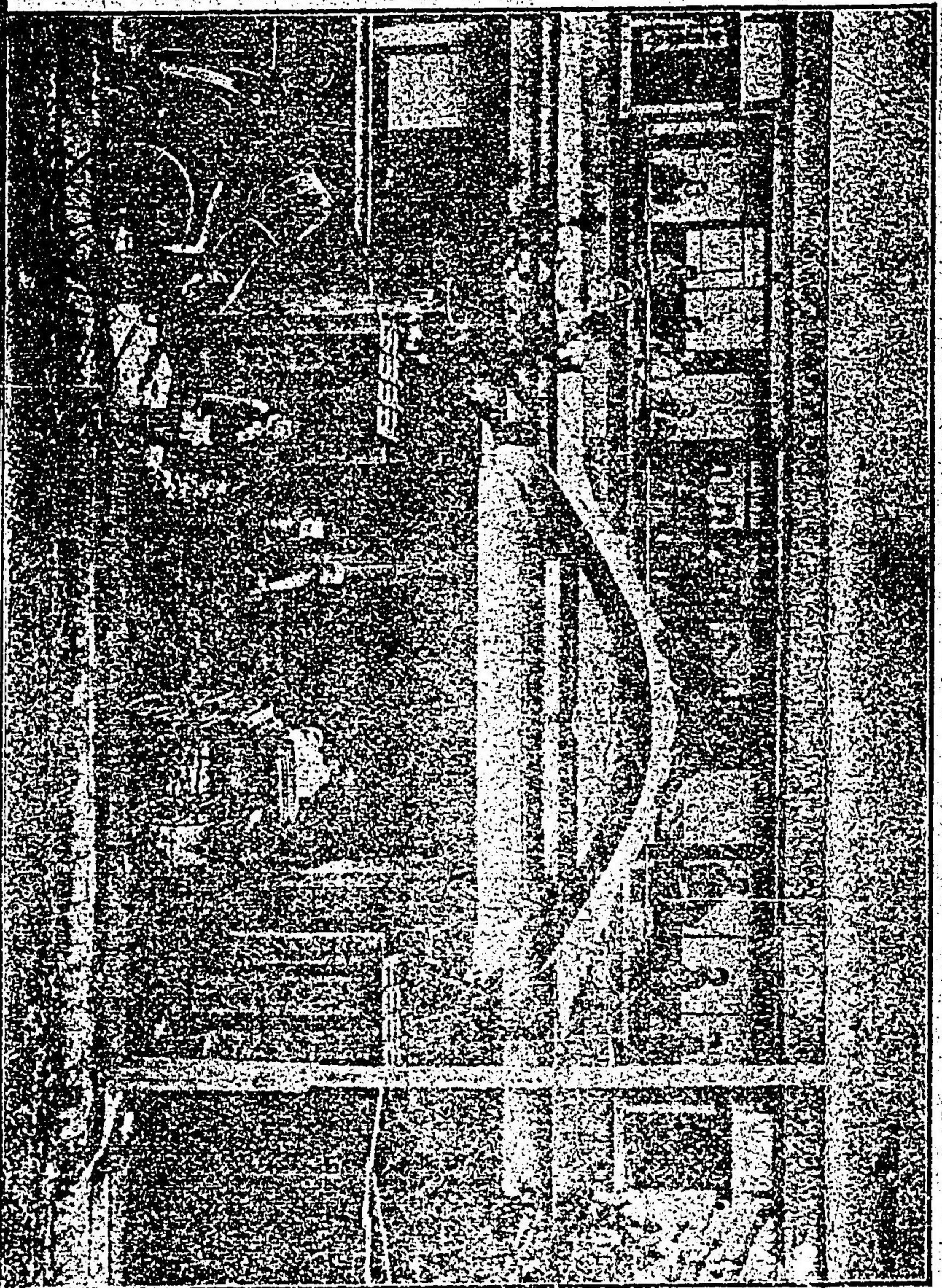
各種罐詰



特別販賣店  
卸小賣商

秋田市場大町三日  
櫻庭鐵藏





# 御旅館

各室電鈴設備

縣北第一の大旅館として構造宏大方

室調度凡て善美を極め食膳甘旨悉く

具りて庖丁巧妙待遇亦懇切なること

殆んど倫比なし

能代の地は江山の勝り富み魚鹽の利

り富む御一遊の諸彦は是非御投宿奉

願上候

能代港大町

## 村井旅館

能代停車場前

## 同支店

# 御旅籠

間數十數室ありて勉て御鄭重に御待遇申上候

御注文より御料理調進可仕候

秋田市上肴町 高西旅館

御

旅

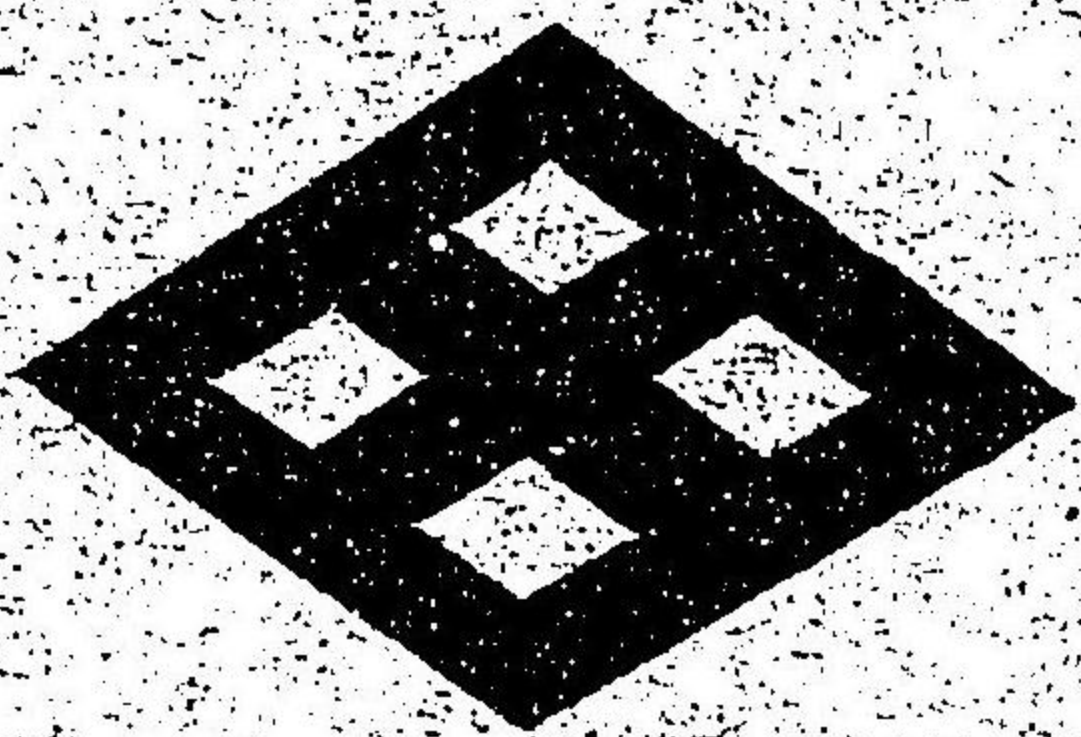
館

秋田大町三丁目

敦賀屋

物類國請御八景問屋

瀬戸孟燒附  
畫御好次第



木杯蒔繪  
調製所

竹長商店  
秋田市本町五丁目

諸般測量製圖依頼ニ應ズ  
測量製圖ニ關シテハ責任ヲ負ヒテ正確ヲ期ス  
秋田市土手長  
町末丁七番地  
高橋測量所  
電信略號(タカミ)

●●●●●  
即生壽牛鳥

席  
御料

調理ば鍋鍋

秋田市五丁目川反 かつま

和洋製本

秋田市大町二丁目  
岩屋爲治

營業品概目

帶 しめ 羽織紐	美術小間物	本甲櫛笄簪 珊瑚玉根掛	貴婦人用
手柄各種御 琴及附屬品	東髮用品各種 <small>國製 舶來リボン各種</small>	紙入及銀貨入 葺入よふじ入	生花かんざし 根掛各種
高等化粧品 舶來石鹼	金花堂 <small>商號登記第一號</small>		

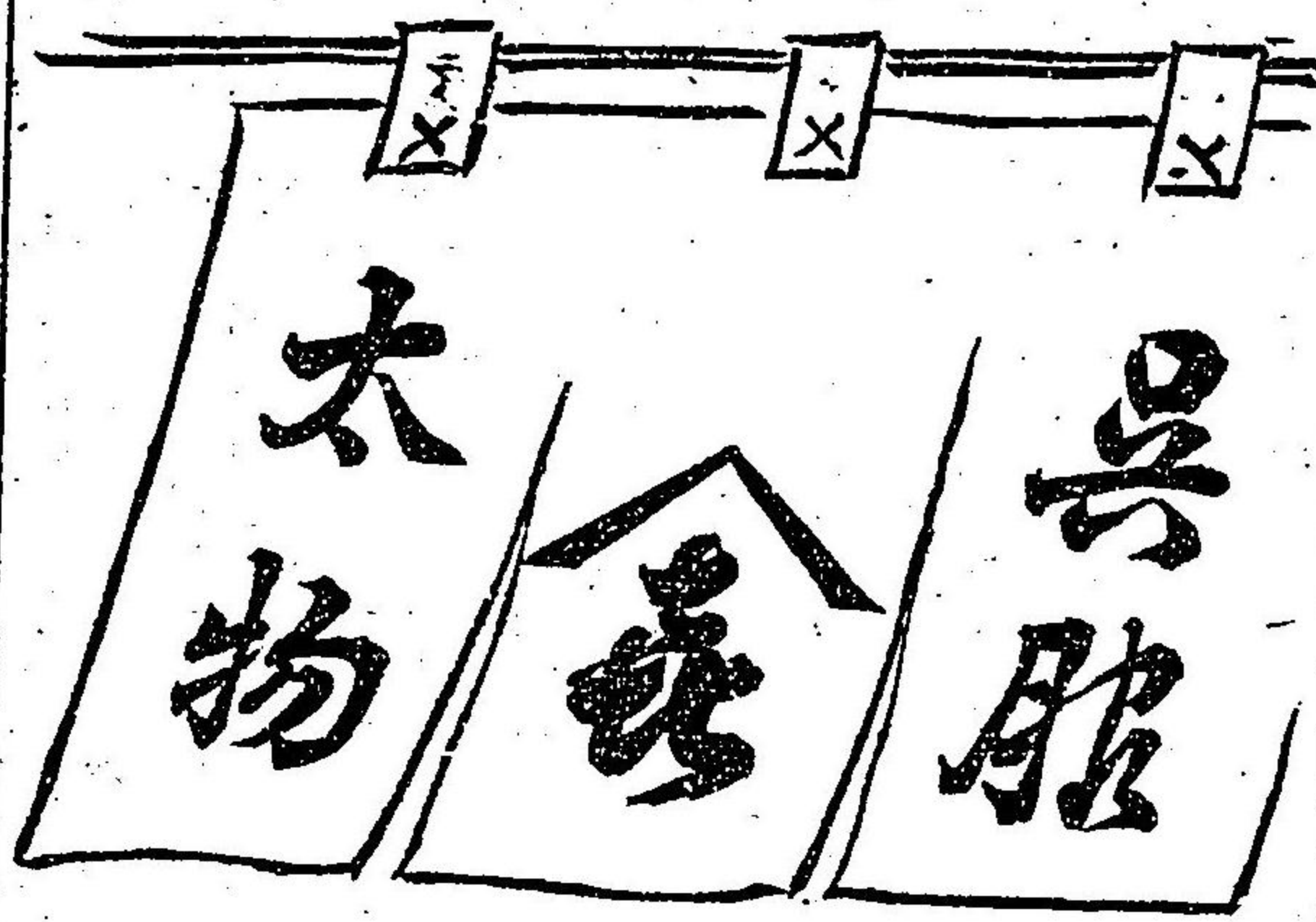
秋田巖野次郎 目丁四通端川市田秋

前付ノ九

※澤火鶴

釀造元 攝洲灘 石崎喜兵衛  
新在家

秋田市 茶町扇ノ丁  
土崎間 一手販賣所 湊 太市郎



店商澤辻

目丁四町本市田秋

西洋洗濯所

秋田巖野次郎  
本町四丁目  
山崎新平

○兵營諸官署  
○學校御用

勉強廉價ニ相働キ可申候也

秋田市丸鐵商會に於ける商品に付て

◎秋田みやげ**元祖**陸軍御用**小魚つくた煮**

當商會に販賣する佃煮は八郎湖畔大川村其他各處に於ける吾が丸鐵製造場に於て製造するものにして昨年七月製造販賣開始以來全縣下の大好評を博し當十七聯隊の御用及昨年十一月南秋品評會に於て三等賞を受領するの榮を得今日に至りては全縣下到處丸鐵佃煮の販賣店のあらざるはなく其製造販賣の多額なる事全國佃煮業者の冠たり其品質の如何は世間既に定評あり御求の節は丸鐵商標に篤と御認めあらん事を

◎**舶來酒**並に**西洋食料品**

當商會に於て販賣する洋酒食料品は横濱市レノ商會の手を経て彼の世界各國に其名を知られたる佛國巴里レノ商會より直輸入するものなれば其品質の良好なると價格の低廉なるとは世間既に定評あり

◎**内外各種罐詰**並に**野菜壇詰**

當商會に於て販賣する罐詰及壇詰は東京市及當縣下岩館村其他各處に於ける吾丸鐵罐詰

前付ノ十一

製造場が獨得の妙技を以て作りたる製品を初め内外到處の有名なる各種罐詰を輸入せるに付き其の品種の多きと價格も低廉なるとは當商會の特色とする處なり

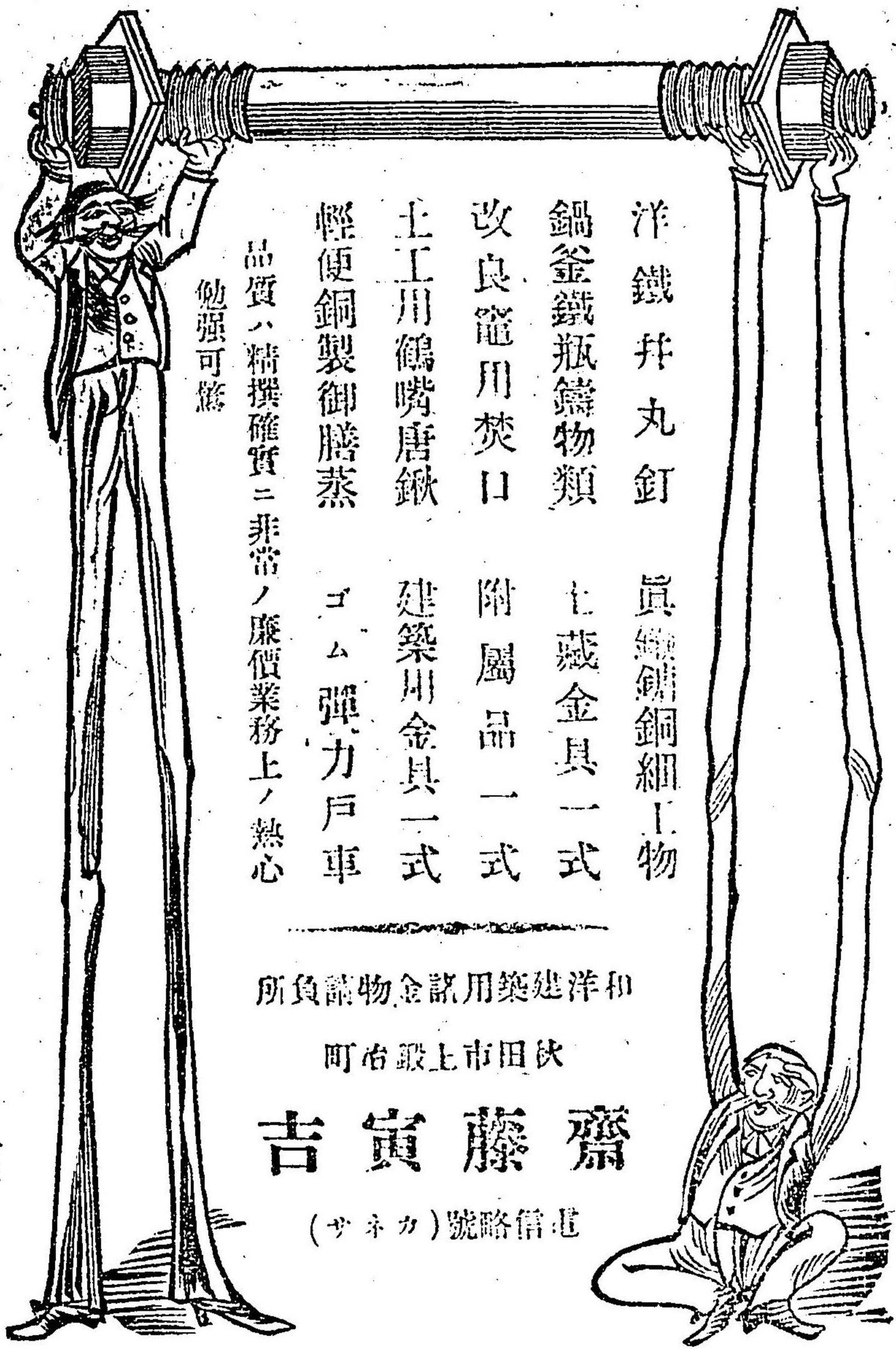
◎**東京田端鹽豚**並に**ハム其他日本食料品**

當商會に販賣する鹽豚及「ハム」は彼の有名なる豚肉罐詰(千代田煮)製造元なる東京田端養豚場の製造にして其豚肉に至りては純良無比の英國産のみなれば其味ひの美なる事他に其比を見ず故に當商會は既に當十七聯隊の御用は勿論諸官衙各學校各嶺山の御用及び全縣下愛顧諸賢の御需用を蒙り居れり其他當商會に販賣する商品は左の如し

◎東京本場各種漬物類一切◎東京本場淺草海苔◎鯉節◎福神漬◎西洋菓子◎能代名代翁館◎東雲名物羊羹◎其他英國産純良種豚等

和洋各種 **卸小賣** 登録商標 **丸鐵商會**

秋田市大工町 丸鐵商會出張店  
秋田停車場前 丸鐵商會出張店  
土崎港下新町 丸鐵商會出張店



洋鐵并丸釘 眞鍮銅細工物  
 鍋釜鐵瓶鑄物類 土藏金具一式  
 改良竈用焚口 附屬品一式  
 土工用鶴嘴唐鍬 建築用金具一式  
 輕便銅製御膳蒸 工場彈力戶車  
 品質之精撰確實ニ非常ノ廉價業務上ノ熱心  
 勉強可憐

和洋建築用諸物金物  
 秋田市上段町

齋藤寅吉

電話略號(カネ)

# 藥種問屋

秋田市上通町

公 佐野八五郎

藥種賣藥 醫寮調劑諸器械 醫師調方箋調劑  
 衡器販賣 郵便爲替 貯金小包取扱 收入印紙  
 賣捌

# 販賣品廣告

- 御銘茶諸紙類
- 和洋小間物雜貨類
- 和洋酒壘詰及食料品
- 和洋煙草各種
- 國產畝織八丈縞
- 國產落摺及樺細工

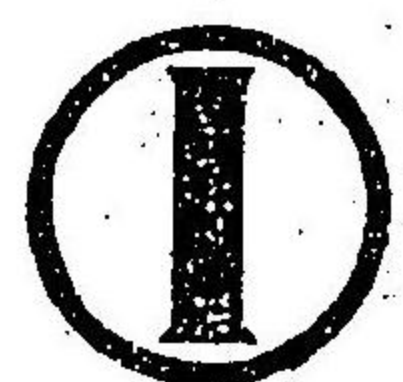
弊店ハ總テ品質ヲ精選シ各產地ト特約ヲ結ビ着實ヲ主義トシ正價ヲ以テ販賣致候間多少ニ關ラズ御愛求ノ程奉希上候

秋田市長町



田中屋商店

- 和洋小間物
- 學校用品
- 學校運動具
- 各國煙草
- 茶紙荒物
- 國產織物



岩谷商店

薄利勉強  
篤實廉價

秋田市中長町(縣廳脇)

御菓調子通野

各公會受賞  
 秋田縣物産品評會  
 優等木杯受領  
 第二回  
 秋田縣物産品評會  
 二等賞木杯受領  
 第四回  
 內國勸業博覽會  
 有功賞牌受領  
 第三回  
 五二會全國品評會  
 一等褒狀受領  
 全國製産品博覽會  
 有功賞牌受領



- 竹内製造金庫
  - 竹内製造臺秤
  - 淺野製造セメント
  - ガス會社製コトールタール
- 其他建築用品種々

和洋小間物  
 書籍類



本間商店

秋田市大町二丁目

電信略號〇ホ

本御菓開  
鋪子運  
造製堂

廣告

國產落漬

滋養ビスケット

食パン

のじ林檎

滋養飴

秋田市四丁目橋角

加賀谷家三郎

十八

前付ノ十九

靴馬具

鞆革具

修繕共

大勉強

秋田市花立町二十五番地

陸軍御用達 越後伊之松

秋田市土手長町二十番地

支店 越後八百治



# 男鹿湯本温泉

旅館 暢神館

夏期御嶋巡リ加茂又タハ戸賀ニ御上陸ナラルレバ御來館御便宜ニ御坐候

## 温泉之效能

貧血病 腸胃ノ病、消化ノ不良、溜飲、痔疾、神經系病、痲痺質斯、婦人ノ病、子宮病、淋病、梅毒、關節之諸病等特ニ効アリ

## 弊館之特色

客室之廣潤清涼ナルハ勿論諸事衛生ヲ重ンズ殊ニ日々新鮮ノ魚類ヲ珍味調進可致候

## 附近勝地

戸賀灣正西海ニ面シテ東南北山巒ヲ以テ圍ミ灣内靜ニ四時油ヲ流セシ如ク數百ノ魚類群ヲナシテ游泳スルヲ見得ベク入道崎ノ燈臺高サ九丈餘全國第二ノ構造ニシテ午前中ハ縦覽ヲ許サル此直下ニ青嶋アリ數十ノ漁船常ニ絶ヘズ

## 各地里程

秋田市へ十三里 船越へ六里 北浦へ二十八丁 能代へ十二里 森岳へ九里 大久保へ七里 戸賀へ一里 畑村燈臺へ一里 加茂へ二里 北浦ニハ郵便電信局アリ警察分署、役場、學校等アリ

本年ハ浴槽其外大修繕ヲ加ヘ諸事大改良仕候間陸續御來泊偏ニ奉願上候

明治三十五年十月

前付ノ二十一

二十

元祖

# 酒製衣饅頭

其他御菓子

各種調進所

秋田市龜ノ丁西土手町

陸軍御用 中野屋

技術巧妙 影寫精明

# 石山真館

秋田市二丁目小路

西毛物類服色揚

## 洗濯所

洋

秋田市茶町菊ノ丁

幸野榮治

# 定期預金

本行ハ資本金六拾萬圓ニシテ政府特別ノ保護監督ヲ受クル故預金者ニアツテハ尤モ確實安全ナリ

秋田縣秋田市大町二丁目拾九番地

株式會社 **秋田農工銀行**



# 貸付金

農工業獎勵ノ爲土地家屋ヲ抵當トシ長期低利ノ貸付ヲ爲シ又産業組合并ニ二十人以上ノ連帶者ニ信用貸付ヲ爲ス

前付ノ二十三

三十二

全國各書肆發行の圖書及ひ新聞雜誌は本店同様の直段を以て敏速に配達可仕候

中等教育縣立諸學校  
用書及參考諸書類并  
右諸學校筆墨文具類

大鳴開成堂  
(縣廳脇通り)

御注文は凡て前金のおと但し官衙及ひ學校役場等の御注文にして官印公印の押捺ある者は前金に非ざとも直に發送可仕候

商業手形割引、御用達金等ハ精々低  
歩ヲ以テ御相談可仕候

● 定期預金

三ヶ月以上 年五分五厘  
六ヶ月以上 年六分五厘  
一ヶ年以上 年七歩

● 當座預金

百圓ニ付 金壹錢四厘  
百圓ニ付 金壹錢五厘

● 乙部 當座預金

各地荷爲替、賣掛代金取立等ハ低歩且ツ御便利ニ  
御取扱可申候

其他銀行諸般ノ取引ハ迅速誠實ニ御取扱可申候

明治三十三年三月設立

合資會社

湯澤銀行

羽後國湯澤町

序言

吾縣の地頗る遼潤その一山一水を審よする己に難し且つ著書の勝迹を臚列して人の探訪に資するもの幾んどなし況んや市塵の見聞に至つては一毫も擧ぐる所なく零星を購覓して郷閭の餽とあすもの鋪戸林立して貨物往々偽を以て真と爲し途に魚目を混するに至る今それ等の事は便するか爲よこの小冊子を編成す

人烟雜踏の地坊肆の牌匾眞贋相混すこの書店號必ず注して舛違多からざるを期す然れども一々冊内に入らず遺す所極めて多し客棧と酒肆に至つては唯其優かるものを記す他は省して擧げず

一縣の景物蓋し瞻遊すべき地頗る夥し其古蹟の摩挲すへきもの亦右に送

序言

りて左に迎ふ今其地趾と梗概とを記して他は遊歴者自ら纖悉遺なきを欲す掲ぐる所の詩歌これ偶々心頭より上り來るもののみこれよりて盡せるよあらず又其勝れるものよあらず要するよ小著に割雞の力を致せりと雖も是れ決して備はれるといふよあらず再版三版緝補して飲くる所なきを期せんのみ

明治三十五年九月陰曆中秋の日

香 峯 生

### 例 言

一本冊子は秋田市を主とせる營業案内と縣内の諸名勝を世間に紹介するか爲に編成せしものなりされば何れも其大要を擧げしに止り記事の遺漏多きは勿論編者の期する所なれども二版三版と進行するに随ひ編補して其缺くる所を訂す筈なり

一營業案内は秋田市内のみを掲げたり唯閱覽者の便宜のため銀行、會社、旅店、湯治場、書肆、藥店、辨護士、醫師等の如きは全縣中より之を擧ぐ

一名勝は鐵道線路に傍ひしものはこの線路の次第により秋田市以南は國道線路の次第によりて之を掲げたり故に男鹿の諸勝は追分停車場の條に掲げ波宇志別神社は横手の條下に之を掲ぐ  
一鐵道線路及國道線路に傍ひしもの、外酒田街道及角館街道沿道の諸勝をも擧げたりこれ主として象潟、榎湖等の名勝を逸せん虞あれば也

一附録には「花こよみ」「旅行案内」等を掲ぐ旅行案内中には東北の瀛車發着及賃金、瀛船、馬車諸便、郵便、電信、鐵道の諸雜則を擧げたり

一卷頭の秋田縣圖は主として鐵道國道の線路圖なり  
 一本冊子を編成するに付き力を致されたる諸君子少からず殊に自著「温泉のしるべ」を贈られし  
 西宮藤毅氏の好意を謝す  
 一冊後別に「土崎案内」を附す第二版に於て「能代案内」「本莊案内」をも併せ附し次第に各地の名  
 色に及ばんとす

編者識

一本冊子の表紙石版は秋田石版所の刷行に係る其技術の優等なる頗る本冊の美を添ふに足れり

# 秋田案内

## 目次

秋田の沿革	一	銘酒賣捌店	十五
秋田の地理	二	醬油製造業	十五
諸官衙學校	三	吳服店	十五
新聞社	三	古着商	十六
銀行	四	下駄屋	十六
諸會社	五	靴屋	十七
取引所	七	金銀細工	十七
醫師	八	時計店	十七
辯護士	九	石版印刷所	十七
活版所	九	煙草賣捌店	十八
書肆	九	菓子商	十八
藥種店	十	茶紙賣捌店	十九
寫真店	十二	漆器商	二十
酒造業	十三	硝子器賣捌店	二十
		瀬戶物商	二十
		綿屋	二十
		洋服店	二十

目次

足袋屋	二十一	二つ井	四十五
雜貨店	二十一	能代町	四十五
牛肉店	二十三	森岳	四十六
旅人宿	二十四	鹿渡	四十七
日本料理	二十七	五城目	四十七
鰻屋	二十九	大久保	四十八
西洋料理	二十九	追分	四十八
温泉場	三十	土崎	五十一
市内景況一斑	三十四	秋田	五十一
物産	四十	和田	五十八
<b>名勝案内</b>		境	五十九
陣場	四十三	刈和野	五十九
白澤	四十三	神宮寺	五十九
大館	四十三	大曲	六十一
早口	四十四	角館	六十一
鷹巣町	四十四	生保内	六十二
		六郷	六十二

金澤	六十三	郵便電信略則	九十三
横手	六十四	鐵道發着時間表	九十七
湯澤	六十六	鐵道乘客心得	百〇八
院内	六十九		
新屋	七十		
長濱	七十		
道川	七十		
松ヶ崎	七十		
本庄	七十		
平澤	七十一		
金浦	七十一		
象潟	七十二		
縣内交通便覽	七十七		
<b>土崎案内</b>			
(中に目次あり)			
花ごよみ	八十七		



# 秋田案内

## 第一 秋田の沿革

神代の昔は事故りたり出羽の各の歴史の上に現はれしは元明天皇の和銅年間開始まる和銅元年九月越の國の申すによりて創めて出羽郡を置き同五年九月郡を國となして出羽國置かる同年十月には陸奥の二郡を加へて奥州より北越に至る海岸一帯の地凡て出羽國と稱するに及びぬこれより國司あり守介あり按察使あり朝廷の治法明にして邊疆王化に柔さし頃は民夷雜居して朝貢を怠らざりしが王政の弛廢と共に武臣所在に跳梁して藝には安倍賴良父子の乱を作すあり次に清原武衡家衡の治を紊るあり二衡浜びし後は藤原基衡清衡秀衡三代よく奥羽を綏治してこの地

秋田案内

小康を保つしも泰衡に至りて源賴朝の爲に覆巢の災あり爾來鎌倉の治下に立ちもの多年建武南北兩朝の争ありて出羽は同じくこの撞擾を免れず延て足利の末年に至り安倍、最上二家殊に雄を稱し其他族黨を保ち堡寨に據る小族豪士の類由利一部のみにて已に十二黨の多きに及び秀吉天下を一團するに至りて治乱の機漸く定り慶長七年佐竹義宣封を秋田に移せるより以來出羽半部即ち秋田と稱する鳥海以北の地は小綏の治を得て明治に及び維新の新政坤輿一に歸してこ、に三十五年今は秋田縣の統轄に屬す聖武天皇の天平五年十二月出羽柵を秋田村に遷せし以來は時にこれを廢せしとあれど出羽(秋田部の)の政柄と兵權は常に秋田に集中せり其郡を置けることの國史に存せるは雄勝と河邊と



なり  
 泰衡の奥羽を鎮せる時大川則任ありて秋田城に  
 居りし如し思ふに秋田城は歴史的由縁のみなら  
 ず出羽半國を鎮するに於て蓋し必要の形勝なり  
 しならん爾後安倍家の出羽に據有する比内より  
 移て秋田城に據り佐竹氏の水戸より出羽に移る  
 亦秋田城を築てこれに居りぬ而して今は縣廳所  
 在地たり一市九郡右に控へ左に禦して其上游の  
 地を占め居然一國の首腦たる地位を具す  
 和名抄、延喜式等によれば出羽國上管十一郡  
 その今の秋田に屬するもの蓋し雄勝、平鹿、山  
 本、河部、秋田の五郡にして節用集に由理、山  
 之の郡名見ゆと雖もこれ並る後代のことならん  
 當初の秋田郡は由利郡をも併せたる如し其山本  
 と稱するは今の仙北郡のことなりと思はる

第二 秋田の地理  
 秋田縣と稱するは羽後國の一市八郡と陸中國の  
 一郡とを包有す其境域北は陸奥に隣り東は陸中  
 陸前兩國と分水山脈を挟みて相連り南は鳥海の  
 一脈を以て羽前國と接し西は沿岸略一百里日本  
 海の怒濤を受けこの海岸斗折少くして唯一の男  
 鹿嶋ありて大なる趣致を爲すのみ  
 國中頗る山岳多く東は十和田嶽を起首として志  
 津ヶ嶽横澤山乳頭山鳥嶽山嶽和賀嶽眞登  
 山等あり北は矢立嶽立石越嶽田代嶽雁森嶽等  
 り南は鳥海山の一脈高く青天に挿み國中の森吉  
 山の四千八百尺に挺るあり其他秋田市附近に太  
 平山あり男鹿に眞山本山寒風の三山あり峻峯高  
 嶺ならずと雖も其名頗る著はる  
 河の大なるもの雄物、米代、子吉の三川にして

其支流の大なるもの玉川阿仁川藤澤川等に屬す  
 沼湖は八郎湖田澤湖十和田湖等其大なるもの之  
 秋田市以外名邑と稱すべきもの横手、大館、湯  
 澤、本莊、角館、大曲、矢島等にして土崎、能  
 代、船川は港灣の名あるものなり其他郡邑の數  
 は一々其條下に擧げん

第三 諸官衙學校

秋田縣廳	秋田市長町
第十六旅團本部	舊城
歩兵第十七聯隊	長野町
衛戍病院	舊城
秋田聯隊區司令部	上
秋田地方裁判所	廣小路
秋田區裁判所	上
秋田大林區署	東根小屋町
秋田稅務管理局	大町三丁目

秋田案内

秋田監獄	同	長町上丁
秋田市役所	同	長町
秋田郵便電信局	同	本町四丁目
憲兵屯所	同	大町一丁目
秋田師範學校	同	東根小屋町
秋田中學校	同	上
秋田農學校	同	南秋田郡寺内村八橋
秋田高等女學校	同	秋田市中島
秋田市立徒弟學校	同	舊城
私立福田學校	同	秋田市保戸野中丁
秋田農事試驗場	同	河邊郡牛島町
農商務省農事試驗場陸羽支場	同	仙北郡花館村
種馬所	同	同 郡神宮寺村
葉烟草專賣局支局	同	平鹿郡増田町

第四 新聞社

秋田魁新報	大町二丁目
秋田新報社	秋田新報社

本縣第一の賣捌高を有し新聞の体裁も亦稍整へり社長井上廣居氏主筆安藤和風氏進歩派同志の機關なり

秋田公論 同 町 秋田公論社  
賣捌高秋田魁新報に次ぐ主幹上遠野栗氏主筆  
松岡又五郎氏黨派關係なし

秋田日日聞 同 町 秋田中正社  
本縣最古の新聞にて帝國黨の機關新聞たり社長  
畑隆太郎氏主筆永井喜久治氏

秋田日報 同町一丁目 秋田日報社  
年齒最も少し政友會の機關新聞たり社長鈴木辰  
之助氏主筆不明

横手商業新報 平鹿郡横手町 横手商報社  
山崎忠剛氏の主幹する所記事は商業上の報道を  
主とす

第五 銀行

秋田銀行(株式會社) 秋田市大町三丁目  
同 支店 土崎港町

秋田縣唯一の大銀行にして資本金百萬圓現在の  
頭取は辻兵吉氏支配人は田中徳義氏なり縣の金  
庫を取扱ふ

第四十八銀行(同上) 同茶町菊ノ丁  
同 支店 土崎港町  
資本金三拾萬圓頭取羽生氏熟氏支配人竹内悌三  
郎氏

安田銀行秋田支店(合資會社) 本町四丁目  
同 横手支店 横手町  
本店は東京資本金百萬圓府下屈指の銀行たるこ  
と人の知る所なり當地支店監督安田善彦氏支配  
人鈴木安太郎氏にして目下本金庫を取扱ふ

湯澤銀行(同上) 雄勝郡湯澤町

資本金五萬圓同地有數の銀行なり

能代銀行(同上) 山本郡能代町  
資本金五萬圓

大曲銀行(株式會社) 仙北郡大曲  
資本金七萬五千圓

齊藤前 五銀行(合名會社) 横手町  
同 田宮田 支店 湯澤町

資本金貳萬五千圓 能代町  
大久保銀行(合名會社)

同 支店 北秋田郡扇田  
資本金三萬圓

近合名會社(三萬圓) 平鹿郡植田  
合名會社池田銀行(三萬圓) 仙北郡刈和野

株式會社本莊銀行(拾萬圓) 由利郡本莊  
同上平鹿銀行(拾萬圓) 平鹿郡角間川  
同上増田銀行(五萬圓) 同郡増田

第六 諸會社

秋田瀛船株式會社 南秋田郡土崎

秋田唯一の瀛船會社にして資本金拾萬圓現には  
年額五千圓の縣費補助を得たるも數回所有船沈  
没の厄難に遭ひ社運ヤ、振はず年々損害多し有  
力の株主は野口銀平竹内長九郎諸氏なり

日本郵船會社土崎支店 同上

同會社の土崎支店なり

船川株式会社

舟川港

海上運漕と出稼人受負を業務とす資本金五萬圓

本郷合名會社

平鹿郡角間川

資本金五萬圓金穀貸附其他を營業とす

小泉佐藤香澤合名會社

同 増田

資本金貳萬圓業務は同上

合資會社大盛講(未詳)

同 角間川

商業合資會社(壹萬圓)

同 沼館

阿仁金融合資會社(壹萬圓)北秋田郡阿仁

以上の三會社は皆金穀貸付營業を主とす

合名會社本郷商會

平鹿郡角間川

同 支店

秋田市馬喰町

資本金貳萬五千圓にして金穀貸付、米穀賣買、倉庫業、運送業、薪炭雜貨の賣買、軍事糧食品等の受負を營業し次第に其業務を擴張し來れり

柴田飯塚機業合名會社(資金未詳)

雄勝郡西馬音内

武田庄司 猪股合名會社本莊商會(五萬圓)

由利郡本莊

木材賣買を主とせり

前田合名倉庫會社(資本未詳)

平鹿郡横手

淺舞最森合名會社(三千圓)

同 淺舞

弘商合資會社(三千圓)

仙北郡角館

海産物取扱合資會社(五千貳百五拾圓)

雄勝郡湯澤

出羽物産合資會社(壹萬圓)

平鹿郡増田

同 支店

雄勝郡川連

能代材木合資會社(五萬圓)

山本郡能代

能代挽材合資會社(五萬圓)

同上

牛乳合資會社(六千五百圓)秋田市長野下新町

同大町二丁目

秋田中正社(貳千貳拾五圓)

同古川堀端町

秋田興業合資會社(五萬圓)

同古川堀端町

物産委託株式會社(四萬三千圓)土崎港

同新大工町

忠國株式會社(壹萬四千五百五拾三圓)

秋田市中龜ノ丁

角館忠國株式會社(壹萬七百圓)仙北郡角館

扇田忠國株式會社(七千八百七拾壹圓五拾錢)

北海労働者保護株式會社(壹萬圓)同郡大館

北秋田郡扇田

報國株式會社(三千八百六拾四圓)

南秋田郡五城目

株式會社土崎米穀鹽油取引所 南秋田郡土崎

由利郡本莊

同上本莊米穀取引所

前者は株金三萬六千圓後者は五萬圓なり共に株式所熱の勃興と共に創立せしか秋田、大曲二所の解散せられしに拘はらす尙殘壘を固守しつ、あり

弘運合資會社(七千圓)

平鹿郡横手

今宿商業合資會社(貳千三百圓)平鹿郡今宿

合資會社能代精米所(四千七百五拾圓)

山本郡能代

秋田用達合資會社(壹萬三千圓)

秋田市土手長町

盛運合資會社(三千圓)

雄勝郡湯澤

陸羽馬車合資會社(四千五百圓)北秋田郡大館

角館製糸合資會社(壹萬九千六百八拾九圓九拾八錢)

仙北郡角館

湯澤烟草合資會社(五千圓)

雄勝郡湯澤

内國遺族共濟合資會社(壹萬圓)由利郡本莊

日本産兒養成合資會社(五千圓)同上

三ツ石合資會社(千八百圓) 同郡八嶋

矢嶋酒造合名會社(四千五百圓)同上

秋田株式會社(壹萬六千五百圓)秋田市茶町

秋田馬車鐵道株式會社(貳萬五千圓)

第八 醫師

秋田市	大越 恭英	樋口 順泰	那小屋 大助	赤星 敬次郎	工藤 養吉	稻見 春之助	小瀬 伊良	神林 立進	南秋田郡	入戸野 莞爾	伊藤 泰藏	根田 忠皎	北秋田郡	武田 六郎	松山 長英			
山本郡	能代 織田 信卿	河邊 堤	新屋 黒九	由利 黒九	本莊 小川 祐次郎	仙北郡	大曲 齋藤 甲吉	六郷 高橋 軍平	角間川 河津 直治	雄勝郡	鹿角郡	花輪郡	大里 文五郎	中 敬助	介川 龍太郎			
渡邊 圭一郎	光二郎	女米木 石井 祐治	小松 勘藏	八嶋 竹治	八嶋 竹治	川上 勝淑	中嶋 平三郎	長岡 茂一	癸己 活版所	秋田株式會社	秋田中正社	旭 活版所	能代 活版所	本莊 活版所	橫手 活版所	成見 清兵衛	大嶋 開成堂	秋田株式會社

ほかに整骨醫専門の醫師は秋田市保戸野表鐵砲町  
 田村源吾あるのみ

第九 辯護士

秋田市	渡邊 新一	大原 鎌三郎	平野 直治	長谷川 勝太郎	東海林 俊朗	古澤 五郎	飯嶋 良佐	館 秀三	大塚 秀三	高橋 直吉	諸橋 小吉	曲 恒治	石川 恒治
秋田市	大町二丁目	茶町菊ノ丁	大町二丁目	同上	同上	能代港町	大曲町	本莊町	横手町	秋田市	同	同	同
癸己 活版所	秋田株式會社	秋田中正社	久保田活版所	旭 活版所	能代 活版所	本莊 活版所	橫手 活版所	成見 清兵衛	大嶋 開成堂	秋田株式會社	同	同	同

第十 活版所

第十一 書肆





同	金時	刈田義門	同	齊藤重左衛門
五城目	渡邊德太郎	同	平澤	齋藤市兵衛
同	渡邊民治	同	矢嶋	大井清藏
同	三浦吉藏	同	同	須貝多郎藏
河邊郡新屋	三浦菊治	同	同	大井與四郎
同	渡邊幸四郎	仙北郡長野	秀よし	鈴木辰治
北秋田郡米内澤	進藤岩松	同	六郷	湯川辰治
同	山脇永助	同	同	京野孝之助
同	大館酒造合資會社	同	角館	武村茂助
同	武石勇助	同	同	田口久藏
鹿角郡花輪	關善次郎	同	南檜岡	伊藤恭之助
同	小田嶋昌藏	平鹿郡増田	日丸	伊藤甚兵衛
同	田村定治	同	雄物川	福岡三治郎
同	大里清左衛門	同	横手	丹羽春吉
同	毛馬内	同	里見	佐藤八十治
同	大湯	同	雄勝郡岩崎	高橋宇吉
由利郡本莊	長谷川武助	同	湯澤	伊藤仁右衛門
同	佐藤酒造合資會社			

同	高久多兵衛	勉むるもの市の佐野醤油店と南秋田郡飯詰の小
同	西馬音内	玉醬油店となるべし小玉醬油店は醸造高に於て
同	第十五 酪酒賣捌店	醸造法に於て將來本縣第一たらんことを期する
秋田市大町三丁目	櫻庭鐵藏	もの、如し
同	茶町扇ノ丁	
同	第十六 醤油製造業	
秋田市上通町	佐野榮治	本縣の特産物として畝織、羽二重、八丈縞、蕨
同	大町三丁目	織等ありされども呉服類一切はこれを京阪地方
山本郡能代町	泉太助	に仰く今市内に就て其重なる卸賣商小賣商を左
同	渡邊彦右衛門	に擧ぐ
由利郡本莊町	岩井源助	卸賣・大町二丁目
同	象潟町	同 一丁目
仙北郡内小友村	中村甚八	同
同	小松市松	本町四丁目
同	金澤町	大町二丁目
同	南秋田郡飯田川村飯詰	金子二店最も手廣く坂田商店は主と
同	醬油醸造家中原料醸法を改良し優品を出さんと	就中辻兵、金子二店最も手廣く坂田商店は主と
	小玉 糸之助	
	福田久右衛門	
	岩井源助	辻 兵吉
	中村甚八	金子文藏
	小松市松	坂田商店
	福田久右衛門	加賀谷正司
	小玉 糸之助	風間音吉
	就中辻兵、金子二店最も手廣く坂田商店は主と	

して木綿類を賣捌く小賣店にては

- 小賣 大町三丁目 遠藤 小太郎
- 同 本町五丁目 新田目 支店
- 同 上通町 佐野 榮治
- 同 本町五丁目 川口 傳吉
- 同 同 近江 倉之助
- 同 同 同 佐藤 大吉
- 同 同 同 辻澤 商店
- 同 同 同 小松 福治
- 同 同 同 竹内 正三郎
- 同 同 同 品山 三治
- 同 同 同 橋本 藤助
- 同 同 同 馬勞口町 横田 勇助
- 同 同 同 城町 越前屋 磯治
- 同 同 同 大工町 森澤 長三郎
- 同 同 同 中通町 藤田 商店
- 同 同 同 上通町 藤田 商店
- 遠小、新田目二店は最も高價の物品を賣捌く

第十八 古着商

- 市内重なるもの二軒あり
- 上通町 中村 季橘
- 茶町菊ノ丁 鈴木 喜右衛門
- 第十九 下駄屋
- 南部表に桐の糸証俗好は次第に奢侈に傾き来るもこの地は香取屋、大和屋の如き老舗あるにあらし唯概するに本縣桐を産すること多く殊に南部表と稱するもの亦秋田産多きを以て代價は例に低廉なり今左に重なるものを掲ぐ
- 龜ノ丁 千珠 屋
- 田中町 齋藤 商店
- 通町 田口 屋
- 大町三丁目角 河村 屋
- 三丁目小路 龜 屋
- 四丁目小路 帶 屋

第二十 靴屋

靴製造所は并せて三味線、太鼓、革包、馬具の如き皮細工物をも製造すもとは花立町の一區域に劃りたるも今は市内に散在せり

- 花立町 三澤 富治
- 西根小屋町 同 支店
- 花立町 越後 伊之松
- 土手長町 同 支店
- 中長町 越後 梅之助
- 花立町 山崎 商店
- 池永小路 鈴木 常藏

第二十一 金銀細工

本縣銀の産地なるを以てこの種の製作に長ずるれども多年銀地の佳良なるを喜びて技術の如何を問はざる傾向ありしか近來は次第に技術に長じ來り

第二十二 時計店

- 川反二丁目 竹谷 金之助
- 川反三丁目 澁谷 金治
- 本町五丁目 碓 屋
- 保戸野愛宕町 本堂 富之助
- 大町二丁目 蜂谷 軍八
- 茶町菊ノ丁 岡田 時計店
- 大町一丁目 三浦 清藏
- 通町 同 支店
- 同町 三浦 龜藏
- 中長町 附屋 富五郎
- 大町二丁目 土屋 亮次郎
- 田中町 加藤 時計店

第二十三 石版印刷所

近時この業次第に進みて市内に七人の營業者を見る其技巧の如きは一々次第すべからずと雖も



創立尤も古き秋田石版所を第一とし永井廣榮館長倉清研堂を第二とすべしとは一般の公評なり

- 大工町 秋田石版所
- 茶町扇ノ丁 長倉清研堂
- 大町二丁目 永井廣榮館
- 同 小田内曙光堂
- 茶町菊ノ丁 小松石版所
- 表鐵砲町 八柳常三郎
- 茶町菊ノ丁 秋田社石版所

第二十四 烟草賣捌店

烟草の賣捌に二あり本縣産出の葉烟草又は葉烟草として他地方よりの輸入を得これを製造するものと全く舶來烟草又は他府縣製造の卷烟草刻烟草のみを賣捌くものとこれなり而してこの第一種に屬するは廣く縣内に渡り郡市町村に各製造所ありて其附近に花客を有するを以て今一々

- これを擧げ難く其第二種に屬するものは市内に卸賣商ありて殆んど全縣の小賣商に商品を供給するなりこの卸賣商は
- 上肴町 後藤菊治
  - 本町五丁目 鎌田喜助
  - にして市内幾多の小間物商は凡て傍ら卷烟草、刻烟草を販賣するなり又第一種の地烟草製造人に屬すへき市内の重なるものは左の三人なるべし
  - 古川町 伊勢屋 宇吉
  - 鍛冶町 湊 菊松
  - 本町五丁目 舟木 專之助
  - 河邊郡牛嶋町にも製造人の有力なるものあり
  - 牛嶋町 中村宗吉
  - 第二十五 菓子商 中村宗吉
  - 二丁目小路 榮太樓

土手長町

同 分 店

市内の菓子店は先づ榮太樓と新榮堂との二店を最とす榮太樓の隣りにて名あるものは「秋田落雁」「國の譽」「落砂糖漬」「羊羹」等にして殊に國産落漬の如きは長木澤の山落を移植し多年の研究を以て殆んど山地と同じ甘脆にして滋味多き落莖を得之を砂糖漬とせるものにして最も此店の誇る所のものなり其他落長命煮亦旨味饒

龜ノ丁西土手町

中 野 屋

第二十六 紙、茶賣捌店

市内の各商店中紙、茶を賣捌くもの俗に荒物屋又は茶町物と稱する種類の商店中に資産に富めるもの多し今通町より街路順に其重なるものを擧ぐ

- 通町 茜屋吉左衛門
- 同 加賀屋與次兵衛
- 同 佐藤直治
- 茶町菊ノ丁 三浦傳六
- 同 片谷左一郎
- 同 菅原新五郎
- 同 扇ノ丁 西村福藏
- 同 梅ノ丁 那波伊四郎
- 下肴町 鈴木才兵衛
- 同 藤田清助

西根小屋町

新 榮 堂

この店の專賣物は「のし林檎」「落漬」「羽後の雪」等にして羽後の雪は頗る上品の菓子なり

茶町梅ノ丁 千 秋 堂  
「片栗落雁」は此店の名物なり前二店に次くものは此菓子店なり

川端五丁目

開 運 堂

同 野口商店

水谷 長之助  
佐藤 小太郎

第二十七 漆器商

縣内川連、角館、大館、能代等々漆器を産するも殊に其賣捌店と見做すべきものなし各店の賣品主として會津其他近縣の所産にして代價の低廉なるもののみなり

上通町 同  
本町五丁目

松村 三之助  
竹田 圓治  
竹田 長松  
伊藤 庄之助

第二十 綿屋

これ亦茶町物の一なり  
茶町菊ノ丁

成見 清吉  
能登屋 八藏

第三十一 洋服店(一)

上肴町 伊藤 庄之助  
同 吉川 泰藏  
上通町 古尾谷 金治  
下肴町 大嶋委託販賣店

第二十八 硝子器賣捌店

中通町 山下 商店  
馬喰町 平澤 喜久治

洋服地を賣捌き又洋服裁縫をも并せたるものなり市内の各裁縫店はこれ等の商店より洋服地を仰き然らずは東京の商店より時々之を仕込めるなり

大町二丁目 辻兵 洋服店  
同 山崎 良兵衛  
長町 森川 商店

第三十二 洋服店(二)

市内の洋服裁縫店は左の如し

大町一丁目 山谷 藤吉  
同 橋本 東吉  
同 二丁目 辻兵 工場  
同 山崎 裁縫店  
同 寺田 吉五郎  
同 加賀谷 松之助  
同 長谷部 久藏  
同 秋本 裁縫店  
同 沼田 常吉  
同 三丁目 佐々木 由松  
本町五丁目 伊川 政治  
同 池永 小路 伊川 永助  
同 長町 寺澤 裁縫店  
同 森川 裁縫店  
同 縣廳 小路 三浦 源藏

同 同  
廣小路 東根 小屋町  
保戸野本町

松田 直吉  
河合 養藏  
渡邊 民治  
野澤 多吉  
大山 龜治

第三十三 足袋屋

市内に七店ありと雖も先づ左の三店を數ふべし

本町五丁目 鶴 清  
同 四丁目小路 岡田 正太郎  
大町二丁目小路 佐藤 留吉

第三十四 雜貨店(小間物商)

小間物商の名は各種の商業を并せ爲す上に行はる、如し普通小間物なるものは紙、煙草、文房具、袋物、金銀細工、洋傘、革包類、毛布、掛、石鹼、齒磨、香水、其他の男女裝飾品、茶時計、家什、帽子、靴、洋酒類、繪草紙、おも

ちや類を賣捌くものなれども其商店によりてはこれを并せ賣るものと其一二の品のみを賣捌くものと其他の商品假令へは石油、ランプ類をも并せ賣るものとあり左に其重なる商店を掲げ且賣捌品の主なるものをも附記す

卸賣 大町二丁目 本間 金之助  
資産は各商店第一にして賣捌の品類も亦夥し普通雜貨の外に紙類、毛布類、時計類、書籍類をも賣捌く店頭來客絶えず  
卸小賣 茶町菊の丁 土屋 善三郎  
普通雜貨の他に洋酒類其他を賣捌くこと本金に同じ又市内有数の商店なり  
卸小賣 茶町梅の丁 河村 周吉  
同 馬口勞町 平澤 喜久治  
同 本町五丁目 加嶋屋商店  
同 中通町 中村 長十郎

同 中通町 長野 長左衛門  
以上の諸店皆卸小賣を兼ねたり平澤商店は市内下通にての有数の商店なり但し賣捌品は何れも普通向きなり

小賣 長町 新田目 小助  
小賣店中にての老舗なり贅澤品多し其支店は吳服のみを賣捌く  
川反四丁目角 牧野 金花堂  
化粧品を主とす地は狹樹の地に傍ひ流行を競ふこと盛なるを以て一年數回の仕込と其賣品の流行に後れざるとは他の老舗をして後に瞠若たらしむる如し商賈頗る繁昌なり  
縣廳小路 岩谷 岩太郎  
洋物店なり國産畝織、八丈縞、蕨織を并せ賣る 勉強商店の名あり

川反五丁目 中村 陳列場  
店前の光景頗る新式なり洋物を主とす  
大町三丁目 平野 金太郎  
長町 田中 貞藏  
西根小屋町 中村 商店  
縣廳小路 新田目 金太郎  
本町五丁目 加賀谷 敬助  
廣小路 木内 俊茂  
大工町 佐々木 善治  
同 龜屋 ヨシ  
縣廳小路 山熊 商店  
罐詰類及食品を并賣る  
大町二丁目 三浦 忠吉  
同 三丁目 神田 要助  
同 一丁目 伊川 商店  
西土手龜ノ丁 櫻田 三治  
右の二商店はおもちや類を賣る

茶町梅ノ丁 大森 巳之吉  
本町四丁目 森川 商店  
この二商店は繪草紙類を主とす  
第二十五 牛肉店(一、販賣)  
上通町 いろは屋  
西根小屋町 同 支店  
上看町 富岡 虎之助  
同 杉原 行益  
第二十六 牛肉店(二)  
長町末丁 杉原 牛肉店  
大工町 笑 富 亭  
川反三丁目 いろは屋

第三十七 旅人宿

石橋旅館(秋田市土手長町末丁) 秋田市唯一の旅館にして小林旅館と對峙雄を稱す客室七十坪庭園極めて廣く松翠深く置め白鶴馴れて常に庭階の間に俯眺す宏大を以て勝り閑靜を以て勝り紳士紳商の投宿多し  
小林旅館(同上) 客室六十八坪間数は石橋旅館より多く廣宏の客房なきにあらざれども小房小室を主とし處々に小庭園ありて樹密に苔深く極めて趣あり官吏軍人紳士紳商の投宿多し  
藤本富治(秋田市大町三丁目) 客室五十五坪北秋田の來客多し  
高西龜松(秋田市上肴町) 客室二十坪平鹿雄勝の客多く待遇亦懇切なり  
竹内小八(同上) 客室二十九坪中等客多し

佐々木惣吉(同上) 客室二十一坪餘  
酒井ハツ(秋田市茶町扇ノ丁) 客室十坪餘  
牧野正藏(同上) 客室十四坪  
今野長之助(同上) 客室十四坪餘  
加藤平吉(同上) 客室十五坪餘山利郡の客多し待遇宜し  
木村正吉(同本町四丁目) 客室二十坪あり  
沖ノ口屋(同上) 客室二十坪あり  
船木米造(同上) 同しく十五坪あり  
本間康之助(同上大工町) 客室二十一坪  
羽田ナヲ(同上) 客室十三坪餘あり  
沼田直藏(同上大町一丁目) 客室二十二坪あり秋田ホテルと稱す  
佐々木ノブ(同上) 客室二十一坪  
渡邊ツタ(同上茶町菊ノ丁) 客室十七坪

三浦タエ(同上) 客室二十坪あり  
山内辰之助(土崎港町上酒田町) 俗に一丁旅店と稱す同港第一の旅店なり客室五十三坪  
丸山旅店(同町) 客室十九坪あり  
佐々木旅店(同町新城町) 客室二十一坪投宿の客多し

村井善次郎(山本郡能代町) 客室の廣きこと六十二坪餘建築宏壯にして待遇頗る宜く魚鮮亦美なり同港第一の旅店たるべし  
地主竹治(同上) 客室五十八坪建築頗る大之  
關根屋(同上) 客室三十坪紳士官吏の投宿多し

諸井旅店(南秋田郡船川) 船川灣頭に俯せる三層樓にして鳥海の遠翠青天に挿み後に三山の晴嵐を帶ふ遠眺近臨共に興趣多きを覺ゆ客室四十七坪同港他に仙北谷、若狭屋等の旅店あり  
石山旅店(南秋田郡五城目町) 森山の積翠を帯びて立てる三層樓にして建築魚鱗共に土地の僻せるに似ず客室二十九坪餘好旅店なり  
永井旅店(同上) これ石山旅店と稱を争ふもの客室二十九坪餘あり

宮腰榮治(同上) 客室二十九坪  
相澤勝三郎(同上) 客室三十六坪あり  
齋藤市左衛門(大館大町) 客室四十五坪花岡旅店と共に同地の好旅店なり停車場前に支店あり  
花岡嘉一郎(同上) 客室六十四坪停車場前に同しく支店を有す  
小林直治(北秋田郡扇田町) 客室二十五坪  
田嶋ミヤ(同郡鷹巣町) 客室二十五坪

勝永長吉(同上) 客室十七坪  
 小園旅店(由利郡本莊町) 客室三十三坪建築  
 大に同地方にての好旅店なり  
 加藤峯三郎(同上) 客室三十七坪政客の投宿  
 多し各房清潔食饌亦美  
 正木清太郎(同上) 客室十六坪商人客多し  
 三浦半左衛門(同上) 客室三十一坪餘  
 早川恒助(同郡龜田町) 客室三十六坪同地第  
 一の旅店なり  
 佐藤惣左衛門(同郡平澤町) 客室二十九坪餘  
 小倉重三郎(同上) 客室四十四坪餘海水浴の  
 設あり  
 細矢タミ(同上象潟町) 客室二十七坪  
 岡本由太郎(同上) 客室二十九坪  
 渡邊トメ(仙北郡大曲町) 客室二十坪九子

川に枕み眺望よく食饌殊に美に待遇懇切を極む  
 竹内吉治(同上) 客室十九坪食饌美なりと稱  
 せらる  
 西村喜惣兵衛(同上) 客室二十四坪三階の建  
 築高く國道に俯せり  
 畑村吉(同郡刈和野) 客室二十八坪  
 奥田常吉(同上) 客室二十五坪  
 小坂龜松(平鹿郡横手町) 客室三十一坪客房  
 頗る佳官吏及紳士紳商の投宿多し  
 平田源助(同上) 客室六十四坪同地第一の建  
 築なり  
 平田利助(同上) 客室五十坪  
 柳澤松藏(雄勝郡澤湯町) 客室三十一坪  
 藤田孝助(同上) 客室二十四坪

### 第三十八 日本料理店

俱樂部本館(秋田市下長町)  
 同 別館(同上龜ノ丁西土手町)  
 瓢箪形の大池を圍みて丘陵起伏樹木疎密花卉四  
 時に榮々眺臨晴雨に稱ふものこれを俱樂部とす  
 本館は階上を西洋室とし階下を日本間となし其  
 廣さ共に百人の客を容る、に足り他に附屬の小  
 室三四と庖厨とを有す別館は園池に架する長橋  
 を以て之と連なり六十八坪の二階造りにして大  
 會に宜しく小飲に宜しく絃歌日夜絶えず官吏軍  
 人紳士紳商の客頗る多し庖丁亦佳にして市内  
 第一の割烹店たるに負かず  
 志田屋(同上寺町)  
 市内に於て雄を俱樂部別館と争ふものを志田屋  
 とす園廣からずと雖も雅致多く建築亦頗る趣あ

りこの店亦大會小飲共に適し數十人の宴會に酒  
 を浴び妓を呼ぶ豪客あれば四疊半に淺酌低吟の  
 粹人あり主人夫妻の如才なく愛嬌ある點亦多く  
 の遊客を羅致する所以か  
 龜 清(同川反四丁目)  
 旭川の清流に臨みたる京風の建築一棟これを龜  
 清とす庖丁の旨さは市内第一と稱せられ其價の  
 高き亦市内第一なるべし財に富めるもの通を誇  
 るものは必らず此樓に一酌するを要す  
 富貴亭(同田中町)  
 奥まりたる小房に暖妓と對酌するは此家を最と  
 す境清閑にして殊に酔後の雅談に適す  
 壽 亭(同川反四丁目)  
 旭川を帯びたる小樓夏季は殊に涼を納る、に宜  
 し近時増築成りしを以て最も暢飲に適するなら

酒中主婦の太棹を聞く如き更に妙なり

中野亭(同川反三丁目)

中等割烹店なり此種の客種多し

都川亭(同上)

旭川に臨みたる料理店なり料理は中野亭と伯仲の間にあらんか

松月亭(同川反四丁目)

近來開きたる割烹店なり地は烟花叢裡にあるを以て自ら一種の來客あらん此等は寧ろ半會席を以て稱すべきものなり

松風亭(同上舊城公園)

千秋公園の中央にありて眼界四方に馳せ眺望尤も宜し公園に筈を曳くもの小憩して茶菓を喫すべく又樓上に酒を呼ぶべし文人墨客の清遊に適せり

柏木亭(同上川反四丁目)

常盤木(田中町)

古月亭(同上舊城公園)

吉野屋(同上長町末丁)

釣堀(蕎麥)(同上古川堀端町)

翁屋(貸席)(同上古川町)

都庵(蕎麥)(同上川反五丁目)

同支店(料理)(同上川反四丁目)

更科(同上)(同茶町扇ノ丁)

竹半(仕出し)(二丁目小路)

小田久(同上)(保戸野諏訪町)

富貴見樓(貸席)(同田中町)

玉川(壽し)(池永小路)

中野屋(天麩羅)(田中町)

池鯉亭(土崎港)

秋田市を距る一里半割烹店あり池鯉亭と名づく細廊曲檻一池を環りて構は魚鮮美にして樹木

第四十 西洋料理

洋食は從來獨立せる料理店なく或はこれあるも閉店せざるもの少なりしか今は千秋軒の獨立して西洋料理を開くあり同店は昨年の新築にして各室清潔に割烹亦頗る妙なり室内に玉突臺の設備あり

西根小屋町

長町末丁(平等)

其他各料理店とも二三品は客の求に應じて調進す

千 秋 軒  
吉 野 屋

扶疎頗る景致あり一日の閑遊に適す

武田亭(南秋田郡寺内村)

池鯉亭と其名相匹し屋宇これに比してヤ、廣く丘陵起伏して池魚圍々焉たり蒲焼を以て名ありこの二者共に浴湯を具ふ

三浦亭(河邊郡新屋町)

山を負ふて池を開く樓は半これに枕む池上の鯉魚を割て客に薦む亦清遊に適するの地なり

第二十九 鰻屋

市内にて鰻に名あるものを左の二店とす

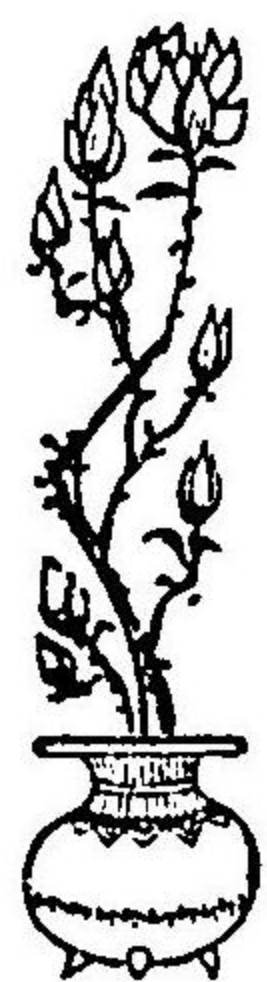
志田屋

柏木

土崎には又同じく左の二店あり就中武田を以て蒲焼屋の巨擘とす

武田亭

池鯉亭



第四十一 温泉場

湯本温泉 南秋田郡男鹿北磯村湯本  
湯本は北浦を距る一里に満たす船川より三里の  
道程なり泉質炭酸泉婦人病、皮膚病、腸胃の加  
答兒、痲痺質私等に効あり地幽邃にして兼て魚  
鮮に富み男鹿全嶋の名勝坐して遊覧することを得  
得旅館に暢神館あり

鶴の湯(冷泉硫黄泉) 同郡富津内村中津又字滑多羅  
薬師の湯(同上) 同郡内川村浅見内字後田  
鹽の湯(同上鹽類泉)同郡金足村堀内字小栗  
湯の澤(冷泉) 同郡上新城村白山字湯ノ澤  
瀧の下(冷泉、硫黄泉)同村湯の里字瀧の下  
神の湯(同上) 同村遣川字愛染  
鶴の湯(冷泉單純泉)同郡旭川村山内字女夫石  
旭(冷泉) 同村泉字五庵山

市を距る二十餘町巨利天徳寺に相隣りて旭冷泉  
あり但し浴舎荒廢して操浴に便ならず泉質諸病  
に効あり

柳の湯(冷泉) 河邊郡新屋町  
湯の目澤(同上炭酸泉)同郡川添村黒瀬  
千齡泉(同上硫黄泉) 同郡下北手村櫻  
姥ヶ澤(同上鹽類泉) 同村寶川  
湯の澤(鹽類泉) 山本郡藤琴村字湯の澤  
湯の前(冷泉硫黄泉) 山本郡常盤村常盤  
大瀧 北秋田郡十二所町字大瀧  
大瀧は大館停車場より二里餘扇田に一里半十二  
所を距る僅に半里許なり泉池三ヶ所ありて鶴の  
湯、芒の湯、新湯と稱す三湯共に鹽類泉にして  
消化不良、慢性胃加答兒胃潰瘍、慢性腸加答兒  
肝臟諸病、氣管支喉頭諸病、子宮諸病、骨系諸  
病水腫症、皮膚病等に効あり浴客一年壹萬以上

と稱す

小又温泉(硫黄泉) 同郡前田村森吉砂子澤  
湯の岱(冷泉炭酸泉) 同郡澤口村小森  
平戸内小澤冷泉(鹽類泉)同郡山瀬村岩瀬  
大湯澤温泉 同郡矢立村長走  
本泉は磐梯山破裂の當時湧出せしものにして陣  
場停車場に近し甲乙兩泉ありて甲泉は鹽性硫黄  
泉なりこの地山水の幽區にして墨客の來遊多し  
安穴温泉 同村  
大湯温泉と同時の發見たりこの地古昔采鹽せし  
所といふ鹽性含鐵炭酸泉にして呼吸器諸症、消  
化機症、血液變調に因する諸症に可なり  
砂子澤温泉(鹽類泉) 鹿角郡小阪村字砂子澤  
大湯温泉 同郡大湯村  
毛馬内に一里半花輪に三里温泉三所あり下の湯  
をよしとす下の湯、上の湯、河原の湯共に硫黄

泉なり諸症に効あり浴客常に多し

蒸の湯温泉(鹽類泉) 同郡宮川村長谷川  
赤川温泉(硫黄泉) 同村  
鏡川温泉 同村  
湯瀬温泉(硫黄泉) 同村  
養命泉冷泉(鹽類泉) 由利郡松ヶ崎村親川  
岩倉の湯冷泉(同上) 同郡南内越村福山  
彌六内冷泉(同上) 同郡上川大内村瀧  
石澤の湯冷泉 同郡石澤村柳生  
湯の澤冷泉 同郡直根村猿倉  
檜木臺冷泉 同郡川内村小川  
櫻の泉冷泉(鹽類泉) 同郡金浦村  
小末澤冷泉 同郡西目村  
大柵冷泉 同郡小出村伊勢地  
由利の湯冷泉(鹽類泉)同郡本莊町石脇  
黒湯温泉 仙北郡生保内村  
又龜の湯と稱す生保内より四里仙岸峠の山麓に

在り海面より高さこそ二千四百尺二湯あり一を冷の湯、一を熱の湯と稱し又カラコノ湯あり硫黄泉なり

鶴の湯

同郡田澤村

白湯(冷の湯)小瀧、大瀧、黒湯(熱の湯)等あり共に硫黄泉にして黒湯は婦人諸病に他の三湯は打撲手足の疼痛等に効あり

蟹の湯(鹽類泉)

同村字蟹湯

鳩の湯温泉

同村玉川

玉川の上流にして遠く人家と隔たり美女嶽、玉川男女兩体山あり風籟泉聲全く塵區の外にありこれより北二里にして磁黒の湯あり硫酸泉なり即ち玉川毒永の注く所なり

蟹場所温泉(鹽類泉) 同村田澤

小平上段冷泉(鹽類泉)同郡峯吉川村

湯元温泉(鹽類泉) 同郡内小友村

蛇の湯と稱す微毒腫物金創等に殊効あり

湯神臺冷泉

同村湯神臺

瀧の澤冷泉(硫黄泉)

同郡淀川村中淀川

湯の森冷泉

同郡金澤町倉人

横手を距る一里有餘有名なる金澤柵附近なり

夏瀬冷泉

同郡白岩村白岩

鶯ヶ澤冷泉

平鹿郡山内村土淵

泥湯温泉

雄勝郡須川村高松

又安樂泉と稱す四泉あり元湯一名ふかし湯、中の湯、川向の湯、日洗湯等なり浴客多し

川原毛温泉(鹽類泉)

同村

椽湯温泉

同郡皆瀬村川向

小安温泉

同村小安

宮城、岩手二縣に通する街路に當る山水の風景頗る佳なり浴客多し

大湯温泉(鹽類泉)

同村

溪琴樓あり八幡公の古蹟陣野臺あり

芳賀 篁墩

溪上危橋山路分 孤村滅瀧絶塵紛 崖頭高閣

偏宜月 世外青山每帶雲 一道石泉搖枕響

數聲雞犬隔峯圍 浴罷間酌三盃酒 時有隣僧

贈野芹

湯の岱温泉 同郡秋の宮役内

太郎兵衛の湯、彦左衛門の湯、太郎右衛門の湯

あり單純泉なり

湯の澤温泉(單純泉) 同郡院内村下院内

湯の原冷泉(鹽類泉) 同郡湯澤町

荒湯澤温泉(單純泉) 同郡秋の宮村役内





市内景況一斑

◎市街割 秋田市の市街は舊藩時代に於て舟木鞆負の割當てしもの由傳ふされども其後町數大に加はりしなるべく慶長七年佐竹家の當地に遷り始めて今の秋田城を經營せる際は現時の上中城、長野町、中通外數町を士族に割當てしに過ぎざりしが旭川の開墾落成して内町、外町の區分付きてより以來次第に市の區域擴大して遂に今日の如き有様に至りし如し今寛文十二年の町割軒數を見るに左の如し

- 一 上通町 四十軒
- 一 一通町 二十一軒
- 一 大工町 三十六軒
- 一 上登町(?) 三十四軒
- 一 四丁目 三十六軒
- 一 川端一丁目 十三軒半

- 一 同 二丁目 二十軒
- 一 同 三丁目 十八軒
- 一 同 四丁目 十八軒半
- 一 上米町一丁目 三十一軒半
- 一 同 二丁目 三十八軒半
- 一 下米町一丁目 三十軒
- 一 同 二丁目 三十四軒半
- 一 豊嶋町 四十六軒
- 一 柳町 三十三軒半
- 一 田中町 三十五軒半
- 一 御沙務小路 六軒半
- 一 上龜の丁 三十軒
- 一 下龜の丁 三十八軒半
- 一 一五丁目 五十六軒半
- 一 同横町 十七軒
- 一 下肴町 三十八軒
- 一 六丁目 四十軒

三十四

一馬口勞町 五十四軒  
以上の町數調に茶町通なきは如何にや再考すべし

- 一 五丁目上川端 十二軒半
- 一 同 下川端 十一軒
- 一 舟大工町 二十軒
- 一 四十間堀川端 八軒
- 一 鍛冶町川端 十四軒半
- 一 同 下川端 二軒
- 一 上川口 三十軒
- 一 下川口 三十一軒半
- 一 新川口 十六軒
- 一 鍛冶町 六十三軒
- 一 新城町 十五軒
- 一 酒田町 十五軒
- 一 城町 四十軒
- 一 四十間堀 十六軒
- 一 八日町 四十七軒
- 一 鐵砲町 二十一軒半
- 一 十八衆町 二十五軒半

これによれば寛文年中には最早や今日の如き市街の狀態を爲せしものならん然して成辰後士族町の零落せしより町割の如きも多少の變更を生し兵營新設によりて更に長野町、土手谷地町及び中谷地町の半を失ひ手形部は其強半を練兵場敷地に供するに至れり但し停車場新設後の狀況は今日に於て豫測し得ざるも同地附近に新らしき町割を見るに至るべきは疑ふべからざる也

◎市内般販の地 藩治の時代は知らず縣政に歸してよりも通町は實に全市の中心點たる觀ありしが近時は縣廳小路も亦繁昌の街路となり停車場新設に及べばこれと五丁目横町を連絡する

秋田案内

三十五

道路も亦繁昌の地となるべく随て通町は其勢力を失ふに至らんか但し今日に於ては通町は市場地なるを以て當市中第一の盛り場なり次に田中町、柳町の通りは大阪の千日前、仙臺の東一の如く芝居、小料理屋等の輻輳せる爲め頗る繁昌の區なり

◎家屋の構造 成辰後二回の大火災は一般に家屋の構造を粗造ならしめしと雖も木材に富むと冬時積雪に堪得る如く造家するの必要により尙東京市街に比すれば建築法は遙かに完全なるべし但し外觀と間取の悪しきは其通弊にして大建築なきも亦其特相なり市中煉瓦造を用ひしは纔に安田銀行支店と大嶋商會の二あるのみ屋根は一般に瓦葺を用ひずして板屋葺なり茅葺はもと數多ありしも今は士族町に纔に散見する

に過ぎずこの他大町、茶町の市廓は小店なるものありて街路の兩側に庇を卸し通行人はこれを通行せしものにて主として冬時積雪の際往來に便せしものなれども比年降雪の少きより今は全くこれを廢せり唯大町二丁目邊に多少この遺形を存するのみなり

◎商店の種類、景況及物價 藩制時代は大町は呉服、茶町は茶、綿、紙の類、鍛冶町は鍛冶屋、大工町は大工、米町は米商と皆分居せしものなれども今は混淆して一處に同業者の輻輳する如きことなし但し大町と茶町のみは尙舊時の俤ありて大町二丁目は呉服店多く茶町菊の丁は茶、紙、綿等の商店多し商店の種類は前の商工業内の部に大要を掲げたるが近時各市中最も進歩せるものは雜貨商、

菓子店、靴屋、茶紙屋等にして雜貨店中の洋物店と稱するものにては其物品にもよるなれども東京銀座通を散策して購得るものは大抵當市にこれを購得べく随て奢侈の惡風は一般に浸染せり菓子如きも西洋菓子を除けば普通の需用を充すに於て毫も差支なきもの、如し呉服類は割合に高價にして其品類も亦随つて多からず唯國産の畝織八丈は次第に進歩改良の効現はれ其柄の如きも餘りに不器用ならざる如し下駄疊は市の特産物の一なれども下駄の製造は尙進歩し居らず故に贅澤家は往々東京に注文する趣なり

酒類は一般に市内の醸造酒を飲用するを以て上方酒中國酒を賣捌くもの市内唯二個の商店あるのみこれとても二三種を賣捌くに過ぎずしてこれさへ時として品切れのことあり市中の料理店も近時は大抵地酒を用ゆ湯屋は不潔なるか多し一回貳錢東京より廉なること纔に五厘なり床屋はこれとて東京に比すべくもあらねど其賃錢は八錢東京に比すれば四五錢より十錢位安値なり市内の人力車は甚だ不廉なり夜中料理店より歸路に就く場合等なれば五丁か十丁の所にて二十錢より三十錢を食するものあり旅籠料は一泊壹圓以内なるべし近縣に比して廉なりといふべからず但し魚鮮に富むの地なるを以て食物には差支なし料理店も不廉なるか如し且つ會席も即席もゴツチャにして堂々たる會席料理屋か即席御料理の看板を掲げたるさへあり牛肉店は特に拙し

蕎麥すしは近來漸く人の口に上すものを出すに至れりわけて蕎麥は一進歩なり

◎遊覽者の爲に 秋田停車場に下車せる人にして一日若くは二日を秋田の旅に消せんものは市内を一遊すること必然なるべし偕て市内の遊覽すべき場所といふは縣廳、兵營の見物は別ものとして先づ千秋園公園に足を向くるか當然ならん千秋園公園の案内は名勝案内の部に精しければこゝには載せず其他は物産陳列場、圖書館位のものにて他にさしたる場所とてなし劇場は長榮座、秋田座の常舞臺あり多くは旅役者と壯士役者とか舞臺を占領し居れり夏時は富貴見樓に菖蒲を觀菖蒲園子を喰ひつゝ、大弓を試むるなど宜しからん大弓場は他に舊城内、八幡社内及表鐵砲町等にもあり料理店ならば俱樂部

志田屋、龜清等ありて他に壽亭、富貴亭等も宜しからん洋食店には千秋軒ありこれには玉突場の設あれば紳士等の來り遊ふもの多し

來遊者の故郷への土産として購ふべきものは露を刷上げたる畝織及金巾の服紗の如き荷當ならざるもの宜しかるべし畝織ならば一枚三十錢より壹圓五六十錢まで金巾は一打八九十錢のものなりこれよりも高價のものにては八丈縮と畝織にて八丈は三圓以上六七圓まで畝織は七圓以上なるべし食品にては落漬路の罐詰八郎湖産の佃煮、鮎八橋鮎等にて何れも所在の菓子店、雜貨店、呉服店等にあり

粗末なれども八橋人形の不細工なるなど亦面白し

◎市内雜觀 街路は大抵廣くして往來に不便

なる如きことなし

商店は凡てノン氣なりお世辭を播かねば上手も使はず然して業務に餘り忠實ならず

言語は高調子にしてゾンザイなり但し無禮の意ありて然るにはあらず

旅籠屋は餘り親切にあらずされども決して不親切にはあらず

市内に勸工場なし勸工場らしく建築せし商店は大島商會と中村陳列場及那波商店の三あるのみ割合に多きものは靴屋、洋服裁縫店、足袋屋、藥種店、鍛冶屋等なり

石版印刷所も亦多し活版所か五軒なるに彼は七軒なり

料理屋に入り見よ來客を門前まで送出すもの志田屋一軒位のものならん



茶屋の女中は藝者に使はるべきものなり

藝者には祝儀を呉れすとも可なり若し祝儀を與ふならば必ず現金なるを要す然らずは客に損ありて藝者に得なし

陶器は六なものなし大嶋商會の委託品に多少高價の品あり

電燈あれども夜間店を張らざる商店多し

物産

●織物類は畝織、八丈、蕨織、横手木綿、羽二重、瓦斯八丈等にして畝織に路を刷出せる手巾をも産す

◎畝織は秋田市附近及湯澤地方を主とし羽二重はもと市の事業なりしか今は那波氏これを譲受けたり八丈亦市の那波、田中等の機業場より主として産出す

◎蕨織は由利郡龜田の特産なり

◎生糸は雄勝、平鹿二郡を主とし他は各郡市より多少産出せらる

●木材は本縣の重なる物産にして各地方より出ずも其市場は大館、能代、五城目、秋田市等なり挽材會社は能代に二、秋田市に三あり馬産は縣内到處に盛なり畜産會なるものあり

田村及び横手を數ひ松原柿の無核なるもの亦稱せらる梅は本莊に多し

●瀨戸物は増田、白岩等に産するも良品を出すこと能はず雑用品として八橋焼最も賣行よし

●漆器は能代に春慶塗あり但し高價なるを以て販路狭しといふ其他角館、川連にも同じく漆器を産し川連は殊に膳、椀其他の各器什を産出せり

●下駄表は秋田市及本莊より出づ精品あり南部表と優劣を争ふに足るなり

●金銀細工亦頗る良品を出す青銅の器物も市の産出して近來技術大に進歩せるを以て粧飾品として器什類として共に佳なり

りて最もこの奨励法を劃出す

●魚獵は沿海地及八郎湖御物、米代二川等に産するもの頗る多し淡水産としては鮭、鱒、香魚、鰻、八つ目、鱧、ばら、いはな等にして沿海地よりは鯛、鰈、比良目、鱈、鮪、鮑、烏賊、鰒等を産し八郎湖よりは白魚、若鷺、鮎、鯉、ぼら、鱧等を産し田澤湖より國鱒、あめ鱒と稱するものを産す

◎八森、岩館の鮑、男鹿の鱒、練、本莊の海老等は一の特産なり

◎八郎湖の白魚、沙魚、若鷺亦稱せらる

◎縣事業として放流せる鮭、鰻は頗る結果よしといへり

●蔬菜果實類にては山路、舞茸、松露、初茸、ぬらめき茸、林檎、柿等を主とす柿は雄勝の山

●菓子類はのし林檎、落漬、翁飴等なり本莊羊羹、新屋諸越、花館の最中等舊求名ありしも今人の嗜好に適せざるもの多し

●其他の食品は蕎麥は能代を稱し納豆は檜山を稱し鰻鮓は稻庭を稱し蕨餅は船澤を稱す稻庭の鰻鮓は干鰻鮓として今も他に輸出せらる、を見



斷裁之上理學  
以上用電  
裁縫

山崎洋行

弊店の特色

地質ハ確實ニ流行斬新

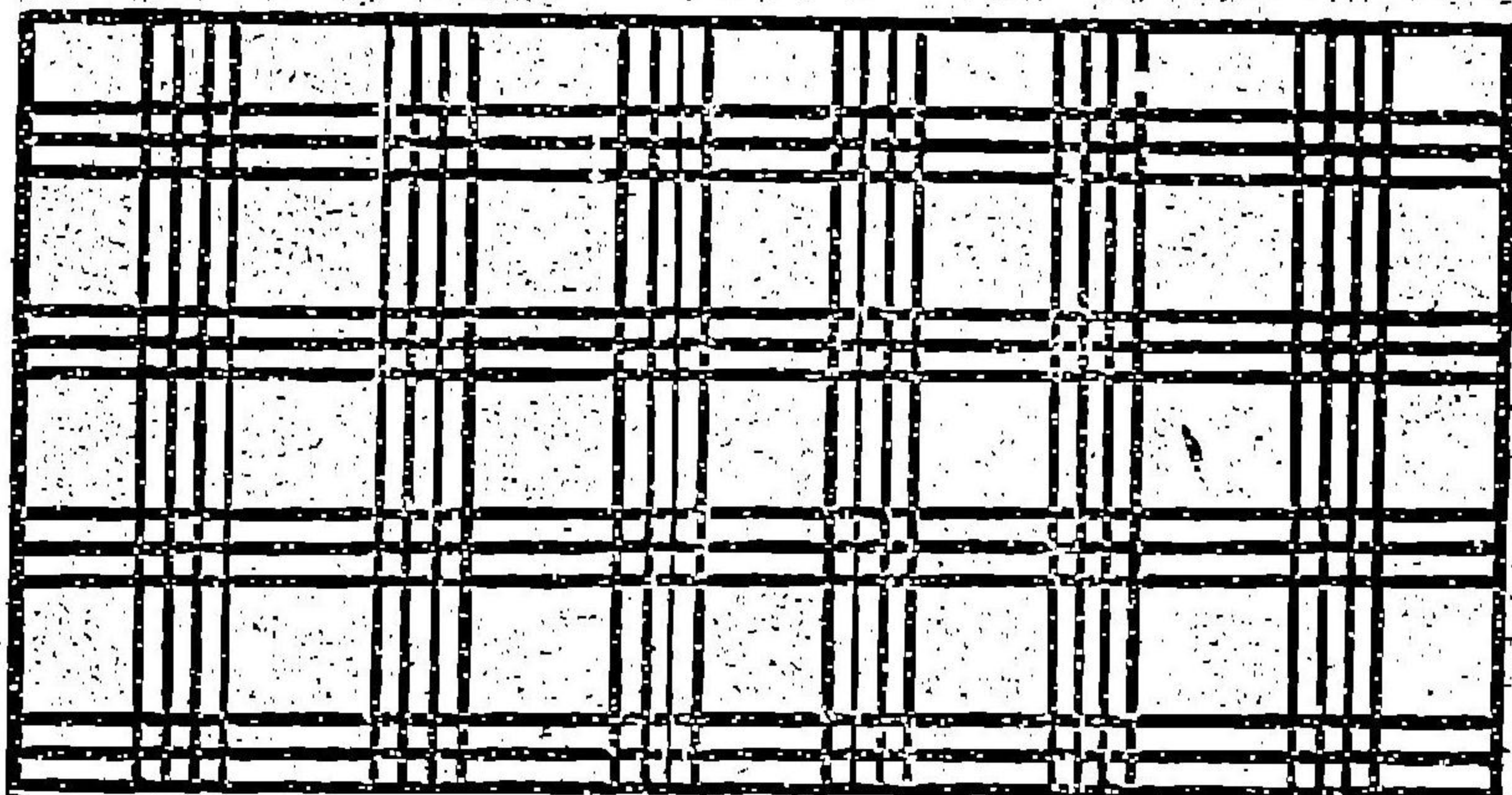
裁縫ハ精巧ニ優美堅牢

期日正確ニ送達機敏

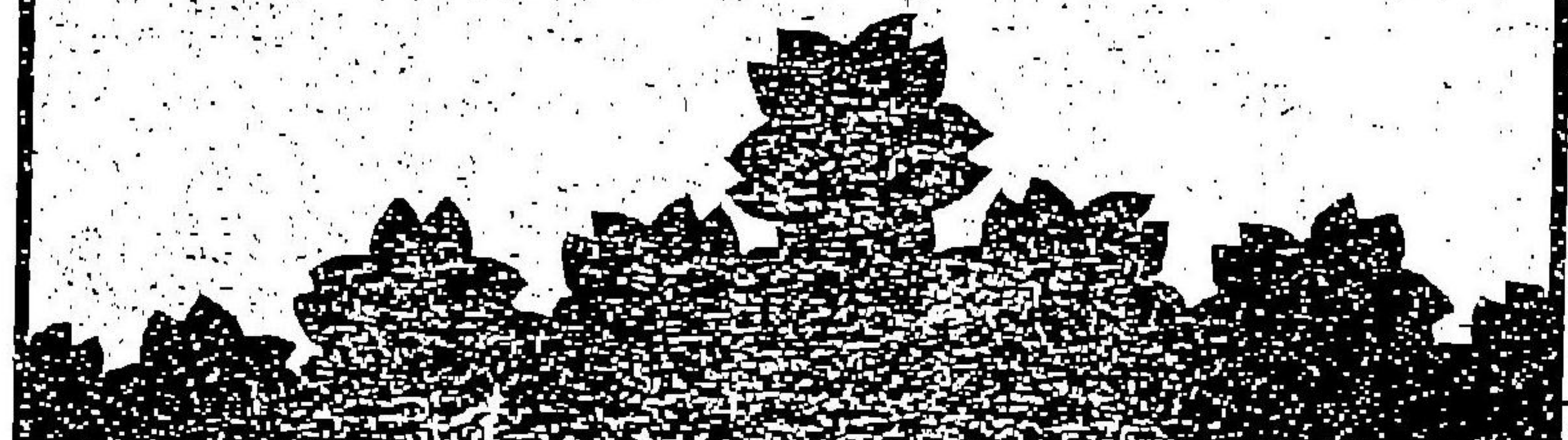
價格低廉ニ誠實勉強

新古洋服交換便利

秋田大町二丁目



金時印織物瓷膏元

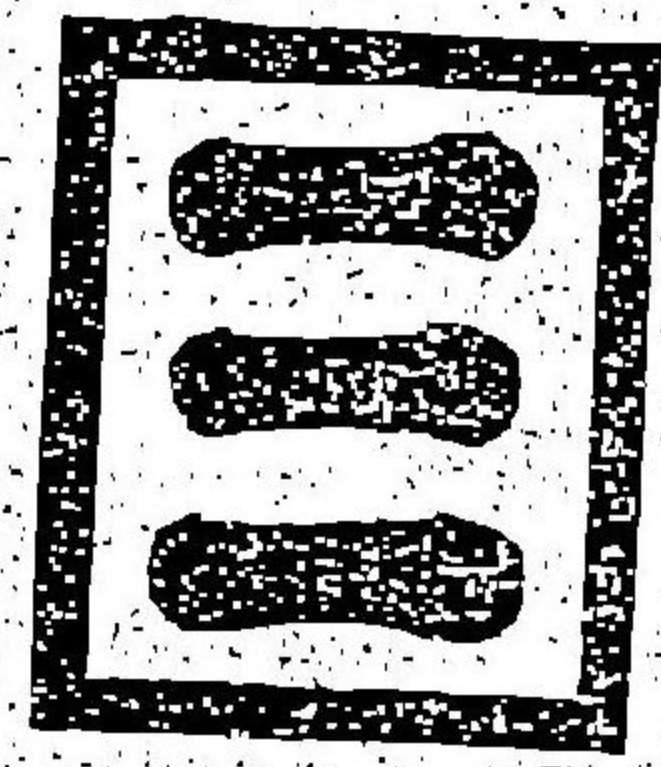


秋田大市一丁目

坂田商店

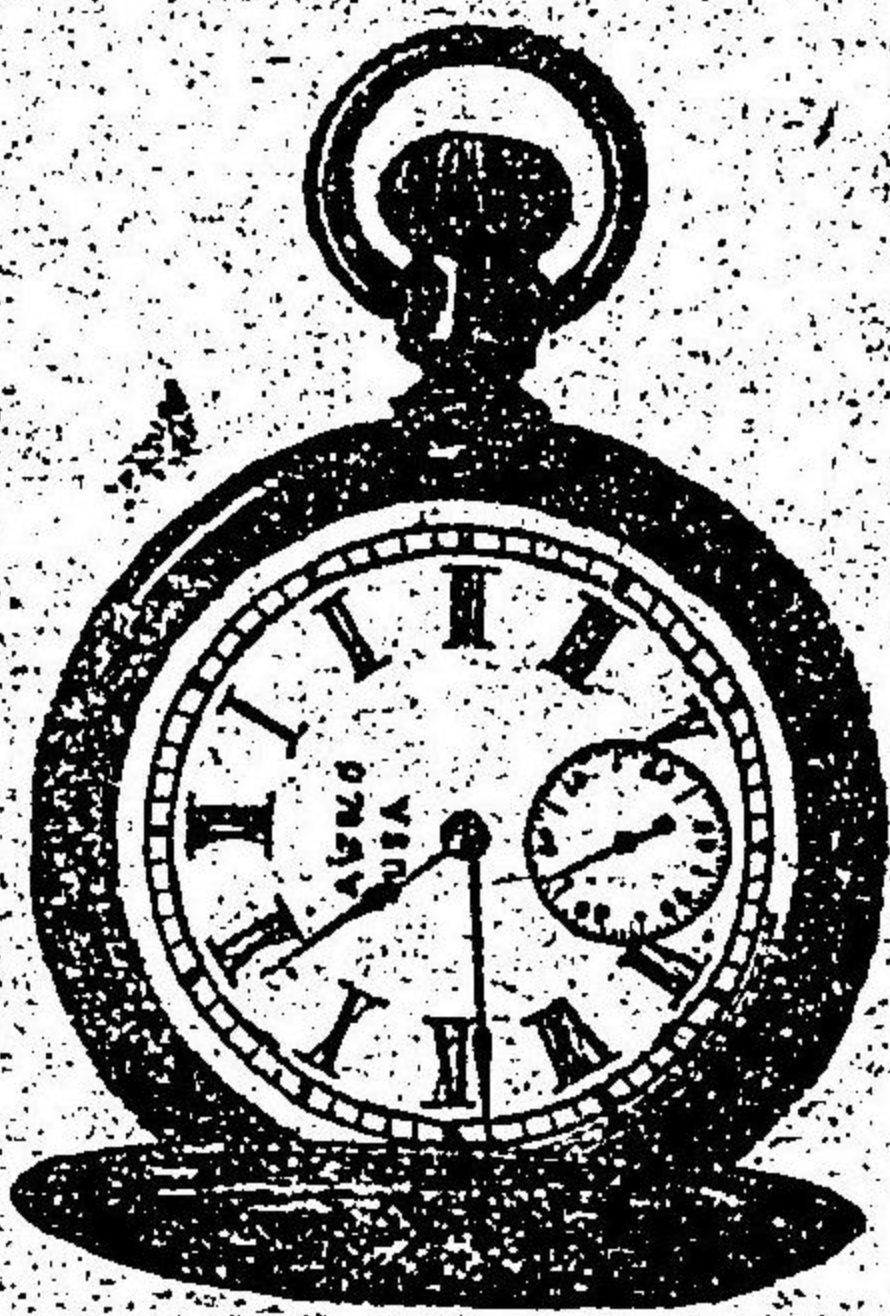
和洋小物商

秋田市茶町菊丁



土屋善三郎

流行新形各種



晴雨計 寒暖計  
貴金屬指輪類  
其他時計附屬品

保險附

右各種共時勢ニ後レズ新流行品仕入置候ヘハ御來店御高覽ノ上御  
購求ノ程伏シテ奉懇願候

秋田市大町二丁目

卸小賣並修繕

蜂屋時計店

謹テ四方ノ華客ニ白ス弊店一タヒ印醬油ヲ此土ニ創業スルヤ醸造法  
ニ萬般ノ改良ヲ加ヘ頗ブル原料ヲ撰ミン故爾來長足ノ進歩ヲ爲シ彌江  
湖ノ名聲ヲ博スルニ至レリ是レ實ニ愛顧諸君ノ恩惠ナリトス大方ノ厚

陸軍御用品  
商標



最上等  
醬油

意ニ酬ユント欲シ今ヤ大ニ醸造石數ヲ倍加シ愈々改良ノ實ヲ舉ケント  
欲スヨリテ本商標ヲ御認ノ上續々御需用アラシムコトヲ切望ス

奧羽聯合共進會褒賞銀杯拜受

太醸造元

秋田市大町二丁目

田中太吉

秋田 國產 金銀細工物販賣所 秋田市川端二丁目 金光堂 竹谷金之助

族 館 清風閣 北秋田郡扇田町 小林直吉

橋本宗彦編輯

秋田沿革史

全二冊洋形  
クローム美  
本紙數千七  
百頁定價金  
貳圓

賣捌所 土崎港旭町 溫古堂

柳の湯

秋田市柳町

梅の湯

秋田市龜ノ下西土手町

歐米各國新流行風

理髮消毒專門

理髮師 旭 床

秋田市本町四丁目小路

▲新柄澤山着荷仕候▼

●フロックコート

●モニングコート類

●背廣服及獵服類

●吾妻コート及御婦

人用合羽

●軍服正服各種

●學校製服其他製服

▲價格低廉大勉強仕候▼

秋田市大町二丁目

秋本洋服裁縫店



御旅館

仙北郡大曲町

▲房室華好  
食膳豐美▼

枕流館

▲駒嶽雲開  
毬川秋澄▼

渡邊才治

寫真館

秋田市場茶町菊丁

三浦寫真館

# 名勝案内

## 陣場

官設鐵道北線の南に馳せて碓ヶ關より矢立の峻嶺を洞過し本縣の境に入れば其最先の停車場を陣場とす山間の一孤村にして長走村の支郷に屬し南部、津輕、秋田對陣の地たるよりかく名けしといふ城加倉山にあり

## 白澤

陣場より四哩三十鎮を白澤停車場とす舊津輕街道上下の馬糞場なり  
 ◎社地観音 龜井六郎重清義經に後れ其營の中にこめし佛鉢を安置せしものと云又女神男神兩峯あり胎藏金剛の大日を安置す修験者登山の地たり

◎見入の地藏 白澤より二里花岡村にあり傳いふ阿倍貞任の伯父なる盲人衣川の館破れし後花岡に身を潜め十三佛に像とり十三の森を築き其終りの地にこの地藏を奉せしと

◎信正寺 もと眞言宗森昌寺淺利左衛門の菩提寺たり後禪宗に改め信正寺と號す

◎七ツ館 出羽庄司の居城なりといふ

◎釋迦内村 白澤より大館に至る途次なり釋迦寺あり西明寺道崇自作の尊像なりといふ

## 大館町

白澤を距ること四哩六鎮もと佐竹家の一門の代々踞有せし地にて今尙警察署區裁判所中學校監獄支署等あり北秋田郡第一の都會なりこの地より鐵道線路に傍うて西下すれば秋田市に通する國道となり東上すれば扇田十二所を経て巖手に

通する縣道となる曲物の産物あり

◎玉林寺 曹洞宗補陀寺の末寺にて淺利家の菩提寺なり

◎淨應寺 明應年間創立にして蓮如の法弟

譽田道親の開基眞宗大谷派なり什寶には大臣妹子の作といふ聖徳太子の像、蓮如の遺物なる如來の畫象あり

◎贊の柵趾 今の二井田村にありこれ奥羽押領使泰衡か其臣河田次郎行文に殺されし地にて寛政九年の建立に係る藤公祠碑あり撰文は平安の人伊藤善昭

早口

大館より五哩七十瓊

鷹巢町

早口停車場より五哩二十九瓊北秋田郡役所所在

地なり

◎坊澤 江戸角力の大關まで取上げたる白川船右衛門の出生地なり

◎七座天神 小繁に在り社格縣社天神七代を祭るといふも未だ審ならず社内に碑あり故有願川宮の繁額にして重野成齋の撰長三州の書なり

◎七倉の勝 米代川の北秋田郡より山本郡に入るころ長流瀝して碧潭をなしこれに七倉の七輪積翠染むるか如く高く青天に挿みて其影水上に落つ七輪とは正面座、烏帽子座、箕座、柴座、三本杉座、松座、大座をいふ山色水光相映つて本縣有数の勝區をなせり山上には阿倍比羅夫の祠あり

琴音橋 赤星 藍城  
仙子黒頭才絶群 行藏下得避習紛 山隈雨郡

犬牙合 木夾孤村魚尾分 千里野中來牧馬  
十年兵後去耕雲 玉琴今夕長橋下 應向清風  
明月間

◎阿仁銅山 鷹巢より米内澤を経て阿仁銅山に至る

銅山

匹田 松塘

石怪山奇鳥亦愁 朱陳村在白雲頭 平生飽識  
金銀氣 不向貧泉掬寸流

ニツ井

鷹巢より七哩六十七瓊七倉の勝區を過ぎ數座の洞門を越ゆればニツ井停車場たり

◎高岩觀音 荷上場に在り境内に來迎石、圓廊石、籠目岩、地獄澤等あり

◎鹽井 切石の村西山の麓に在り弘法の突鹽

◎切石古城 額田淡路守の居城なりしといふ

◎飛根古城 花立城、比丘尼館、芹澤館、高館、赤館等の古城趾あり

能代町

ニツ井より十哩三十九瓊を隔つ能代もと淳代と書し後野代となり今能代とかわる其名の國史に見わしは日本紀齋明天皇の四年なり是年淳代郡の大小領に位階を賜はり大領沙尼具那をして蝦夷の戸口を檢せしめ玉へぬ天正十六年の頃には秋田城介の臣大高傳右衛門城代として慶長の始には大窪三河守光久奉行たりしといふ後其子丹後父の任を承く佐竹家の所領となりては代々能代奉行を置きこの地を統治せしめたり其先を中田彦太夫といふ  
能代は山本郡役所警察署裁判所稅務署等の所在地にして且米代川の河口に當り舟楫の便少から

ざれば一萬以上の人口を有し頗る繁昌の都會なり加ふるに挽材會社ありて縣北三郡の材木商の市場たり産物は木材、春慶塗、翁館等なり

◎日吉神社 海上出現の靈神なりといふ天正年中より山伏大光院を別當とす境内七社あり

◎八幡神社 もと護國山磐若寺と號す慶長年中の遷座なり境内夷之宮、相殿二座、住吉四所の神をも合祭す

◎長慶寺 曹洞宗なり慈覺大師一刀三祝の一面觀世音を本尊とす春國和尚の建立なり

◎三十三觀音 慈覺大師作五知の如來立像五尺五体なり延喜式の出羽國五大尊寺といふものは是なりと言傳ふ

◎大間越街道 能代より米代川の長橋を渡りて八森岩館を経て青森縣大間越に至る縣道なり

◎米代川 鹿角郡より源を發し北秋田、山本二郡を貫流して能代より海に入る米代川一に湘江と稱す

◎磐若山 能代港の南なる丘陵なり山上には茶店あり米代川眼下に横はりて北には八森、岩館の諸山青描くか如く眺極て佳然して後山一帶の松林は藩の木山方加藤清右衛門の栽する所なりといふ今や同地の防風林たり

加藤 月逢

滿山松樹綠成堆 曾是家君手自栽 遺得百年身後計 千餘民戶給薪材

田口 文藏

滿地松銀風整梳 拾墜猶足禦冬儲 碑表遺愛知天意 長使鄉人供掃除

森 岳

能代驛を距る六哩三十二鎮

鹿 渡

森岳を距る四哩十一鎮八郎湖に接せり鮒を産す

◎川尻古城 鹿渡より鶺鴒川に達する路上に在り川尻靱負の居城なりといふ鶺鴒川にも古城あり鶺鴒川某の居城といふ共に秋田城之介の家士なり

◎信雄屋敷跡 天瀬川に在り信雄出羽に配流せられし時この地に居りしといふ

五 城 目

鹿渡を距る六哩六十鎮この地より南秋田郡に屬すこの驛五城目と稱すと雖も實は一日市に近し

◎五城目町 五城目と稱するは七瀬口、山内浦大町、馬場目、五十目五ヶ城の地たるより出でし名稱なりといふこの地附近古城頗る多し産物は木材、鑄物等

◎副川神社 面瀨村浦大町に在り正徳四年再建式内社なり俗説にはこの地もと保呂羽山と稱し波宇志和氣社の社地なりしを副川神社と稱せしも分明せざるより假に此地に置けるものなりと即ち副川神社の舊趾は仙北郡神宮寺を眞とすといふ果して然るや否や

◎三倉岬 眞坂村にあり文化年中この地に茶店を設け置して望湖亭といふ龍湖の勝景を一眸の中に収め雨奇晴好宜しからずといふことなし明治十四年車駕來巡の日南面岡と名を賜はり川田剛の撰文も岬頭に碑を建てたり頼鳴蛙か夢魂飛入洞庭湖の一詩を留めしは此地なりとす

次日下部鳴鶴過八龍湖畔有懷頼三

樹之詩韻 山方 香峯

林藪風經蒼港氣 大湖匝匝似滄溟 咏題詩句

傳霞麗 忠義心肝濁汗青 烟雨空濛懷往日  
漁歌欸乃入會聽 雄心八九吞雲夢 緬想登覽  
小洞庭

六久保

五城目を距る四哩一瑣八郎湖に傍へる小村落な  
り附近に新關といへる桃の産地あり近來これを  
桑畑に換へたるも春時開花の頃は爛紅遠く龍湖  
の波に映して好景なり

追分

又中野ともいふ大久保を距ること四哩四十瑣右  
折すれば男鹿街道なりこの地を榎の岐路といふ  
眞澄の遊覽記に見へたり  
◎大龍寺 古き寺なり應永三年の棟札土崎蒼  
龍寺にありといふ  
◎北野天神 北野は立野の牧の跡なりといふ

説ありこの地に天満宮あり建築頗る工なり又松  
林中に三十三碑あり路標と覺ゆ  
◎八阪神社 典農村に在り素戔雄尊を祭る天  
王村の名これより出てしならん  
◎八龍橋 典農より船越に架せる長橋を八龍  
橋と名く二百八十間の長さありといふ橋上より  
八郎湖の眺望殊に好し

十六夜泛八龍湖

嶺田 楓江

清遊轉眼易蹉跎 領略湖天幾度過 濁酒三杯  
抱明月 扁舟一葉過烟波 故人若在情愈好  
佳節難留景尙多 獨鶴數聲呼夢覺 夜深水枕  
聽漁歌  
波たて、尾花もひろし八龍湖 滄洲  
秋風や湖水にうつる雲の影 撫子  
◎涌本古城 大平城ともいふ安東五郎の居城

なり大龍寺と稱する禪刹あり

◎舟川港 本縣唯一の良港なり鳥海山海を隔  
て、玉立す

◎増川八幡 頭殿の宮又は太塔の宮ともいふ  
大塔宮を祭るといふ説あり考ふべし

◎椿村 全山皆茶山花なり上に妙見堂あり麓  
に觀音堂あり慈覺大師の作といへり

◎門前 船川より門前まで沿岸に雄嶋、雌嶋  
蛭子越、龍ヶ崎、鶴の崎、三操嶋、御前落、鰐  
淵石、潜り岩、琵琶石、帆掛嶋等の諸勝あり

波による月を拾はん磯す、み 五明

◎赤神々社 本山神社ともいふ本山の中央に  
あり武内宿禰の執奏にて景行天皇の朝に官社  
に列せりとの説あれは其古きこと知るべし山中  
の諸勝は左に略記す

名勝案内

赤神山光館寺 十一面觀世音 長定作

二王門 元龜三年の建立にして力士は雲慶作

日積寺永禪院 これ赤神山の寺號なり今は本  
山神社と稱す

自寂院 仙壽院 印象院 圓月院 照光院

泉光院 右六寺廢院となる

吉祥院 長樂寺 二寺戊辰後又廢せられしな  
らん

藥師如來 權現の本地佛なりといふ

姿見井 御洗手池 共に五社堂の側にあり

逆杉 鬼の一夜に根こぎにせしものといふ

五社堂 延暦寺の七社を勸請せしといふ

◎嶋廻り 男鹿の勝は松嶋の如く舟中に俯仰  
して探るか如く容易なること能はずさらぬだに

日本海の怒濤澎湃として舟路安からざるに断岸百尺これに危礁基布して水程頗る穩ならざれば夏季尤も波穩に風恬なるの日を擇び門前或は小濱より舟を雇ふて嶋の西端を一周するなりこの舟路加茂又は戸賀、畑に盡くこれを嶋廻りといふ左に勝概の一二を擧ぐ

帆掛嶋 小濱と鹽瀬崎との間に在り高六七丈  
鹽瀬崎 門前の南に出つ  
五郎投石 本山の麓にあり  
エクリ嶋 屏嶋 垢取嶋 須嶋 油石  
龍像巖  
大瀧 三蓋松  
御幣嶋 廣袤三十間許り  
小虎嶋 經ヶ嶋 大館操 小館操 福立嶋  
龜壇 孔雀岩 権現岩 室師窟 鉾立嶋 鳥

帽子岩 夕陽窟 甲嶋 舞臺巖 白子嶋  
蝙蝠窟 閻魔嶋 自立鉾  
阿字ヶ嶋 女泣嶋  
葛雀窟  
櫻ヶ瀧 船隠し穴  
大椋橋 小椋橋  
白絲瀧 三社嶋 辨天腰掛嶋 立嶋 蓮花嶋  
笠置嶋 壘み岩 アナ、口 鑰洞 黒嶋 鐵  
ケ崎 小壺 魚壺 白巖 赤嶋 貝ヶ崎 遼  
菜嶋 中の嶋 鴉嶋 鷹巢岩 長者屋敷 大  
黒嶋 金嶋  
浴り岩 水嶋  
これより北浦、湯本の諸勝あれども凡て之れを略す

宿本山 狩野 廣居

土崎

探勝尋奇晚下程 荒村投宿近香城 長風捲海  
秋濤怒 缺月臨山夜鹿鳴 蛩婦待舟扉未掩  
寺僧禮佛火猶明 遊人又有閑公事 記水錄續  
過二更

宿加茂 頼 嶋崖  
天低風盡海波平 寒影入櫓崖樹明 不怪峯巒  
喚雄鹿 呦呦幾處月中鳴  
自加茂到門前舟中作  
鴨村村下借仙槎 峭碧奇青出海潮 崖樹陰冥  
老塵睡 洋風空濶大濤驕 窟開鮫殿黑無底  
石卷龍身天有橋 男子一搜雄鹿嶋 松洲始覺  
屬妖燒

本山にてまわうくと鳴く鳥の淋しく覺むて  
夏霧や魔王呼出す鳥は何に 御風  
棧橋  
岩はしや榮螺になる、蝸牛 五明

追分より三哩七十三鎖御物川の河口にして南秋田郡役所土崎警察署電燈會社稅務署等を有する般賑の都會なり

◎淡故城 秋田家世々の居城なり後慶長年中常州兵戸に移さる佐竹家の移封に及び城内狭ければとて今の秋田城を築き之に移れりこの城趾に神明社あり

◎神明社 佐竹家の移封と其建立の時を同うせる古祠なり

◎若龍寺 同地第一の禪刹にして秋田家の菩提所なり後天徳寺の末寺となる

秋田  
本縣の中央停車場なり土崎驛を距る四哩三十五鎖これより豫定線は南走して官設の南線に合す

べし  
 ◎秋田市 縣廳所在地にして位置も亦本縣の中央にあり縣廳の他歩兵第十六旅團本部歩兵第十七聯隊地方裁判所區裁判所憲兵屯所監獄署稅務管理局大林區署中學校師範學校高等女學校二等郵便電信局縣公園徒弟學校稅務署警察署市役所等各一を有し人口三萬戶數略七千を包有す地勢は四山合沓して中ころや、開け秋田古城の丘陵地の外は平坦にして旭川、太平川二川市の一端を流れ共に合して御物川に入るも長野下一圓の地は沼澤地にして長沼、黒沼、赤沼と稱せしも今は田園遠く拓けてた、名稱の上にも其の傍をど、めたり物産は畝織、八丈織、下駄表、林檎、銅器、鑄物、菓子等を算す  
 ◎秋田城 慶長九年八月二十八日經營なりぬ

この丘陵一帯の地もとは神明山と稱せしが慶長八年五月佐竹侯家宰の澁江政光梶原美濃に命じ新城を築かしめこれを牛籠山矢止城と號せしより世々佐竹家の居城となりて三百年出羽半國統治の雄鎮たりし也この城平地より高さこと八丈餘本城、二の丸、帶郭、別郭、北の丸、兵庫曲輪、上中城、下中城、山の手、(以上三郭は三の郭といふべきもの也)及び外郭とに分れ本朝百四十八城の内なりといふ  
 矢留城 赤星 藍城  
 木喬知國故 城壯見藩雄 殘堞連雲北 剩濠廻廓東 碑表二金姓 祠祭八幡公 駐杖低個久 虬松吼月中  
 ◎靈泉臺趾 靈泉臺は本城の坤位に當りてその天主臺ともいふべきものなり臺下に清水あり

ぬ臺の名はこれより取り今尙ほ臺趾及清水の跡も并せ残り  
 靈泉臺賞月應教 匹田 松塘  
 碧落懸明月 清光四望開 浮雲遮不得 萬古照高臺

の園池には蓮花の紅白咲亂れ壁上に年古る老松は龍鬚風に吟して三百年の昔を語る秋田に遊ぶ者は必らず一遊覽せではかなはぬ地なり  
 千秋園二首 赤星 藍城  
 老松蔽日鬱崔嵬 園喚千秋滑古苔 今日侯家許借樂 有人載酒趁晴來  
 古城樹老地偏靈 玉露仙壇苔氣青 半夜松風吹鶴夢 天簫聲月落中亭  
 ◎圖書館 千秋公園一部の地に在り縣立にして今は全國屈指の圖書館となれり  
 ◎佐竹家別邸 佐竹侯爵家の別邸にして舊城の一部に在り建築宏大なり  
 ◎市街 秋田市の市街はもと旭川の東西によりて内町外町と分かれしも今はこの分界立たす内町にも商座軒を並べて縣廳附近など殊に繁昌

◎千秋公園 縣公園にして秋田城の本城趾なり東西六十五步南北百二十步これに二の丸帶郭等を加へて區域頗る廣し園内に秋田神社、招魂社、與次郎稻荷社あり又松風亭、古月亭等の酒店その他數四の酒店茶店あり地勢高崇なるを以て秋田市を眼下に見卸し男鹿山の積翠鳥海太平洋諸峯の遙青御物を下る白帆まで盡く寸眸中に集る園内には又四時の花卉樹竹を栽込たれば春の梅櫻桃 李、夏の菖蒲若杜藤躑躅、秋の萩紅葉まで四季折々の風情面白し舊時の城濠をそのま

名勝案内  
 五十三

の地となれりされど旭川以西の地は凡て商估の住する地にて軒並の電燈光まばゆし

◎旭川 太平山の支脈ともいふべき仁別山の谿谷間より流れ秋田市を貫流し太平川と合して御物川に入る旭川一名又泉川ともいふ其上流に夫婦石、補陀寺等の勝概あり

◎秋田神社 千秋園公園に在り社務所にし

◎八幡神社 城内に在りしを東根小屋町に移せり佐竹家の遠祖義仁と稱せし人自ら鶴岡八幡の神影を寫せし者を祭る藩時最も尊崇の社祠なりしも今や荒廢していふに足らず

◎招魂社 公園内にあり

◎天徳寺 南秋田郡旭川村に在り市を距る二十町前後なりこの寺曹洞宗にして常恒會小本

寺佐竹家累代の菩提寺たり開山は僧伊達本尊は聖観音なりもとは藩内三百餘寺の録所にして住持は老職と同格の待遇を受け本堂、書院、庫裡山門、總門、靈廟、開山堂、鎮守堂等偉大の建築なりしも今は縁に佛殿庫裡佐竹氏の靈廟及び山門等を存するのみ當時の住職三上秀芳師銳意復興に力を効し今はや、修造維持の方法定めりといふこの寺從來幾多の名僧智識を出せり什寶亦奇珍十襲すべきもの多し

◎圓信寺 南秋田郡手形村蛇野にあり一時荒廢に屬せしも前任秀芳の力に頼り寺觀を復興せり寺内に匹田柳塘松塘父子の墓あり

◎平田篤胤の墓 手形山に在り市を距る十町許

◎警願寺 市内に在り淨土宗僧文前を開山と

す市内の諸寺は明治十九年の大火に悉く類焼せしも獨りこの寺のみ残り

◎光明寺 市内に在り傳言ふ北條時頼の建立にして僧叡然を開山とすと淨土宗なり時頼の寄附せしといふ辨才天像、唐織の袈裟あり

◎日吉神社 南秋田郡寺内村八橋に在り林木蒼鬱して祠堂金碧これと相映す三層塔あり境内廣くして盛夏の消暑に適せり

◎菅原神社 同村に在り

◎寶塔寺 同村に在り法華寺なり仁王の石塔及び寶塔共に珍らしきものなり寺は火災にか、りし後再築せられす寺内もと藤花ありたり黒甜瑣語に一紫の雲法の庭に棚引わたり群れこぞる遊人夥しなど見ゆ

◎全良寺 同村に在り新州嶺和尚を開山とし

妙心寺派にして本尊は釋迦如來なり火災にか、りし後は唯假本堂あるのみ澁江政光の墓及戊辰役討死の官軍の墳墓あり寺内櫻花多く花時の風光頗る佳なり

◎面影橋 同村に在り草津川に架す秋田市より土崎に赴く國道なりこの橋を渡りて右手に舊刑場あり五輪塔一基今は麥隴風に漂ふ中に立てり

◎古四王神社 同村寺内に在り傳言ふ越の王大彦命を祭りしものと縁記等は頗る疑はし唯其古社たるは信を措くべし罹災後新築せらる社格國幣小社

◎寺内古城趾 これ舊秋田城趾なりといふもの同しく寺内村寺内に在り俗に勅使館といふ寺内は上古の秋田村なりといふ城の本丸は假月形



にして南北六十間東西十五間許りなり今尙古瓦を掘出すことありこの附近高清水、伽羅橋、長者か堤、櫻姫墓、晝寝山、野中の池、行達の間跡、龜背阪、議定嶋、綾の小路、龍頭坂、旭屋敷、夕日邸、かうろき橋、油の御殿、誕生の水幣切山、曙御殿、鳥沼、旅寝の巖、梅邸、剪線水、緒環路、紫波渡、妻乞山等の古蹟名勝あり一日の清遊に適するの地なり秋田市より一里隔てり

◎補陀寺 南秋田郡旭川字松原に在り旭川の上流にして市より二里餘の路程あり曹洞宗總持寺の直末にして正年中秋田城の介守季の創建にか、り開山を月泉良印和尚といふ末寺一百五十餘寺あり

◎藤房の墳墓 補陀寺の二世無等良雄和尚は

藤原の藤房卿なりと言傳へり其墳墓なりとて五輪塔一基ありこの他補陀寺には藤房の負笈、自筆の契嚴録、同じ人の袈裟等あり

◎搦田 この地にもと佐竹侯の別業あり小規模ながら頗る林泉の趣を得て山水の清韻坐ながらにして聽くを得べし其むかし藩士大島某の別業にして徂徠の得月と書せる扁額あり得月店と稱せし由なるか藩主遊獵の地となりてより搦田又は唐見殿と稱し喜三二の辛見殿の記などこの折になれるもの也といふ今は那波某の所有となれり

搦田 平澤 雪齋  
泉流清徹底 曲折繞幽莊 盛夏不知暑 人住水雲郷

◎雪見御殿趾 天明年中赤沼の地に雪見御殿

を造り玉ひぬ或時藩主の舉玉ひし盃觥の中に太平山の影ありく浮きて見ればはこれより飲山亭と改め玉へぬこの趾今の三吉神社遙拜殿の附近ならん

◎小夜菴の蹟 南秋田郡川尻村に在り小夜庵五明の俳菴ありし所なり市を距る十町ばかりこの地に大窪詩佛の香雲吟社ありし筈なり今の辻某の米倉なごある邊ならんか

◎三森神社 川尻村に在り社格縣社にしてもと今の秋田城の地にありしを秋田城經營の時これを川尻村に移したるなり老木翁鬱境内幽邃にして銷暑の候人の節を曳くもの多し

鳥の糞地に音高し夏木立 五明

◎水心亭 今の長沼一圓の地湖水なりし頃野崎に水心亭あり山方某の別業なりと黒語瑣語に

見たり今審ならず

◎濯纓樓 太平川に枕みし伊勢三菴の書樓なり大窪詩佛の命せし所今は跡方もなし

◎春風樓 匹田松塘讀書の地にして今の木村旅團長の住宅なり住む人非なりと雖も梁棟皆舊時の物にして園中の書庫も尙昔の様子のこれり

◎萬能寺 もと河邊郡上北手村櫻にありしか近時移して市内に在り寺は梅津半右衛門憲忠追福の爲に建立せし道場にして梅津家累代の菩提寺たり

◎太平山 山頂まで秋田市より三里餘もと三本ヶ嶽と稱し後太平山又は蛇峰と呼びぬ前岳與岳の二峯ありて奥嶽は役の小角の草創といふ太平山神社あり本殿に大名持命、少名彦命を合祀し別殿に三吉權現を祭る夏時登山の人多し山頂

に一泊して翌日砂子淵に下り巖谷山築紫森の諸勝を探り得べし

◎古城 秋田市附近に古城多し山谷に永井右近將監、大江九郎五郎の古城あり館の越に嵯峨尾張守の古城あり八田に古館あり住人不明柳田同上八柳に八柳長太夫の古城あり泉に泉玄蕃の古城あり濁川に中野源太夫の古城あり添川に耳岡相模守といひる人の古城あり新庄澤内に古城あり新庄半治といふ人住めりといふこの他か、種類頗る多し

### 和田

秋田市を距ること三里三十五丁警察分署の所在地なりもと式田宮崎村と稱せり村東の山上に古城あり和田義盛の一族住みしといふ和田村と稱すること之に因みしならん

◎種澤古城 同村の山上に在り何人の居城にや審ならず

◎高尾山 女米木にあり靈場なり藏王権現の社地なり古城あり安東某の住せるものといふ

◎牛嶋町 河邊郡役所及縣農事試験場秋田測候所等の所在地なり太平川を隔て、秋田市と接す村内に三光明神あり田村丸の建立と言傳ふこの街路を今に田村道といふ

◎めろり觀音 牛嶋町邊にあり如意輪觀音なり

### 境

仙北郡に屬し小林區署所在地なり今は荒川村に屬し荒川村境といふ和田より三里十丁秋田市を距る七里一丁なり

◎唐松神社 村の西方に在り八幡太郎義家天

◎舟澤の蕨餅 和田より一里餘舟澤と稱する小村あり蕨餅の名産なり秋田郡邑記には閑村ながら富めりといれど今は一の貧村に過ぎず

◎高岡古城 和田より二十丁餘高岡に古城あり住人審ならず

◎大張野 高地を太平野といひ低地を小平野といふ和田より境に至る國道に傍へり曾て秋成社の開墾地なりしか事業一頓挫して今は見るべきものなし

◎岩見三内 岩見川の上流にして鶴養、砂子淵等の幽區あり山水雄偉にして觀るべきもの多きも道路險惡登攀太難し

◎萬藏寺 戸嶋にあり和田より二十五丁豊嶋玄蕃の菩提寺といふもと其城内にありしも慶長年中今の地に移れり曹洞宗なり

喜五年の棟札あり義家の建立なりといふこの地戊辰の役の古戰場地たり

◎荒川鑛山 境より三里銅山にして三菱の所有なり

### 刈和野

境より二里三十一丁この地刈棄の關の古趾なりといふもと給人三十戸足輕四十人を置く村内に古城あり

◎高寺山觀音 峯吉川に在り大同二年田村丸の開基といふ本尊慈覺大師の作なり山内風景よし

◎戸澤の屋敷跡 半道寺にあり戸澤能登守閑居の屋敷跡といふ

◎古城 南檜岡にあり小笠原某の居城といふ

### 神宮寺

刈和野より二里十五丁玉川の西岸にあり種馬所あり御物川其南を流れ圓錐状の神宮寺嶽人面を歴して立てり

◎副川神社 神宮寺嶽は古の副川神社の趾なりといふ説あり考ふべし

◎八幡神社 村の中央に在り林木叢生して神々し建立の年を審にせずとも残れる棟札三枚一は大同二年一は建久二年一は長久二年の文字見ゆといふ又唐綾八幡大菩薩の旗は八幡公の書とも源右府の書ともいへり

◎寶藏寺 曹洞宗富樫氏出羽に没落せし時隨從し來れる菩提寺の僧の施主ありて此地に一寺建立せしものといふ富樫氏の孫今は同郡小貫高畑にあり

◎高野 神宮寺より東北に位す慶長年中梅津

半右衛門佐竹家の城地に選み出せる地なりといふ

◎古城二 一は村の東なる平地にあり今は田となる厩田と稱す神宮寺掃部の城趾なり一は神宮寺と刈和野との間にあり戸月刑部といふもの居城なりといふ

◎玉川橋 玉川に架せる長橋にて長さ四百八十間といふ

◎花館村 もと高關下郷村ともいふ今は農商務省所轄の陸羽支場あり

◎姫神山 神宮寺嶽と相並ひて雄物川以西に立てり山頂の姫神明神は安倍貞任の娘を祭るといふ

◎古城 柳の森といひ又土屋敷ともいふ安部一族の居城なりしといふ

◎陽の森 佐竹義重の落馬せし地にてもこの花館村なりといふ神宮寺嶽の麓にあり今の齋藤勘七氏の邸宅はこの地に在りしといふ

大曲 神宮寺を距る一里二十二丁秋田市より正に十四里を隔てり仙北郡役所大曲警察署秋田地方裁判所大曲支部監獄支署等の所在地なり雄物川に添ぬ丸子川に跨り郡内屈指の都會にして上三郡の好市場なり

◎大川寺 もと大深寺と稱し眞言宗なりしを後僧良旭此地に移して曹洞宗に改むといふ惣持寺末輪番寺なり境内廣し

◎虎王丸の墓 大曲町内のことや館に虎王丸の墓あり近頃まで元享の年號見ゆしといふ

◎孔雀城址 小貫高畑に在り富樫氏の居城なり

◎角館街道 大曲より左折して四ツ屋、長野角館、卒田、生保内を経盛岡に達する縣道なり

◎幕林 鎗見内村の中にて八幡公か阿倍の支族たる八乙女城を攻陥するに當り陣せし地といふ八幡の祠あり

◎長野村 古城あり北家の角館に移る前居住せり

◎大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりしか八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりし

か八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりし

か八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりし

か八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりし

か八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりし

か八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

大曲より四里二十八丁世々戸澤家の居城なりし

か八代鬼九郎盛安關ヶ原に戦死し子なし家幸槍岡豊前なるもの父能登守妾腹の子八歳なるを尋出し盛安の嗣となし新庄の城守たらしむ慶長七年芦名義勝一萬八千石を領してこの地の城主たり芦名家嗣絶えて佐竹義隣これに居り古城は元

和六年に破却せらるる産物は菅笠、樺細工、塗物等

◎天寧寺 芦名家の菩提寺なり曹洞宗

◎源太寺 眞言宗彌勒寺末寺なりもと常光院の地なりしを北家の角館に移りし後今の地に移せりこの寺は八幡公の建立せしものにして故に名を源太寺と稱すといへり

◎光明寺 西明寺村にあり傳言ふ西明寺殿時頼愛妾唐糸なるものの菩提の爲に一寺を建立し其一七日に當りし時釋迦内に一七日山釋迦堂を造立し土崎にて二七日山光明寺を造立し三七日に此地に三七日山光明寺を立てしと其眞偽は知らねど創立は頗る古し眞言宗なり

◎山谷館 角館より楸瀬川を渡りて山谷川崎村にあり源頼義の臣藤原仲光の居城なりといふ

◎雲然古城 雲然の南に在り田中某の居城といふ

◎生保内 大曲より九里三十三丁巖手縣界まで二里二十八丁あり山間の一村落なり

◎田澤湖 榎湖と稱し山間の一小湖なりこの地に到る卒田より瀧村に至るも可生保内より田澤を経て湖水に至るもよし又は檜木内よりするも可なり湖水澄徹遊魚數ふべし春季夏初山櫻花綻ふ時最も風景好し浮木明神祠あり

◎六郷 大曲より二里七丁なり六郷兵庫頭の城地にして慶長七年より以來佐竹義重居住せらる明治二十九年震災に罹り全村破潰せしも現時はヤ、舊觀

に復せり

◎諏訪明神 六郷氏武門繁昌の爲め此地に勸請せしものといふ老木翁蒼蒼して清泉湧く盛夏涼を納る、によし

◎大柱寺 義重公此寺に居住せらる御前清水あり

◎永泉寺 龍の袈裟あり雨を祈れば効ありといふ

◎飯詰古城 田の中に森あり飯詰某の居城址なりといふ

宿六郷稷山來過 山方 香峯

雁雨燕風歲正闌 相遭共做隔年看 沙磴上壁

夜方永 門柳依人秋欲寒 篋囊無詩豈免俗

乾坤得酒終能寬 此身恰似南飛鵲 三匝求枝棲未安

全 澤

名勝案内

六郷より金澤本町まで一里十九丁同じ中野まで一里三十丁ありこの地と横手との中間に横手中學校あり

◎金澤柵趾 後三年の役に清原武衡、家衡籠れる城地なり孔雀の柵と稱す蓋し奥羽の分水山脈を尾にし南北の山を左右兩翼とし本丸、二の丸を頭とし嘴となせるものなるべし本丸、二の丸、北の丸、西の丸尙舊形を存せり満山老木蔚然半は畑に墾作せるもあり

◎陣館 前城ともいふ東西五六十間南北百間か程なり

◎飯塚山 倉庫のありし地なりとて炭化せる糶米を掘出す今は松林茂れり

◎武衡家衡の死所 口碑には武衡雄勝の山田城に逃れ同所にて討たれ家衡は八郎湖の畔まで

六十三

落延び同しく殺されたりといへり又庄内にも武  
衛家衛の首塚あり河れか是なるを知らす

◎金澤八幡 義家將軍の勸請せしものといふ  
古城趾にあり神殿、拜殿、神明社、兜八幡宮共  
に神さびたり社實には義家の持佛、小笠原義冬  
(或は秀政)等の書せし大般若經、運慶作の猿田  
彦面、古劍、古驛鈴、古鏡等あり

◎高名塚 鎌倉権五郎の功名塚あり老松四間  
廻り老杉六間廻り程あり

◎厨川 柵趾の北を繞りて流る

◎義家の陣所 西北にあたる小丘なり

◎横手 金澤中野より一里二十一丁秋田市より十九里二  
十五丁平和街道の巖手縣界まで四里三十五丁あ  
り平鹿郡役所郵便電信局區裁判所警察署横手中

◎上野臺 本多上野介父子居住の地なりとい

◎蛇の崎橋 横手川に架せる長橋なり石瀬月  
を碎く夏の夕は涼を納る、に可なり

◎平和街道 横手より落合小松川を経て岩手  
縣黒澤尻に達する縣道なり又鐵道の豫定線たり

◎鹽湯彦神社 山内村大松川に在り横手を距  
る三里に近し俗に御嶽山と稱し式内社たり創建  
の年月審ならず弘安年中僧一遍此地に來り源  
時直をして再建せしめたるも後兵亂の爲め久し  
く荒廢せしか佐竹氏か秋田を領せる後正徳四年  
に至り今日の如く舊觀に復せるものなりとを

◎白瀧の觀音 山内にあり六部第一番の札所  
なり役の小角の住せしといふ迹あり山伏屋敷と  
いふあり十二支水、七里水、鷄鳴水、破軍水な

學校等の所在地にして秋田市に次ぐ都會なり産  
物は横手木綿  
◎横手古城 小野寺遠江守景道の築く所高き  
十八丈慶長五年に至り其子義道領地を沒收せら  
れこの城佐竹氏の領となり伊達盛重、須田盛秀  
戸村義連等相次て城代となり爾後永く戸村氏の  
居城たり  
◎八幡宮 舊城本丸に奉置すこの地より横手  
の市街より延て平鹿一郡を俯瞰し得べし絶景な  
り  
◎正平寺 長祿年間の創立にして曹洞宗開山  
は僧宗篤なり慈覺大師作釋迦如來を本尊とす寺  
寶には小野寺泰道の持佛たる黄金の十一面觀世  
音ありといふ寺内に本多上野介父子の墓あり  
◎龍昌寺 城代戸村家の菩提所なり

といふ御手洗水あり

◎本庄街道 横手より醍醐、増田十文字、淺  
舞より雄勝郡の大澤に出て更に由利郡の老方に  
至り本庄を経て秋田市に達するものなり縣道な  
り

◎八澤木街道 横手より田根森、阿氣、大森  
を経て八澤木に至るものなり

◎其他 角間川より阿氣、沼館を経て湯澤に  
達するものあり

◎波宇斯別神社 八澤木村に在り祭神安閑天  
皇なりとも或は大國主神なりともいふ式内社な  
り孝謙天皇の天平寶字元年の勸請なりと傳ふ

◎平鹿古城 左に一括して擧ぐ  
大森古城 大森村大慈寺の後山に在り小野寺  
義道の一族の居住せし所なり

沼館古城 天喜、康平の頃庄司次郎藤原友利の住せしもの治曆、延久の頃には清原一族之に居れり大永年中に小野寺植道の居城たり

増田古城 増田村の南西の間に在り土肥次郎道近の居城なり後岩城貞隆之に居りしことあり

馬倉古城 馬鞍の南にあり小野寺の家士關口河内守居りしとも又馬倉能登守父子の居城なりともいふ

淺舞古城 小野寺左京進光道居れり最上義光の爲に亡ざる同所龍泉寺は光道の牌所なり

植田古城 植田村の西に在り大石與九郎の居城なり天正年中小野寺の爲に亡ざる今泉古城 今泉采女の居城なり

八柏古城 村の平地に在り小野寺の家士八柏大和守の居城なり最上義光の反間の策に陥り小野寺の爲に殺さるといふ

吉田古城 西寶寺の後方山上に在り小野寺の家士吉田孫兵衛の居城なりといふ

樋口古城 下樋口の村中に在り樋口次郎といふ人の居城なりといへり

新田目古城 住吉荒田目村に在り新田目小八郎居城

河熊古城 川熊與五郎居城たり以上二城主共に小野寺の家士なり

鍋倉古城 鍋倉相模守居城なり

湯澤 増田 商業地にして葉烟草専賣局支局あり

湯澤 横手より四里二十九丁秋田市を距ること二十四

里十八丁なり雄勝郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局等あり此の城もと小野寺の家士三春信濃守の住せし所にて後最上領となり次て佐竹氏の有に歸し元和年中其支族佐竹義種を置くこの城遂に廢せり

◎郡の諸道 湯澤より岩手縣に達するもの二一は増田を経て田子内、手倉より岩手縣に入るもの舊時これを手倉越といひ二は湯澤より川連稻庭、小安を経て酢川峠を越ゆるものこれを酢川越といふ湯澤より本莊に達するには西馬音内を経て大澤に至り本莊街道に合す湯澤より宮城縣に入るには横堀より國道を左折し湯の岱を経て鬼頭に達するものと黒森峠を越ゆるものと二ツあり黒森峠を越ゆるものは一たひ山形縣の境に入るなり

◎山田古城 清原武衡の居城なりといふ眞僞は審ならず

◎鬼ヶ窟 松岡村眞木といふ小村の西方の山上に洞口四尺程の巖窟あり田村將軍の征討せし悪路王の住みし所なりといへり

◎岩井堂 床舞村東向寺境内に在り一山巖石にして飛瀑綫の如く下り樹木茂生境頗る幽靜なり東向寺は曹洞宗最禪寺の末寺にして玄翁和尚遷化の地なりと傳ふ

◎天下屋敷 大澤村にあり城趾の規模大にして何人の居城なるかを審にせず菅江眞澄はこれを雄勝柵の蹟なるべしとせり或は然らんか

◎三輪明神 杉の宮に在り養老二年の建立といふ建久二年頼縁なる人の誌せる縁記あり其古祠なること疑なしもと吉祥院と稱し藏王權現を

奉置す其薬師如來、大日如來は空海の作といへり果して然るか否

◎川連 古城あり酢川街道に傍ふこの地漆器の産地なり

◎稻庭 文治年中小野寺四郎重道平氏追討の功により雄勝一郡を賜はり城を此地に築きて居れり後其子孫沼館に移り支族を以て城守に充て尋て最上義光の爲に亡さるこの地温飽の名産にして俗干温飽を呼んで稻庭といふ

◎小野小町の古蹟 小野村に在り湯澤より院内に至る國道上に傍ふ傳言ふ此村もと福富莊と稱し出羽の郡司小野良實(或は良眞とも書せり)京より下りて假に住せし所なり良實この地に在るの日町田治左衛門の女町子と契を結びて大同四年の春一女を産すこれを小町と名く長して國

風を善くし年甫めて十三父に従ふて京に上る云々この地附近數多の古蹟あり

走り明神 小野郡司良實の建立にて今の宮内はもこの社地なりといふ

東館屋敷 水口にあり  
桐田 古桐の大樹ありて良實の住居の地なりしといふ

二ツ森、八十嶋 業平朝臣の來遊の地なりといふ

小町出生の地 大水口といふ  
辨財天 二ツ森の上にあり小町か母の守本尊なり

由緒松 國道の西古戸、宮内の中間に在り良實の手植なりといふ今は枯れて跡なし  
芍薬塚 國道より東に入る一丁許の地にあり

院内

は此地を詠せしなりといふ

下院内は湯澤より三里三十四丁を隔て上院内は更に下院内より十町を隔てぬ即ち秋田市を距ること二十八里二十七丁杉峠の縣界まで一里三十四丁あり又銀山町に一里八丁といふ古城二あり一は上院内の西地にあり五郎館といひ一は下院内の西にあり館山といふ

◎杉峠 もと新庄越の關所ありたりこれを越ゆれば山形縣の及位に達す

雄勝山中口號

匹田 松塘

雪壓巖巖喬木横 肩輿觸石夢難平 山深千疊

雲長合 日出三竿天未明 萬壑將風昏月色

亂峯欲雨壯溪聲 數經難險消魂盡 不似當年叱馭行

九十九株ありといふも信じ難し

墓館 小野村の西北の山上にあり町田治郎左衛門の居城にて小町の母の實家なりといふ

◎金峯山 明治村大澤に在り山中白兔多しといふ相生の松あり小野寺孫五郎康道か山神に奉納せんとて負ひ來りしといふ大石あり量八十貫餘

◎金峯神社 金峯山の頂上に在り養老七年の創立なりとぞ文治年間源義經この社に詣うでたる由

◎鷲座山 續日本紀に寶龜十一年遣二千兵經

略鷲座といへるはこの山なりとぞ古は白爪の鷲栖みぬ萬葉集に「身をあけになしていでのは鷲をのみとるてふことのためしやはある」とある

新屋

秋田市より一里十五丁酒田街道の一驛なり警察分署郵便電信局あり秋田市よりこの地に至るも舟渡しなりしか先年新川橋の造築なりて今は歩いて行くことを得べし夏時の納涼によし橋頭に酒店二軒あり

◎山王神社 古社なり由利維平歸依尊信少からず社領を寄與したりしか由利亡び赤尾津光善の領地となり次て赤尾津亡び最上義光の領地となり最上の没落後は本多上野介扱にて元和八年より佐竹氏の領地となる別當薬王院もと寶鏡院末寺たりし

◎天龍寺 文祿年中の創立にて龍光寺と稱せり元和年中天徳寺の末寺となりて鳳凰山天龍寺と改む

◎勝平山 海岸一帯の丘陵なり満山叢松茂生し茸、菜蕒、松露とを産す

長濱

新屋より一里二十七丁漁村なり戌辰の役の戦場たり

道川

長濱より二里十四丁

松ヶ崎

道川より一里十九丁龜田と相接す

◎龜田 秋田市を距る七里二十四丁といふ城あり白鷲城又赤尾津城ともいふ應仁年中赤尾津孫九郎の居城なり後最上義光の爲に亡はされ次て岩城吉隆の領地となりて明治に至る麻織、木綿織物等を産す

本莊

摘翠館ありもと鷗鳴亭と稱せる好酒亭ありしも今は川缺の爲に跡方なし

◎古城 郡内古城多し由利十二黨の割據の跡これを愁烟蔓艸の間に求むることを得べし今一々挙げす

◎産物 桑酒、奈良漬、羊羹等を産す

平澤

本莊より四里も由利仲八郎維平の住せし地なり後仁賀保氏の領となる漁業地にして今は海水浴の設あり附近に院内館、芹田館等の古城あり八幡社あり領主代々崇敬の神なりといふ

金浦

平澤より一里二十八丁を隔つ海岸はヤ、灣形を作して日本船舶の碇泊に便なり漁業は頗る盛なり

松ヶ崎より三里十三丁秋田市を距ること十里十八丁なり子吉川の河口に臨み由利郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局等の所在地にして郡内第一の都會なり城あり尾崎城といふ又舞鶴城と稱す最上義光の臣楯岡滿茂の築くところ後六郷政乗常州よりこの地に移れり

陰高し霞の上に峯の松 宗佐

◎八幡神社 文安五年の建立元和二年の遷座にして本莊町の鎮守なり其他に本莊神社あり六郷家の始祖を祭る

◎永泉寺 僧道叟の開基にして曹洞宗峨山派六郷家の菩提寺なり元和九年仙北六郷より移れり

◎古雪港 子吉川の河口なり近年築港工事を施せるにより船舶の出入ヤ、便なる如し同所に



象 瀉

金浦より一里二十丁秋田市を距る十七里三十丁山形縣界と三里四丁を隔つ警察分署ありもと鹽越町といふ物産は諸越等なり

◎象瀉の古跡 芭蕉翁か松嶋は笑ふか如く象瀉は怨むか如しといひる一名區は文化元年六月四日の地震に湖底隆起して水涸れ景改りて全く舊觀を失ひぬ隣れ鳥海の山の寐返へり打つて再び昔の有様に返さん術もかなされど浦の苦屋に烟立ち秋の夕、蟹か軒に櫻散る春の農尙舊時の面影を彷彿し得難きにあらじもと象瀉と稱するものは東西二十町餘、南北三十町餘蚶瀉寺を環りて九十九嶋、八十八瀉あり海波淺くして淨く鳥海の高嶺の雪、緑をこめし嶋々の老松影をこの上に浸たして蟹の釣舟花の上を漕行さしは

書にも勝りて美はしかりしとなん今は斧斤林に入りてあたらし老樹を伐盡せしもあり左らぬも田園半拓けて稻花浪をなすとき偶々昔の姿を寫すのみ

◎蚶瀉寺 もと天台宗なりしを文祿年中曹洞宗に代へたり皇后山蚶瀉珠寺と稱す林木蒼蒼の底に精舎を連ねて佛道修行の好道場なり唯境内に神功皇后神掛松、蟬丸姿見井戸等の古跡を偽造せるは見悪し菅秀才手植梅といふに至つて滑稽も亦極れり

◎八津嶋神社 豊岡姫命を祭る象瀉大明神と稱せり境内に象瀉神祠碑立てり寛政八年の建設にして佐竹義和公の篆額なり

象瀉の櫻は波に埋れて 西行 法師

花の上こく海士の釣舟 出羽國にまかりて蚶瀉といふ所に 能因 法師

世の中はかくても経けり蚶瀉の 浦の笠やを我宿にして 汐越や鶴脛ぬれて海す、し、芭蕉

◎奈會の白橋 稻村嶽より落る白絲瀉の下流にて小瀉に至り高さ七丈の奈會の瀉となる奈會の白橋はこれに架せる小橋なり夫木集讀人不知の歌に「出羽なる奈會の白橋なれてしも人をあやなく戀わたるかな」千早振る神はちかひの結だすさかけてぞ渡るなその白橋」といふものは是れなり

◎有耶無耶の關 象瀉より山形縣界に至る途上に關村あり小川あり關川といふ奈會の瀉の末

流なりこの地は有耶無耶の關の趾なりといふ又往昔の海道は奈會の瀉附近にして白橋は其官道なりしともいふ

◎鳥海山 出羽第一の高山にして秋田、山形兩界縣に跨る双峯削成して四時山頂には雪を戴き冠冕の大人拱立して衆峯之を環りて其下風を拜す貌を以てすればをさく富士の高嶺にも見劣らぬぞかし山上に大物忌神社を祭る社地今は飽海郡吹浦、蕨岡兩所にありこの山由來飽海郡よりすれば山容痛く醜くして秋田よりすれば玉立鏤むか如し山靈の心はあわれ長へに秋田の地に鎮りにやあらん

途上望鳥海山 吉田 夢鶴  
突兀凌霄漢 寰中第四名 雪從何歲積 天向此時晴 遠隔虹旌閃 高遮日取明 御風如有術 蹈波白雲平

●縣内交通便覽

本縣の道路は比較的良好なり縣を一貫せる國道四十一號四十二號の外に縣道に屬するもの十六街道あり鐵道は本月二十一日を以て漸く官鐵北線青森より進行して秋田市に至る今左に哩數と里程數とを擧ぐ

◎鐵道 青森縣碓ヶ關より秋田市まで十五驛 七十八哩五十三鎖なり内譯は左の如し

碓ヶ關 六、五〇 陣場 四、三〇 白澤 四、〇六 大館 五、七〇 早口 五、二九 鷹巢 七、六七 二ツ井 一〇、三九 能代 六、三三 森岳 四、一一 鹿渡 六、六〇 五城目 四、〇一 大久保 四、四〇 追分 三、七三 土崎 四、三五 秋田

◎四十號國道 山形縣との交界杉峠より秋田市に至るものなり總里數三十里二十五丁四十六間五尺内譯は左の如し但し間以下を省略す

界 ◎角館街道 大曲町より盛岡に達する縣道にして秋田市より岩手縣界まで二十六里二十五丁五十間同しく大曲より十二里二十五丁五十間 大曲三〇〇 四ツ屋三三三 長野一三三 角館一三三 卒田三〇九 生保内三二九 岩手縣界

◎平和街道 横手町より岩手縣黒澤尻に達する縣道にして秋田市より岩手縣界まで二十四里三十五丁十八間同しく横手より四里三十五丁十八間 横手二二八 落合三〇〇 小松川一三三 岩手縣界

◎其他 五城目街道、大間越街道、船川街道、矢嶋街道、阿仁街道、男鹿街道、鹿角街道、來満街道、濁川街道、湯澤街道、鬼首街道、龜田街道等の縣道あれども今一切省略に從ふ ◎人力車便 以上の諸縣道は凡て車道なれば

名勝案内

杉峠一三三 上内院一〇 下院内 三、三四 湯澤 四、二九 横手 二、二二 金澤中野 二、二九 六郷 三、〇七 大曲 三、〇一 花館 一、〇三 神宮寺 二、六 北檜岡 一、三五 刈和野 二、三二 境 三、〇一 和田 二、五 豊嶋 三、一〇 秋田市

◎四十一號國道 秋田市より矢立峠の青森縣界に至るもの總里程三十五里十六丁五十四間内譯は左の如し省略同上

秋田市 二、二七 土崎 三、二四 大久保 二、六六 下虻川 一、三五 日市 二、三〇 鹿渡 二、〇二 鶴川 三、二八 能代 三、三三 鶴形 三、二五 荷上場 一、八 小巖 三、〇〇 綴子 四、二四 大館 三、二五 白澤 三、二四 矢立峠

◎本莊街道 秋田市より本莊を経て山形縣酒田に至るもの市より山形縣界まで二十里三十四丁二間縣道なり

秋田 二、二五 新屋 二、二七 長濱 三、二四 道川 二、二九 松ヶ崎 三、一三 本莊 四、〇〇 平澤 二、二八 金浦 二、二〇 象潟 三、〇四 山形縣

人力車の往來差支なし人力車の賃銀は普通一里拾壹錢平均なれども道路險惡の地はこれに一倍することあり

◎人力車切符 英運社、改良社二社ありて人力車切符を發賣す其街道は秋田市より以南は横手に至りて平和街道の人力車組合に連接し秋田市以北は能代まで連接す ◎馬車便 秋田市より以北從來能代まで運行せしも鐵道南進に從て五城目までとせり本月二十一日後鐵道秋田市まで貫通せば恐らく市以南は一切馬車便を缺くに至らん市以南は一は、大曲を経て横手まで一は本莊を経て山形縣酒田まで連續す其賃銀は一里七錢内外なり ◎汽船便 土崎より各地への汽船便及賃銀は左の如し但し日本郵船會社の規定による社外船

能函小酒直新伏  
江  
代館梅田津濁木

はこれより低價なりと知るべし

一七九四二七三  
五五〇五〇五〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇

七五六三八五二  
〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇

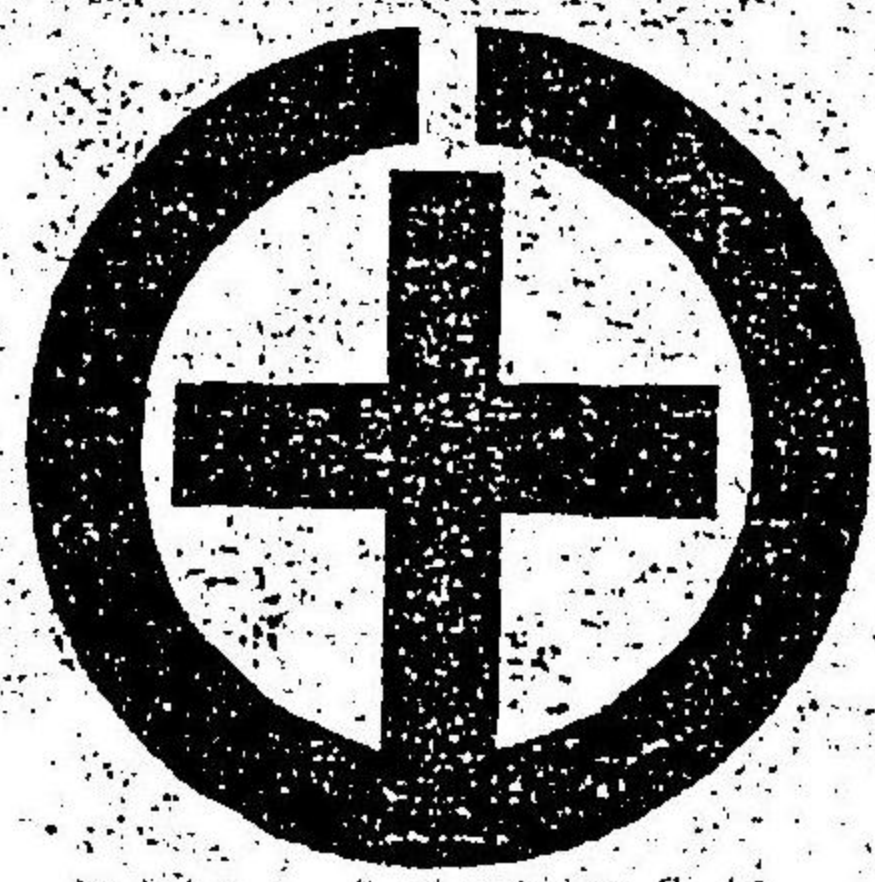
三二三一四二一  
五五〇五〇五〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇



營業品目

米 穀 木 材 藁 工 諸 品  
海 陸 物 產 業 其 他 諸 品

秋田縣南秋田郡土崎港



物產委託株式會社

營業品目

過 磷 酸 肥 料 北 海 道 產 鯡 榨 粕  
パ ー テ ン ト 油 委 托 賣 買

營業案内

吳服太物古着伸縮  
綿類紡績生白木綿  
卸商兼小賣

米穀海產物  
硝子板半紙  
食鹽石油販賣業

倉庫業  
波止場至便之位置に  
倉庫六棟有

尙所有の帆船五艘を以て諸貨物運送に對し特に運賃を割引の御相談仕候

羽後土崎港

村山金十郎商店

土崎東三

海陸貨物運送受負……最も丁寧に敏速に

日本郵船株式會社  
荷客取扱所

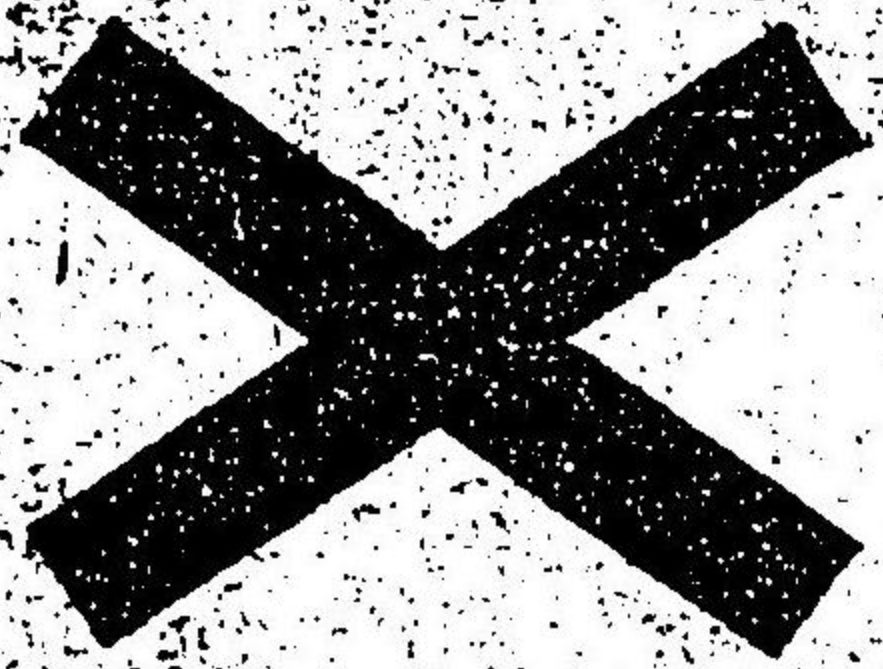
内國通運株式會社  
土崎取引所

官衙南北日鐵線  
鐵道貨物取扱

秋田四十八兩銀行  
荷爲替取扱所

仙北船積川  
荷爲替取扱所

輸入物品抵當貸付……最も便宜に着實に



羽後土崎港

土崎回漕組

羽後船川港金川

同金川出張所

# 商號虎登記

陸軍 第拾七聯隊魚類御用達  
 步兵  
 米穀海產物魚類委託賣買  
 内外各國船舶取扱廻船問屋  
 本縣各郡積下委託米取扱  
 輸出入貨物荷爲換金取扱

秋田縣土崎港古川町

佐々木寅吉

同魚類委託

下新町

賣買

佐々木出張店

秋田市上通町

魚類軍隊

上納部

佐々木出張店

電信略號(カネトラ)又ハ(〇)

土崎廣告五

◎海陸物産委託賣買業

◎鐵道貨物取扱業

羽後國土崎停車場前南角

海陸物産委託運送合資會社社長

佐々木寅吉

電信略號(二)

各國廻船問屋

海陸物産委託業

木材板類委託賣買

播洲素麵特約販賣

蒸氣機械精米業

米穀業工品委託賣買

精白米大販賣業

土崎港上酒田町

米穀問屋  
組合員

佐藤清也

電信略號(サセ)

土崎波止場

二

佐清精米場

土崎波止場

佐清出張店

○凡テ委託ハ確實ト神速ヲ旨トシ取扱フ可シ○精米場ハ一日貳百石  
餘ヲ搗キ上ケ十數年ノ經驗ニ依リ原穀之撰擇ヲ主トシ精造ス

米穀業工品委託賣買業

荷造用染粉販賣業



土崎米穀問屋組合員

土崎業工業組合員

羽後土崎港上酒田町

川口豊吉商店

發電略號(カワクチ)又ハ(カワ)

○弊店製造ノ印摺込付精白米ノ特色ハ品  
質ノ精撰ト樹入レノ注意搗立吟味ト荷造  
リノ堅固ニアリ

三菱鑛山用石灰石取扱  
 河海陸貨物運送取扱  
 帆船商組合事務取扱  
 諸物品委託賣買取扱

小西代理店

土崎港上酒田町

① 加長商店

屋號(アラヤ)

各國帆走日本船問屋  
 米穀海產委託賣買  
 木材板類委託賣買  
 尖製(チント)油特約一手販賣  
 蜻蛉印諸器械油特約一手販賣  
 國未製金庫特約販賣  
 各縣漆器大販賣

海陸物產  
 委託賣買

秋田縣土崎港町

佐藤佐記

電信略號(サキ)

廣告

- 一改良大々漁實子網各種
- 一改良實子繩各種
- 一改良土木繩蟹繩
- 一改良網羽繩中間繩
- 一改良草鞋一等二等三等
- 一改良鑛山硫黃山用草鞋
- 一改良女草鞋
- 一改良蕙類各種
- 其他藁品一切御注文次第

藁工品專業問屋

秋田縣土崎港新城町

木田橋重藏







鐵道水路聯絡貨物運輸業  
 諸品委託賣買工事請負業  
 各銀行特約荷爲替取扱店  
 本 三立社土崎取引店




# 土崎運輸合資會社



土崎停車場前本店  
 同 波止場出張店  
 發電略號(ウシエ)又ハ(ウ)



土崎運輸十一



## 土岐株式會社

三	川	高	船	幸	寺	内	林	之	助
藏	口	橋	木	定	五	郎	治	助	
栗	重	吉	藏						

(このは順)

六	金	西	金	加	出
郎	太	田	子	賀	志
郎	郎	吉	清	谷	忠
郎	郎	太	五	治	治
郎	郎	郎	郎	郎	郎

東京海上保險株式會社代理店  
 內國生命保險株式會社代理店

廻船問屋

諸物品委託賣買

木材取扱



越後谷惣左衛門

羽後土崎港波止場前

發電略號(一)又ハ(二)

北陸セメント一手販賣  
 軍艦ビール一手販賣



御料理

池鯉亭

南秋田郡土崎港

- 廊室華好より大小数千室あり
- 更に近き将来に於て増築せらるべし
- 園池廣く清漣細より遊興致すべし
- 樹木翁鬱眺賜四時宜しからざるべし
- 庖丁巧妙にして魚鮮の美尚漢才一
- 三十年来の老練煮價と勉強を兼ね

# 土崎案内 目次

土崎港	七十七	官衙	七十八
回漕業	七十八	委託業	七十九
精米所	七十九	米穀仲買會員	八十一
呉服商	八十	小間物商	八十一
紙、石油、鹽、砂糖類	八十一	陶器商	八十一
酒、醤油、味噌醸造業	八十一	土崎菓子業組合	八十一
旅人宿	八十二	料理	八十二
下駄商	八十三	裁縫店	八十三
時計店	八十三	染物屋	八十三
理髪店	八十三	挽材業	八十三
肴問屋	八十四	罐詰會社	八十四
電燈業	八十四	農園	八十四
土崎築港の由來	八十四		

# 土崎案内

●土崎案内は土崎商工業の一斑を紹介するを目的とせり故に秋田案内の記事を往々重複せるものあり  
 ●秋田案内の取引所の項に土崎取引所現在せる如く記入せしは誤謬にして編者は諸會社齋帳より抄記せしも同書か加除を怠りし一事に思到らざりしよりてこゝに之を訂正す  
 ●土崎活版所亦烏有に屬せるものなりしこれを訂正す

## 一 土崎湊

土崎湊のこと正史に見えず東鑑三十三卷延應元年十一月五日の條下に出羽國秋田郡湯河邊とあるは今の土崎湊なるべしと出羽風土略記の著者はいへり又同作者は三代實錄に舊城とあるをこの地ならずやと疑へたれど河邊の古柵は恐らくかゝる地勢の處にあらずと覺ゆ  
 傳説によれば安部貞任の二男東太郎貞季この地に城を築き爾來其子孫連綿として出羽の地を統御し支族檜山涌本土崎湊と分れたれど今の南北

土崎案内

秋田郡は常に安倍氏の治下に立ちて湊は其政治上の勢力の集注せし地なりしか如しこれ思ふにこの地の形勢海陸の利便を總べ驛傳の要路に中りしを以てなるべく若し單に攻守の形勢よりせば決して上游の地と稱すべからざる如し倍湊城は秋田九郎友季の時に叔父秋田城之介實季の意に背きて討亡され爾後實季檜山より移りて此地に住せしが慶長七年常州六戸に轉封し佐竹氏次て秋田に移り同年九月十七日土崎に着し同九年八月二十八日秋田城に移るまではこの地を假りに其居城となせり  
 土崎古城の趾は今の神明境内にして出羽風土略記には「平城にして今水堀二重土手所々にあり大手は申酉に有り搦手は北にあり是は秋田城之介殿古城なりと言傳ふ六十年以前に破れたれば

城内に草木生茂葎繁りて道を塞ぎ掘土手ばかり見るとあり城跡は今寺屋敷となれり掘跡は芹畑なり「云々」と見ればは實歴（著者の著述は實歴三年以後なるべし）年中にはかゝるものなりしならん今日にては殆んど跡方もなし

土崎の地今は本縣第二の市街地として商業頗る繁昌なり加ふるに築港工事歩武を進めて港内浚渫の方法亦確立し水深漸次十二尺以上を保つに至るべしといへばこの地の將來は頗る有望のものなるべし

一一 官衙

この地に南秋田郡役所、土崎警察署、土崎税務署、新潟税關支署、郵便電信局等あり又町役場あり高等小學校あり郡立圖書館あり奥羽官線の鐵工場亦この地に設けらるべく目下設備中なり

といふ

一二 回漕業

この地の商業中最も盛にして且同業者多きものを回漕業、委託販賣業、精米所及仲買業とすこれ港灣地の特色といふべきものなれども殊に本港は秋田市に接し御物川の河口に當るを以て仙北河邊四郡の米穀薪炭の類御物川を下りてこの地に集積し郵船會社及其他の汽船會社定期航海又各地と航路を開通しあれば輸入の貨物も亦主としてこの地に堆積するを以て回漕業の如きは殊に盛大なり左に其重なるものを擧ぐ

- 土崎回漕組
- 舟木久治
- 菅回漕店
- 村山淺吉

- 竹内長九郎
- 高橋吉兵衛

土崎運輸合資會社

土崎運輸合資會社は鐵道開通と共に土崎停車場前に設けられしものにて波止場に出張店あり資本金壹萬圓鐵道及海路の貨物運搬と米穀諸品の委託賣買諸工事の受負業をも并せ營めり

四 委託業

委託賣買業は米穀を主とし他は鹽油其他の諸商品を取扱ふものなり今其重なるものを擧ぐれば

- 物産委託株式會社
- 竹内長九郎
- 佐藤清也
- 川口豊吉
- 佐々木寅吉
- 越後谷總左衛門

等なり

五 精米所

この地精米所を業とするもの亦多しこれ主として米穀の輸出地なればなり

- 潮川喜助
- 高橋吉兵衛
- 佐藤吉治
- 佐々木良吉
- 出口喜助
- 安田常吉
- 佐々木寅吉
- 能登仁三郎
- 加賀谷米吉
- 金子圓右衛門
- 加賀谷喜代松

高吉精米所  
土崎精米合資會社  
佐清精米所  
渡部精米所

### 七 吳服商

播磨松太郎  
高橋重吉

### 六 米穀仲買會員

土崎米穀取引所は解散せるも米穀賣買業は頗る盛なるを以てこの地に米穀仲買の組合存立す其會員なるものは左の如し

寺内林之助  
船木定五郎  
幸野谷兵治  
金子忠治  
金子清五郎  
川口栗藏  
西田吉太郎  
加賀谷吉治

村山金十郎  
村金商店は吳服商として本港第一たるは勿論東北屈指の大商店にして三都所産の吳服は一年數回の仕入を爲し旁ら八丈畝織等の本縣産物に至るまで新古の時様價格の高下并せて羅致せざることもなく品類の夥しきこと他店に其比を見ず價値亦頗る低廉にして儼然たる一老舗なり其他左記の商店亦その優なるものなり

木村末吉  
古村助吉  
宇佐美專松  
野口平治  
村山秀三郎

### 紡績商業

八 小間物商

金澤友吉  
加賀谷作治  
大森喜助  
加藤忠治  
加賀谷市五郎

傳商店の如きは各地方の製造品大抵具はり當港  
第一の陶器商たり

九 紙、石油、鹽、砂糖類  
當業者は何れも屈指の豪商にして縣内各地に卸  
賣の高極て多しといふ

近江谷榮治  
竹内長九郎  
三傳支店  
野口銀平  
村山金十郎

十一 酒、醬油、味噌釀造業  
秋田案内と重複せるものあれとも當港の重なる  
營業者を左に擧ぐ

加賀谷保吉  
那波支店  
柴田忠吉  
刈田義門  
三浦吉造  
桑村和右衛門

十 陶器商

陶器は運賃の關係より當地最も割安なり就中門

十二 土崎葯工業組合  
葯工品の本縣産物中農家の副業として有益にし

て且好望の事業たるはいふを俟たず當組合は明治三十四年十一月の設置にして該工品の改良發達を計り價格の平準を保ち共同購入の道を開き縣内各地の産出を奨励し以て北海道の需要に應じ一縣主要の物産たる實を發揚して優に縣事業の主位に立たしめんことを目的とし着々其効果を擧げつ、ありこの組合より北海道に輸入せらる、薬工品現在年額十三萬圓以上なり同組合員は一層この事業を發達せしめ輸出額三十萬圓以上に達せしめんと計畫し居れり組合員の重なるもの左の如し

木田橋重藏  
川口豊吉  
物産委託會社  
小味淵祐助  
高橋吉兵衛

十三 旅人宿

秋田案内中に掲げしを以て其名稱のみを掲ぐ  
村山金十郎  
竹内長九郎  
岩谷豊治  
桑村慶吉  
舟形喜助  
山内辰之助  
佐々木キヲ  
山王丸イシ  
丸山ソノ  
小納谷吉輔  
藤政旅店  
櫻井ミナ  
石黒慶助

十四 料理

この項も秋田案内中に掲げたり池鯉亭は同地中の老舗にして營業開始より茲に三十年に及び近時増築の計畫なりて盛に土木の業を擧げんとしつ、あり又其園内に据置く石の手水鉢は藤肥州か朝鮮より持歸りしと傳ふるものにて往年大隈伯か千金を以て購去らんとせるも主人の應せざりしものにて誠に稀有の大石なり

十五 下駄商

池鯉亭  
武田亭

十六 裁縫店

大山兼松  
船木弟助  
加賀谷下駄店  
小松下駄店  
伊藤萬吉

十七 時計店

須藤市五郎  
古村裁縫店  
中村裁縫店

十八 染物屋

秋元庸之助

十九 理髮店

館山瀧藏  
眞嶋長治

二十 挽材業

田村清水床  
根布谷旭床  
池田鐵五郎  
八柳理髮店  
小林由之助  
挽材會社



池田初五郎  
其他挽材業としては館山松藏、嵯峨龜五郎、小野祐二郎、泉谷木材店等あり

二十一 肴問屋

小林吉十郎

二十二 鐘詰會社

土崎鐘詰會社は數年前の創立にして魚鳥牛豚諸種の鐘詰の外路、八郎湖産の白魚、若鷺等の諸物を發賣し居れり

土崎鐘詰會社

二十三 電燈業

近江谷發電所

近江谷發電所は近江谷榮治氏獨力の經營にして秋田市土崎兩地の需要に應せん爲め三十四年十一月の創立たり資本金八萬圓馬力百馬力千七百

個(十燭換算)にして現在千二百五十個(十燭換算)に點燈し居れり會社及發電所共に同地將軍野の高地にあり

二十五 農園

幸丸 政 幸

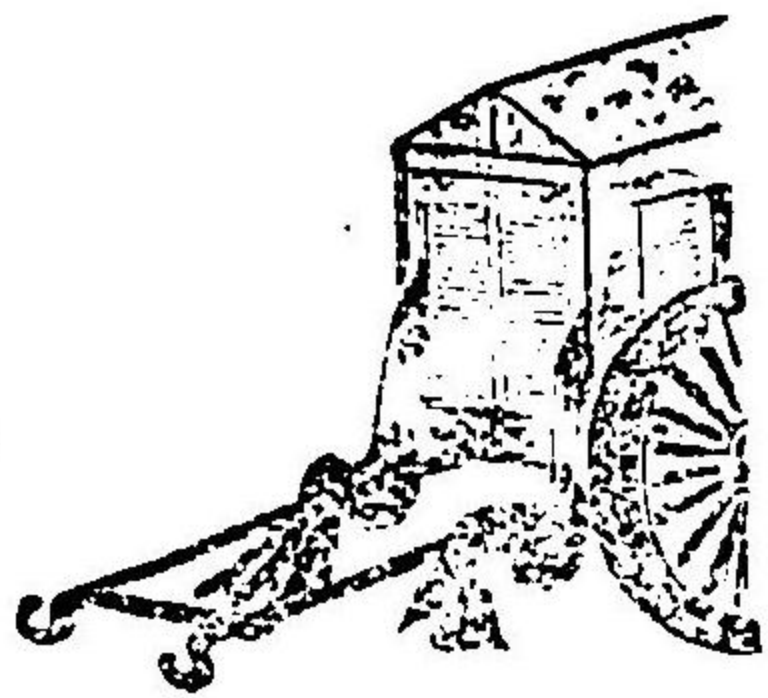
那珂滋養園

幸丸農園はもと秋成社が將軍野開墾に従事して失敗せし遺圖を継ぎ經營多年にして成功せしものなり同氏のこの業に従事せし以來已に二十餘年といふ目下各種の果樹を栽培し旁ら陸稻の試験をなしつ、あり那珂滋養園又將軍野附近にして苹果の栽培と牛乳搾取を兼ね主人は有名なる那珂小一氏なり

二十六 土崎築港の由來

土崎築港は同港民多年の希望なれどもこれを代

表し私資を抛つて奔走盡力せしものは近江谷榮  
 次氏なり曩に同縣會の納る、所とならず一た  
 び失敗せしも次に採納する所となり護岸工事と  
 河口浚渫は已に着手せられ落成の期已に近く唯  
 突堤工事のみや、遷延せしを以て同港民はこの  
 工事の繼續着手せられんことを熱望し居れりこ  
 の築港工事の成功は獨り土崎の爲に生命を寄與  
 するのみならず實に一縣の經濟界に莫大なる利  
 益を興ふること明白の事實なれば當局者もこの  
 希望を納れ突堤工事を繰上げ急速に築港全工事  
 を完結せしむべしといふ



欠

MISSING

○花こよみ

一月

一陽來復とし茲に改りて戸毎に飾る松竹の千歳の色かわらす初日影麗らかに軒に挿む日の丸の旗朝風になびく新玉の歳の初ふり積む去歳の雪かき拂ひて初日の出を拜し畢れば屠蘇を酌み雑養を祝ふ嘉例は都も鄙もかわることなしさて初日の出を拜するは

舊城千秋園

に過ぐるものなし蜿蜒として銀鱗閃く蛇峯の一角より旭日瞳々として紅光萬道天に冲するさま目出度も亦尊し  
新川橋 赤沼三吉神社  
等亦よし借都人間には霞小紋の重着したる美人

を相手に置炬燵して雪見酒と興がるもの多けれど雪に慣れし雪國の人は月花と比べて韻人墨客の賞すなる雪をめでる人少し若し屋内に領を縮めて炬燵辨慶をさめず風流は寒いものと覺悟して郊外に節を曳かば

舊城公園 新川橋 赤沼 泉村

寺内 八橋

なご皆それくの眺あり寒流一管旭川を下るは大奮發を要するなれど川端の旗亭に酒を引いて俯して對岸の雪景を賞するなご又一興ならん

二月

氷雪連旬此地の二月は戸外に出づるすら容易ならじされば爐畔に瓦盆上の梅、福壽草などを賞するより術なし

三月

雪ヤ、消ぬ草色萌出ぬ市上には蜜咲の花を賣る

四月

四月は此地の春なり梅櫻桃李花のいろく一簇して咲出つ先づ梅は

千秋園公園

矢橋日吉神社

梅屋敷

等にして其他市内の人家毎に三五株の梅を栽ぬざるはなし櫻花はもと手形町は花菴の名ありて花時雲幕天をこむるばかりなりしも桑滄の變故に遭ふて今はその俤すら留めす現に櫻花の賞すべき地は

千秋園公園

日吉神社

全良寺

舊

等に過ぎす又縣廳構内、師範學校構内にも頗る梅櫻の花多し桃花の名所は  
南秋田都大久保新開

なるべし追分、大久保兩停車場の中間に在り今はこれを伐尽して多く桑樹を植附たるも尙數百株の殘木ありて花時は錦繡の浪を織る

五月

菜花は八橋、寺内、泉諸村をよしとす新屋、牛嶋兩地にも多し菜花の盛は殘櫻の散終らぬ節なれば八橋、寺内に殘花を賞しながら菜の花の黄金の色を賞するも一興なり  
藤花はもと寶塔寺の花を第一とせしも今は有りやなしや知らず今藤花に名あるは

千秋園公園

八橋藤茶屋

寺内武田亭

等なるべし藤茶屋の藤は花絲長からすと雖も老幹天に蔓りて亭樹園池盡く藤花の下に在り又野藻溪魚他の美なしと雖も尙時に一酌することを

得べし

躑躅は田野大に拓けてこれを伐盡せるもの多し

されど

手形山 泉山 寺内鳥沼

等は尙一遊囑するを得べし

千秋園公園 舊招魂社跡 全良寺

亦可なり

六月

菖蒲は古來より東京の名花にしてこの地の如き  
近來これを移植せるものなり

千秋園公園 富貴見樓

はその最たるもの殊に富貴見樓は貸席にして花  
時はあやめ團子を賣り兼て客の望によりて酒肴  
をも出すなり

七月

蓮花はこの月の末より八月の初までを其時期と  
せん蓮花の多きは舊城の周濠にして圓蓋亭々水  
を出て紅白の花相俣して開く露の朝、月の夕何  
れとして可ならざるなしその他は

聲跡寺 天徳寺 蘭信寺

の如き皆小池に蓮を栽ゆ聲跡寺は其祝融の災に  
罹らざる以前にありては秋城の文人墨客常に筵  
を開て花をこの寺に賞するを例とせり

八月

陰曆の七夕、中元に當る又納涼の好時節なり納  
涼の地は

千秋園公園 新川橋 搦田那波邸

山中別荘 天徳寺 日吉神社 泉熊

野神社 寺内鳥沼 川尻總社の森

等を數ふべし若し數里の地を跋涉せん覺悟なら

ば太平山の御瀑に一遊するも可なりこの地秋田  
 市を距る三里餘なり其他勝手神社は四里、小山  
 の地藏尊は三里、補陀寺は三里、愛染は三里前  
 後ならんか旗亭にして涼を買ふべきは  
 俱樂部別館 龜清 松風亭 池鯉亭  
 武田亭 新屋三浦亭  
 等ならんか

九月は陰曆の八月にして中秋の好時節なりこの  
 地海を西にするを以て金丸波上に躍る奇觀を目  
 する能はずと雖も江山の勝景に富むこと由來多  
 きを以て賞月の地亦隨て少なからず  
 千秋園公園 赤沼三吉神社 搦田那波  
 邸 天徳寺 新川橋 新屋天龍寺  
 八橋寶塔寺

等は最も月を観るに宜しく酒樓にては  
 俱樂部別館 舊城松風亭 川端龜清  
 穴門つり堀 池鯉亭 武田亭  
 の如き其最なるものならん新川橋の二軒茶屋亦  
 酒鮮の美なしと雖も雄物川に網を下し直に割て  
 一夕を賞し得べきなり  
 蟲を聴くの地は左の如し  
 千秋園 手形山 泉山 寺内 將  
 軍野

月白く風清き夕笥をど、めて唧々の聲を聞く他  
 の絲肉の聲に勝る萬々なり  
 十月  
 菊を賞するの地は千秋園公園のみなり他は座敷  
 中幾多の陶彭澤ありてよく客を延てこの隱逸の  
 花を賞せしむ

十一月

霜下り天寒く四山の紅葉や、観るべきものあり

十二月

窮陰の天、荒涼の地野外笥を曳くの所なし



欠

MISSING



郵便電信略則

▲郵便税

○信書 目方四匁迄參錢 全八匁迄六錢  
 以上右の割合を以て目方四匁迄を増す毎に税金參錢つゝを増して納むべし

○書籍類並に見本 目方三十匁迄貳錢 同六十匁迄四錢  
 以上右の割合を以て目方三十匁迄を増す毎に税金貳錢つゝを増して納むべし  
 但書籍は一個の目方三百匁迄見本及び雛形は一個の目方百匁迄に限るべし

○官報並遞信省認可の文字ある新聞雜誌類  
 一號一個にて差出すものは  
 目方二十匁迄五厘 同四十匁迄壹錢  
 以上右の割合を以て目方二十匁迄を増す毎に税金五厘つゝを増して納むべし  
 但一個の重量三百匁迄を過ぐべからず  
 二號又は二個以上を一束にして差出すものは  
 目方二十匁迄壹錢 同四十匁迄貳錢  
 以上右の割合にて目方二十匁迄を増す毎に税金壹錢つゝを増して納むべし

但一束の重量前同斷

▲郵便物の大きさ

容積 長曲尺 一尺三寸  
 幅曲尺 八寸五分  
 厚曲尺 五寸

一 別配達料一箇に付 市内は金拾錢 市外は金參拾錢 〇他の郵便區内に配達するときは差出人指定の配達局と名宛地所轄の郵便局との里程に應じ別に一里迄毎に金拾五錢を加徴す 〇船料は市内市外に拘らず別に其の實費額を受取人より追徴す 受取人之を納付せざる時は差出人より追徴す

二 留置通知料 一箇に付 金參錢

三 配達証明料 一箇に付 金參錢

四 書留料 一箇に付 金七錢

五 價格表記料 〇表記金額拾圓迄は金七錢 〇拾圓以上百圓迄は其の超過したる額に對し拾圓迄毎に金五錢 〇百圓以上千圓迄は其超過したる額に對し拾圓迄毎に金四錢

六 代金引換料 一口に付 金五錢

七 現金取立料 一口に付 金五錢

▲郵便爲替

○通常為替  
通常為替証書一枚の金高は五拾圓以下として端數は厘位を限りとす

金高拾圓迄	六錢
同 參拾圓迄	拾錢
同 四拾圓迄	八錢
同 五拾圓迄	拾錢

在清國本邦郵便局と内地各局間通常為替料

金高拾圓迄	拾錢
同 參拾圓迄	拾錢
同 四拾圓迄	拾錢
同 五拾圓迄	拾錢

▲電信為替

小為替は五圓迄	五拾錢
同 參拾圓迄	拾錢
同 四拾圓迄	拾錢
同 五拾圓迄	拾錢

電信為替証書一枚の金高は五拾圓以下とし壹圓に満たざる端數を差出すべからず

金高拾圓迄	參拾錢
同 參拾圓迄	拾錢
同 四拾圓迄	拾錢
同 五拾圓迄	拾錢

内地臺灣

金高拾圓迄	五拾錢
同 參拾圓迄	七拾錢
同 四拾圓迄	八拾錢
同 五拾圓迄	九拾錢

金高拾圓迄	壹圓
同 參拾圓迄	壹圓
同 四拾圓迄	壹圓
同 五拾圓迄	壹圓

金高拾圓迄	壹圓
同 參拾圓迄	壹圓
同 四拾圓迄	壹圓
同 五拾圓迄	壹圓

金高拾圓迄	壹圓
同 參拾圓迄	壹圓
同 四拾圓迄	壹圓
同 五拾圓迄	壹圓

▲内國電信

○電報料(一市内を除く)  
一和文片假名十五字以内 貳拾錢 五字を加ふる毎に 五錢  
一歐文五語以内 貳拾五錢 一語を加ふる毎に 五錢

○市内電報料

一和文片假名十五字以内 拾錢 五字以内を加ふる毎に 參錢  
一歐文五語以内 拾五錢 一語を加ふる毎に 參錢

發信人住所氏名

和文は賴信紙の餘白に記載すべし然る時は無料なり去れど受信人へ傳送さるる時を欲すれば本文に引續き末尾に記すべし然る時は本文と同じく字數を計算して電報料を徴せらる

受信人住所氏名 は無料なりされど幾名も認むれば一名の外は有料とす受信人は同一住所なれば幾名にても記入するも料金はへ拂へは差支なし

歐文電報の住所氏名は總て之を語數に算入す

○郵便にて電報を差出すときは別使配達電報にて三里以上の別使料を豫納すべき者の外普通郵便料に限り無料なり

○追尾電報料は追尾一回毎に原信電報料と同一とす

○同文電報料は原信を除くの外(十通以内)一通毎に 和文拾錢 歐文拾五錢

○照按電報料 通常電報料の四分一

○至急私報の電報料 通常電報料の三倍とす

○受電報料 和文十五字の料金 歐文五語の料金

○別使配達料 一通毎に貳拾錢

但し三里を超える時は二里以内毎に(受使人より徴收)貳拾五錢増發信人にて納付するときは別使配達の際存號の次に(ホウチ)と記し配達里程通知に要する電報料を假納すべし

○外國郵送電報 本邦内の局所より外國へ郵便を以て送達する電報は一通に付貳拾錢

○電報に用うる指定事項の略符號は左の如し  
至急ウナ DR、至急親展ウニ DG、返信料前納ナ

ツ RP、返信至急ナウ NU、返信照按ナム RI、照

校ムニ TC、電報受信報知ツニ PC、郵便受信報

知ツ PP、追尾テラス TS、再送ナチ RE、同文ヨ

ム TM、同文連名ヨイ MA、外國郵送ツク TP、留

置ムナ TR、別使配達マツ XP、解船配達ハホ BD

青	新	大	浪	川	弘	弘	大	碓	陣	白	大	大	早	鷹	二	能	能	森	鹿	五	驛
森	城	大	浪	川	弘	弘	大	碓	陣	白	大	大	早	鷹	二	能	能	森	鹿	五	驛
着	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發
10	09	09	08	08	08	07	07	07	07	07	07	07	07	08	08	07	07	07	07	06	06
05	06	06	05	05	05	05	05	05	05	05	05	05	05	06	06	05	05	05	05	04	04
12	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	10	10	10	10	09	09
13	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	11	11	11	11	10	10
14	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	12	12	12	12	11	11
15	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	14	14	13	13	13	13	12	12
16	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	14	14	14	14	13	13
17	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	16	15	15	15	15	14	14
18	17	17	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	17	17	16	16	16	16	15	15
19	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	18	18	17	17	17	17	16	16
20	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	19	19	18	18	18	18	17	17
21	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20	19	19	19	19	18	18
22	21	21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	21	21	20	20	20	20	19	19
23	22	22	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	22	22	21	21	21	21	20	20
24	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	23	23	22	22	22	22	21	21
25	24	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	23	23	23	23	22	22
26	25	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	25	25	24	24	24	24	23	23
27	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	26	26	25	25	25	25	24	24
28	27	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	27	26	26	26	26	25	25
29	28	28	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	27	27	27	27	26	26
30	29	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	29	29	28	28	28	28	27	27
31	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	30	30	29	29	29	29	28	28
32	31	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	30	30	30	30	29	29
33	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	32	32	31	31	31	31	30	30
34	33	33	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	33	33	32	32	32	32	31	31
35	34	34	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	34	34	33	33	33	33	32	32
36	35	35	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	35	35	34	34	34	34	33	33
37	36	36	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	36	36	35	35	35	35	34	34
38	37	37	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	37	37	36	36	36	36	35	35
39	38	38	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	38	38	37	37	37	37	36	36
40	39	39	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	39	39	38	38	38	38	37	37
41	40	40	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	40	40	39	39	39	39	38	38
42	41	41	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	41	41	40	40	40	40	39	39
43	42	42	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	42	42	41	41	41	41	40	40
44	43	43	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	43	43	42	42	42	42	41	41
45	44	44	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	44	44	43	43	43	43	42	42
46	45	45	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	45	45	44	44	44	44	43	43
47	46	46	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	46	46	45	45	45	45	44	44
48	47	47	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	47	47	46	46	46	46	45	45
49	48	48	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	48	48	47	47	47	47	46	46
50	49	49	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	49	49	48	48	48	48	47	47

鐵道發着時間及賃金表

鐵道發着時間及賃金表 (賃金は三等を示す)

別使料電報々知マムX.L.別使料郵便報知マヨ  
 M. 書留郵便配達ッナPR. 無續配達ナレRO.  
 局待マムWT. 親展ニカCI.



鐵道發着時間及賃金表

仙岩	岩	利	松	鹿	小	瀬	新	石	花	ノ	ノ	平	前	水	金	黒	花	石	日	矢	盛	盛	好	
臺切	切	府	嶋	嶋	牛	峯	田	越	泉	關	關	泉	澤	澤	崎	澤	尻	卷	鳥	詰	幅	岡	岡	摩
着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發	着發
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
八三三	八三〇	八二二	七四四	七二八	七〇八	六〇七	六〇七	五五五	五五三	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
二二二	二二二	二二二	二〇〇	二〇〇	九二九	九二七	九二七	八〇四	八〇三	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
六二七	六二六	五五三	五〇九	四九四	四九三	三三三	三三三	二二二	二二二	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
八四二	八三六	八二八	七二二	七二二	六二〇	六二〇	六二〇	五五五	五五五	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
一〇四	一〇三	一〇三	九九	九九	九〇	八八	八八	七七	七七	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
五五五	五四三	五三三	四九	四二	四二	四二	三三	三三	三三	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
三二八	三二九	三〇〇	二九〇	二八五	二七〇	二六五	二五九	二五九	二四九	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

九十九

川	沼	中	小	一	福	三	劔	尻	下	古	沼	乙	野	狩	小	淺	野	浦	青	驛			
口	宮	山	鳥	ノ	岡	ノ	吉	内	内	田	間	崎	邊	邊	邊	虫	内	町	森	名			
發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發	發發		
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
一〇九	九二〇	八八七	八八七	八八七	七七〇	七七〇	六六〇	六六〇	五五〇	五五〇	五五〇	四四〇	四四〇	四四〇	三三〇	三三〇	三三〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
五〇五	四四七	四四七	四四七	三三〇	三三〇	三三〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	一一〇	一一〇	一一〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
九二〇	八八七	八八七	八八七	七七〇	七七〇	六六〇	六六〇	五五〇	五五〇	五五〇	四四〇	四四〇	四四〇	三三〇	三三〇	三三〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
三二八	三二九	三〇〇	二九〇	二八五	二七〇	二六五	二五九	二五九	二四九	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

青森上野間(日線)

九十八

鐵道發着時間及賃金表

Table with columns for stations: 大宮, 蓮田, 久喜, 栗橋, 古河, 間々田, 小山, 小山, 小金井, 小石橋, 石橋, 雀宮, 都宮, 都宮, 岡本, 寶積寺, 氏家, 片岡, 矢板, 野崎, 西野, 東野, 黒野, 黒野, 豊原, 豊原. Rows contain numerical data and '發着' labels.

Table with columns for stations: 白河, 白河, 泉崎, 須賀川, 須賀川, 郡山, 郡山, 日本山, 日本山, 二本宮, 二本宮, 福嶋, 福嶋, 桑折, 藤田, 越前, 白河, 大河, 規木, 岩沼, 岩沼, 岩沼, 増田, 長田, 仙臺. Rows contain numerical data and '發着' labels.



小鳥谷發	中山發	沼宮內發	川口發	好摩發	盛岡發	盛岡發	矢幅發	日詰發	石鳥谷發	花卷發	黒沢尻發	金沢發	水澤發	前澤發	平泉發	ノ関發	ノ関發	花巻發	石越發	新田發	瀬田發	小田發	鹿嶋發	松嶋發	
六二〇	五八五	五四四	四三三	三三三	三三三	三三三	三二一	二九〇	二四八	二二八	二一五	一八六	一五六	一五六	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五	一三五
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

利府發	岩手切發	岩手切發	仙臺發	仙臺發	長町發	岩沼發	岩沼發	岩沼發	大槲木發	白石河原發	越前石河田發	藤田發	桑折發	長岡發	福嶋發	福嶋發	松川發	二本松發	本宮發	日和田發	郡山發	郡山發	須賀川發		
九四九	九三六	九三六	九三三	九三三	八三三	八三三	八三三	八三三	七三五	七三五	七三五	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...





仙臺鹽竈間

下り	上り
仙臺發 午前 五時 岩切發 午前 五時三十分 鹽竈發 午前 五時四十分 仙臺發 午前 六時 岩切發 午前 六時三十分 鹽竈發 午前 六時四十分 仙臺發 午前 七時 岩切發 午前 七時三十分 鹽竈發 午前 七時四十分 仙臺發 午前 八時 岩切發 午前 八時三十分 鹽竈發 午前 八時四十分 仙臺發 午前 九時 岩切發 午前 九時三十分 鹽竈發 午前 九時四十分 仙臺發 午前 十時 岩切發 午前 十時三十分 鹽竈發 午前 十時四十分	仙臺發 午後 五時 岩切發 午後 五時三十分 鹽竈發 午後 五時四十分 仙臺發 午後 六時 岩切發 午後 六時三十分 鹽竈發 午後 六時四十分 仙臺發 午後 七時 岩切發 午後 七時三十分 鹽竈發 午後 七時四十分 仙臺發 午後 八時 岩切發 午後 八時三十分 鹽竈發 午後 八時四十分 仙臺發 午後 九時 岩切發 午後 九時三十分 鹽竈發 午後 九時四十分 仙臺發 午後 十時 岩切發 午後 十時三十分 鹽竈發 午後 十時四十分

鐵道乘客心得

切符効用

鐵道局線五十哩以上の切符通用期限は左の如し

五十哩以上百哩未満	一日
百哩以上二百哩未満	二日
二百哩以上三百哩未満	三日
三百哩以上四百哩未満	四日
以上この割なり	

歳未滿は半額

公衆電報取扱

東京青森間 上野、王子、赤羽、大宮、小山、石橋、宇都宮、矢板、西那須野、黒磯、矢吹、庭坂、長岡、大河原、槻木、岩沼、増田、長町、仙臺、松嶋、小牛田、新田、花泉、前澤、石鳥谷、日詰、盛岡、沼宮内、中山、尻内、下田、沼崎、小湊、淺虫、青森

青森五城目間 青森、大釋迦

福嶋舟形間 庭坂

五城目青森間 大館、弘前

青森東京間 野邊地、尻内、一ノ戸、盛岡、一ノ關、仙臺、岩澤、白石、福嶋、郡山、白河、黒磯、宇都宮、小山、大宮、赤羽

福嶋舟形間 米澤、山形

旅客携帶品一時預入れの手續

預り品は一個に付一日毎に左の賃金を要す

一重量三十斤以下	一日金貳錢
一重量三十斤以上	一日金四錢

自轉車又は小兒車一日に付金五錢

預り品は預け入の日より一ヶ月を限りとし紛失毀損に對する賠償額五拾圓以内とす

鐵道乘客心得

日鐵線の青森上野間も亦前例に同じ但し三百哩以上四百哩未満五日四百哩以上は六日

日鐵線青森上野間五十哩以上の切符を所持の者は左記の各驛に下車することを得

赤羽、新宿、大宮、小山、宇都宮、西那須野、黒河原、白河、郡山、福嶋、岩沼、仙臺、岩切、鹽竈、松嶋、一ノ關、平泉、盛岡、尻内、青森

南北官線には 弘前、能代、米澤、山形

青森東京間 日鐵線一等金十三圓三錢二等八圓六十九錢三等五圓七十九錢なり同局線青森より五城目まで一等(欠)二等二圓六十三錢三等一圓五十錢なれば五城目より東京まで二等十一圓三十二錢三等七圓二十九錢なり

舟形福嶋間 一等(欠)二等金二圓四十四錢三等一圓三十八錢にして舟形東京間二等五圓九十二錢三等三圓七十一錢なり

黒澤尻東京間 一等八圓八十錢二等五圓八十七錢三等三圓九十一錢なり

乘車賃金 小兒四歳未滿無賃四歳以上十二

但し爆發又腐敗し易きもの、他品を汚損する虞あるもの、荷拵不完全のもの、重量百斤以上のもの又は蕙包其他長大のもの等は預け入る、を得ず

貨物運送便運送規定

一貨物運送便は貨物の個數により計算し一個五十斤若しくは五十斤未滿毎に左記の賃金なり

但し樽物俵物の類にして斤量に一定標準あるものは斤量の端數を切捨て取扱ふことあるべし

哩程 百哩 二百 三百 四百 五百

運送	四拾	四拾	五拾	五拾	六拾	七拾	八拾
賃金	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

二左記の貨物及之れに類似のものは貨物運送便により運送をなさざるものとす

一 生絲、繭、絹布、生皮等、麥草、眞田、燈心、葉、葉煙草、織物器械、寒天、木製箱鳥類、小兒車、干糸瓜、帽子類、紙細工品、生鳥、生獸

但し時宜により所定賃金の倍額を徴収して取扱ふことあるべし

一 危險品 一 死體 一 貴重品取扱となすべし

**物品**  
 一 重大の物品（一個の量二百斤以上若しくは才積四十立方尺以上の物品）  
 三 貨物速達便は鐵道作業局運輸部の定むる區域内に於ける受取人住所に配達するものとす  
 但し區域外に配達するときは配達料を徴収す  
 四 貨物速達便による貨物は荷造を完全にし且發送人受取人の住所姓名を明瞭に記したる木札二枚を附し托送すべし  
 五 貨物速達便列車及貨物速達便の取扱を爲す停車場は鐵道作業局運輸部に於て時々之を定む  
 ▲貨車借切並に割引賃金  
 ◎三級品以下の貨物一品積は一哩一噸に付金貳錢五厘高級品は四錢の割合なり  
 ◎級外品第一種生獸にして斤量を以て運送せざる場合には牛馬匹一車一噸ニ付二頭まで十二錢二頭以上一頭を増す毎に三錢駒は六頭まで十二錢六頭以上一頭を増す毎に一錢なり  
 ◎級外品第二種危險品は通常扱百斤一哩に付七厘貸切扱一噸一哩ニ付二錢五厘なり  
 ◎級外品第三種車輛類中一車一哩ニ付自轉車は

一 錢五厘、人力車は一錢五厘、小兒用車は一錢五厘、馬車は十五錢、荷車及荷馬車は十錢、機關車及炭水車にして自己の車輛にて運轉するものは一哩一噸二錢五厘自己の氣力にて運轉するものは一哩一噸一錢五厘客車及貨車の二軸又は三軸又は三軸以上のもの自已車輛にて運轉するものは一車一哩ニ付二錢と四錢なり  
 ◎大貨物發着手数料は通常扱一、二、三、高級品とも百斤に付二錢、噸扱一噸に付十五錢、貸切扱一噸に付十錢、牛馬匹一車に付二頭まで三十錢二頭以上一頭を増す毎に五錢、級外品通常扱百斤に付二錢貸切扱一噸に付十錢自轉車人力車小兒車各二錢、馬車荷馬車各五十錢、荷車十錢、客車貨車四十錢、機關車炭水車十錢なり  
 ◎斤に依り計算するものは五十斤未満は五十斤に、噸に依るものは一噸に、通常扱貨物にて一車を要するものは三噸未満三噸に、貸切貨物は一輛未満一輛に、哩程五哩未満は五哩に、一哩未満は一哩に切上く  
 ◎輕量高品にして別に定むる品目に該當するものは一尺立方二斤以下のもの五倍、全四斤以下のもの三倍、全六斤以下のもの二倍の實斤量

を増す  
 ◎長十八尺以上若しくは三噸以上の潤大なるものは五割長さ三十六尺若しくは五噸以上のものは十割の増賃金なり  
 ◎貴重品増賃金は二十五哩未満價格百圓に付五錢、五十哩未満全十錢、百哩未満全十五錢、二百哩未満全二十錢、二百哩以上二百哩未満毎に五

錢なり  
 ◎動物托送賃金は五十哩未満價格十圓ニ付五錢百哩未満十錢、二百哩未満全十五錢、二百哩以上二百哩毎に五錢なり  
 ◎貨物保管料は五十斤未満毎に二錢、一噸未満毎に五十錢、一輛ニ付二圓なり

旅客手荷物並ニ小荷物運賃

里程	無賃制限旅客列車にて旅行する行商 外手荷物亦呼賣商の所持する商品 但し最低賃金五錢		小荷物 編織工、漆器、造花、帽子、輕便家具等及馬類 其他小獸虫 子犬、子豕	
	但し最低賃金五錢	目方廿五目方五十目方百斤	金五錢	最低賃金拾錢
二十五哩迄	一斤ニ付 壹錢拾	拾錢	一斤ニ付 壹錢貳	一斤ニ付 壹錢貳
五十哩迄	壹錢五厘	拾五錢	拾五錢	拾五錢
百哩迄	同	同	同	同
百哩以上五十哩未滿毎に同五厘	同	同	同	同

右に掲げる賃金は運送里程平  
 右に掲げる賃金は運送里程平  
 右に掲げる賃金は運送里程平

◎自轉車、小兒車は一輛一哩ニ付二錢最低運賃四十錢

◎手荷物小荷物の保管料は一個ニ付二十四時間若しくは未滿毎に三十斤まで貳錢、百斤まで四錢百斤以上六錢なり(貴重品は二倍)

◎以上掲ぐる賃金の厘以下は錢に、一斤未滿は一斤に、一斤未滿は一斤に切上ぐべし

◎運送中に起りたる損失は持主の引受にて鐵道局は其責に任せず

◎以上掲ぐる賃金は持込配達の賃金を込めず然れども小荷物に限り其請取人の宿所まで配達すべし但配達賃は十斤迄の物品は金五錢十斤以上は十斤(若しくは十斤未滿)毎に金壹錢の割合を以て送出人より受取るべし

◎手荷物賃金は必ず前拂たるべしと雖ども發驛にて受取らざる場合に於ては中間驛或は着驛にて受取るべし

◎小荷物及其他の物品は托送せんとする列車の刻限より少くも二十分前に「ステーション」の小荷物取扱所に渡すべし否らざれば其次の列車にて運送する事あるべし

◎金銀貨並地金銀、寶石、金玉細工物、紙幣、郵便

切手及金銀に係る證書等貴重品は左の割合を以て運送すべし

里程	金銀貨並地金銀紙幣郵便切手、葉書、寶石、金玉細工物、印紙、有價證書、金
二十五哩迄	最低賃金五拾錢 最低賃金壹圓
五十哩迄	同 三錢同 三拾錢
百哩迄	同 四錢同 四拾錢
百哩以上五十哩(若しくは五十哩未滿)毎に	同 壹錢同 拾錢

◎白銅貨、牛絲、絹絲、絹織物、組物、編物類の運賃は手荷物運賃と同一なり但最低運賃二十五錢

◎鐵道局は托送の貴重品を安全に運送し及受渡を爲すため相當の注意を加ふべし然れども増賃金を支拂たる外は損失は一切其責に任せず

◎以上は官線鐵道規定

明治三十五年十月一日印刷  
 明治三十五年十月二十日發行

(定價金三拾錢)

著作者兼  
 發行人

秋田縣秋田市龜ノ丁堀端新町四番地  
 山方石之助

印刷者

秋田市保戸野表諏訪町二十一番地  
 木村末治

印刷所

秋田縣秋田市大町二丁目二番地  
 癸己活版所

賣捌所

秋田市茶町菊ノ丁	成見曙堂	本莊町(學校向)	金子書店
秋田市縣廳脇	大嶋開成堂	大曲町	榊田繁治
同上	岩谷商店		

資本金 參拾萬圓 本社東京日本橋區小舟町三丁目

保險金 千百六拾參萬四千貳百圓 社長 安田善助

責任準備金 百拾貳萬貳千七百七拾圓 監督 安田善次郎

# 共濟生命保險株式會社

## 本社ノ特色

## 秋田出張所

秋田市大町三丁目  
主任 牧野勇造

一 本社ノ保險ハ保險金ノ受取期限ヲ定メテ契約スルモノ、一種ナレバ生死ニ不拘保險金ヲ受取ルコトヲ得ベク又養老保險ト終身保險トヲ兼テ併セテ其他ノ短期保險ニモ代用スルコトヲ得ベシ

一 本社ノ被保險人ハ如何ナル職業ヲ執ルモ保險料ノ割増ヲ爲サス又其割引ヲモナサス

一 本社ハ利益金ヲ被保險人ニ分配ス故ニ保險料ハ割合上最モ低廉ナリ且金壹萬圓迄契約ス詳細ハ當出張所又ハ各代理店ニ御照會被下度御申越ニヨリ社員出張可仕候

